



2010年 第25号

TOLだより

トータル・オリンピック・レディース会

one dream by one Olympian

「第25号記念対談」

橋本聖子のSeiko's Cafe
ゲスト／王 貞治

「第25号記念特集」

TOLだよりのあゆみ
63のMessages

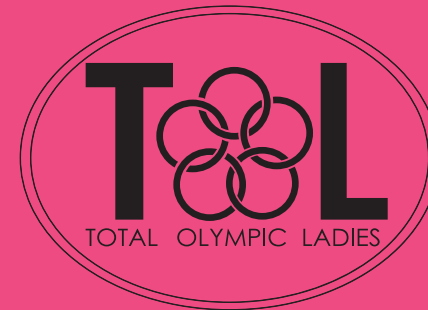
【TOL会 25周年記念イベント】

オリンピック&パラリンピアン協働イベント
More Sports + More Dreams
もっとスポーツ! もっと夢!

フォーラム2009
オリンピックズネット

TOLだより

2010年第25号



第25号 特別記念号

TOTAL OLYMPIC LADIES
The 25th commemoration

トータル・オリンピック・レディース会

おかげさまでTOLだよりは
今号で25号を迎えることができました。
これもひとえにみなさまの多大なるご協力の賜物と
感謝の気持ちでいっぱいです。
これからもTOLだよりにご支援賜りますよう、
よろしくお願い申し上げます。



collaboration of
Olympian + Paralympian
More Sports+More Dreams
2010



トータル・オリンピック・レディース会創立25周年記念
オリンピック&パラリンピアン協働イベント
More Sports + More Dreams 2010
もっとスポーツ！ もっと夢！



《すべてのみなさまに感謝の1日でした》

参加者の中学生、高校生のみなさん、あたたかい声援を送っていただいた観客のみなさん、各競技を代表するパラリンピアンのみなさん、そして競技の壁を越えて参集したオリンピックのみなさんに感謝を申し上げます。会場はおよそ400名の熱気、笑顔につつまれ、かけがえない素晴らしい一日を共にすることができました。

ご指導、ご協力、そしてご後援、ご協賛をいただいたみなさまに心より感謝を申し上げます。何より様々なかたちでサポートに徹していただいた有志、スタッフのみなさまに深く感謝を申し上げます。

「もっとスポーツ！ もっと夢！」味の素ナショナルトレーニングセンターの1日をご報告いたします。

- 日 時 ● 2010年5月29日土曜日 午後13時～16時
会 場 ● 味の素ナショナルトレーニングセンター共用コート
主 催 ● トータル・オリンピック・レディース会
協 力 ● 一般社団法人日本パラリンピアンズ協会
後 援 ● 財団法人日本オリンピック委員会、特定非営利活動法人日本オリンピック協会、
財団法人日本障害者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会、
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
特別協賛 ● 山本化学工業株式会社
協 賛 ● 株式会社アシックス 株式会社コーセー サントリービジネスエキスパート株式会社
株式会社デサント 丸大食品株式会社 ミズノ株式会社 株式会社わかさ生活
(ご紹介五十音順)

ボランティアスタッフ派遣協力 ● ロート製薬株式会社



T O L (トータル・オリンピック・レディース) 会

東京オリンピックから二十年目の一九八四年十月十日、当時の出場者六十名が集まって、親睦の会を持ったことをきっかけとして、戦前、戦後を通じて、オリンピックに出場した女子選手の会を作ろうというので、翌一九八五年十月十日、正式に発足しました。

一九二八年のアムステルダム大会に日本女性初のアスリートとして人見絹枝選手(陸上)が出場してから約八〇年の月日を経て、現在、二〇一〇年バンクーバーまでの一〇〇〇名を超える会員で構成されています。

オリンピック出場の実験を果した女性たちが集まり、会員相互の親睦を深めながら、女性スポーツの向上・社会体育の振興を目的として活動しています。

年一回の総会のほか、フォーラムや、TOLだよりの発刊、全国各地で体験を生かした講演、実技指導、雑誌等での対談など積極的に取り組んでいます。

車椅子バスケットボール

参加者 パラリンピアン：神保康広選手（バルセロナ、アトランタ、シドニー、アテネ）、根木慎志選手（シドニー）
体験参加者の子供たち：33名



陸上

参加者 パラリンピアン：佐藤真海選手（アテネ、北京／走り幅跳び）
オリンピック：末續慎吾選手（シドニー、アテネ、北京／短距離）



閉会あいさつ / 参加者のお見送り



【運営】 全体統括 橋本聖子、ゲスト統括 竹宇治聡子、スタッフ統括 吉田昌子、運営統括 友寄美江子、
トーク司会/柔道 山口 香、受付統括 齊藤美佐子、柔道担当/会計 北田典子、
広報/ボランティア 村山よしみ、準備担当 長崎宏子、陸上担当/受付 藤本正子、ゲスト管理 坂 佳代子、
バレー担当 白井貴子、運営/会計 千種寿代、運営管理 高柳裕子、柔道担当/誘導 田辺陽子、
案内統括 春岡杜史子、受付管理 佐野智恵子、デモ体験司会 陣内貴美子、デモ体験司会 田中雅美、
広報統括 永田千恵、企画統括 金光貞幸

【協力会員】 田村悦智子、丸山由美、中田久美、永富有紀、河合彩、松村則子、小谷理貴子、増田明美、柴田亜衣
【運営協力】 一般社団法人 日本パラリンピアンズ協会の皆さま、伊藤数子、金子恵美子、佐々木ゆみ、佐藤真海、
小川一平、佐藤剛基、姉崎由佳、国土館大学柔道部の皆さま、H2O企画の皆さま、千種尚紀、友寄英憲、
高木理賀子、杉山恭平、小俣正樹、井原繁安、長友康浩、石崎唯 (ご紹介 順不同・敬称略)

バンクーバーオリンピック／パラリンピック報告

トーク ▶▶オリンピックとパラリンピックの魅力を語る

オリンピック：岡崎朋美、清水宏保、末續慎吾、浅田真央
パラリンピアン：河合純一、佐藤真海、上原大祐、太田渉子
司会 山口 香



橋本聖子 大日方邦子選手



スポーツコミュニケーション (デモンストレーション&パラリンピック競技体験)

シットイングバレーボール

参加者 パラリンピアン：シットイングバレーボール日本代表選手
日本シットイングバレーボール協会会長：真野嘉久
オリンピック：白井貴子、田村悦智子、吉田昌子、丸山由美、中田久美、永富有紀
体験参加者の子供たち：22名



司会 陣内貴美子・田中雅美



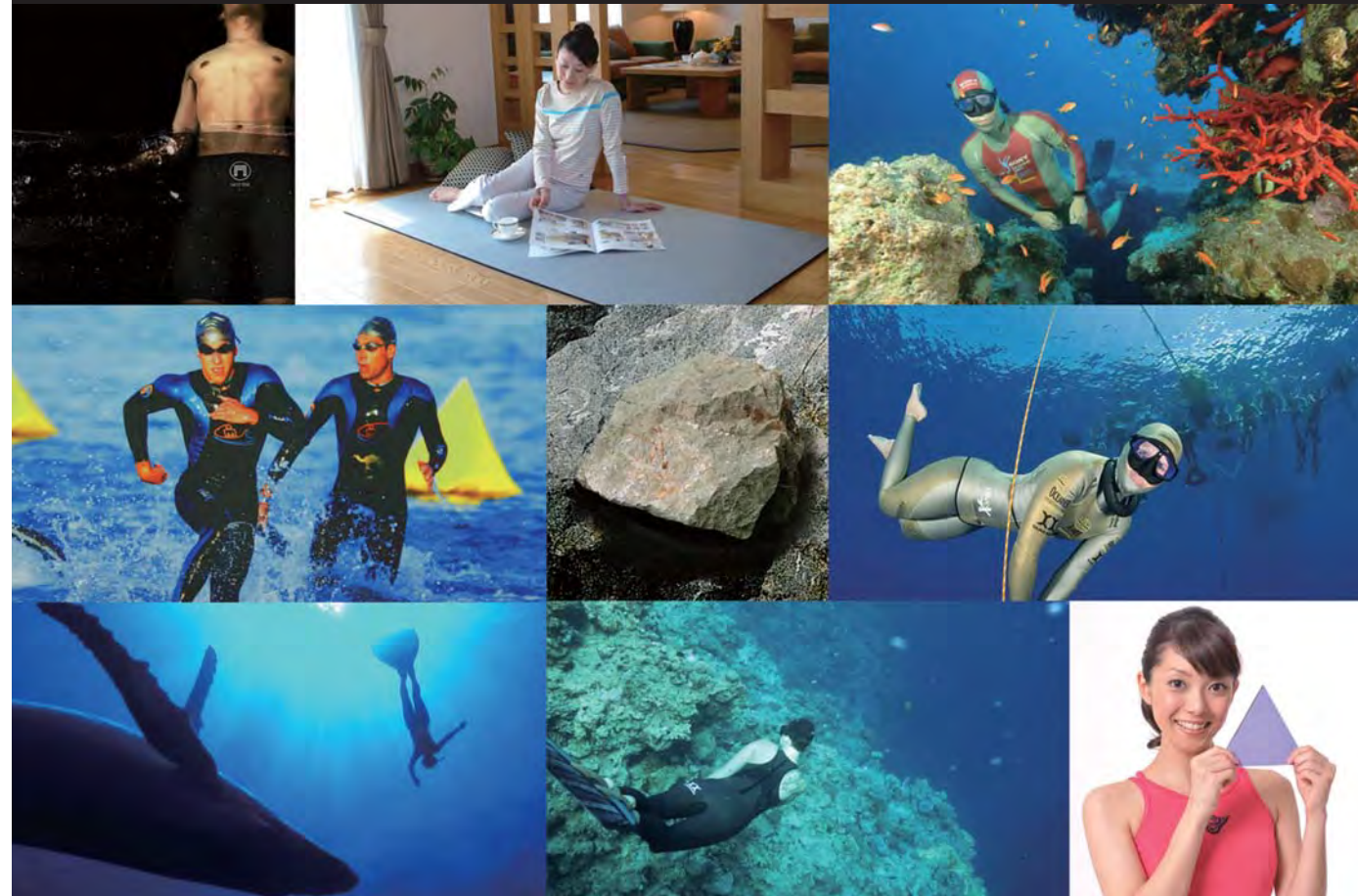
オリンピック VS パラリンピアン
参加者の子供たち

ブラインド柔道

参加者 パラリンピアン：牛窪多喜男（ソウル、バルセロナ、アトランタ）、加藤裕司選手（アテネ）、赤塚正美選手（アテネ、北京）、初瀬勇輔選手（北京）
オリンピック：山口香、北田典子、田辺陽子
体験参加者の子供たち：28名



ブラインド柔道を体験



ごあいさつ



TOL 会長
橋本 聖子

昨年、TOL会は設立25周年を迎え、今号でTOLだよりは第25号となりました。これまでお支えいただいたみなさま方に心から感謝いたしております。

それを記念し、本年5月29日には、ナショナルトレーニングセンターにおいて、TOL会設立25周年記念「もっとスポーツ！もっと夢」を開催いたしました。25周年の節目に、オリンピック、パラリンピックの協働のもと、盛大なイベントを開催することができ、誠にありがとうございました。当日は400名のみなさまが集い、会場には熱気が満ちていました。みなさまの笑顔、特に子どもたちの目の輝きを見たとき、「日本はまだ大丈夫」と心強くもありました。

スポーツは子どもたちの心身の健全な発達にとって不可欠であり、人間形成にも、とて

も大きな影響を与えます。また、世代や立場、国境を越えた交流を可能とする人類共通の創造的文化であるといえます。

「文化とは経済と同じ闘いである」―フランス文化大臣だったジャック・ラング氏の言葉です。この鮮烈さに比べ、わが国の場合、文化とは「遊び」であり、衣食住が満ち足りて初めて顧みられるものと考えられがちで、闘うという気概はまったく感じられません。文化の中でもスポーツは特に軽んじられてきたように思います。

本来、経済と文化は矛盾するものではなく相乗効果が期待されるものです。例えば、文化の根幹をなす芸術、スポーツ、学術・技術について、その頂点が高くなり活性化すれば、その野が広がります。それに伴って新たな需要や高い付加価値、雇用が生まれ、文化は産業化します。戦後の日本は、あらゆる主要産業で先進国に追いつき、自動車産業やロボットの産業など世界の最先端技術を誇る分野も少なくありません。しかし、スポーツ産業に関しては、欧米先進諸国に比べて著しく見劣りしています。現在、わが国にはスポーツ関連市場が約4兆3000億円存在していると考えられますが、アメリカでは約15兆円ともいわれています。

オリンピックやワールドカップなどを振り返ると、アスリートの活躍が国民にもたらす

感動は計りしれません。その教育効果の高さ、エンターテインメントとしての影響の大きさを他の何かで代替することはできないと思います。しかし、わが国の競技スポーツの強化費は、あまりにも貧弱です。

また、日本ではアスリートのセカンドキャリアが確立せず、生活や将来のことを心配しながら競技生活を送るケースが少なくありません。しかし、例えばイギリスでは14〜17歳で選抜されたユース・エリートは政府機関の指導の下、自身のスポーツ・教育・人生をきっちりスケジューリングしています。広く国民が正しい指導によりスポーツを楽しむようになれば、医療費の削減にも資するはずですよ。

振り返ると、現役アスリート時代は多くの人々に助けていただきました。家族や友人、コーチや先輩方に支えていただいていたその選手生活だったと改めて思います。こうしたご恩は大きすぎて直接返せるものではありませんが、後進のアスリートたちを支えることで、少しずつ返していけたらと思います。また、スポーツの楽しさ、素晴らしさ、そして努力し挑戦することの大切さを一人でも多くの子ども達に伝えてまいりたいと考えています。

TOL会のメンバー一同、感恩の心で社会貢献したいと願っています。みなさまには、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願



マテリアル・イノベーター

山本化学工業



- 大阪本社 | 大阪市生野区中川5-13-11
- 東京オフィス | 東京都渋谷区神宮前6-33-14-304
- 支店・工場 | 大阪・堺・神戸・奈良・岡山
トロント(カナダ)・パリ(フランス)・ロンドン(イギリス)
バルセロナ(スペイン)・ロサンゼルス・オースチン(アメリカ)

橋本聖子の
Seiko's Cafe
VOL.3



みなさんの
パワーを結集して、
次の世代のために頑張ってほしい

ゲスト 王 貞治氏

(福岡ソフトバンクホークス会長)

記念すべきTOLだより第25号のお客様に
ふさわしいお方をお迎えしました。
「世界の王」こと、王貞治氏です。
ご自身が野球を始められた当時のこと、
そしてワールドベースボールクラシックで
監督をされ、感じられたこと、そしてオリ
ピックのことまで、ざっくばらんに語って
いただきました。

(写真・村山よしみ)

TOLだより 第25号特別記念号

CONTENTS

トータル・オリンピック・レディーズ会創立25周年記念
オリンピック&パラリンピアン協働イベント
More Sports + More Dreams2010
もっとスポーツ! もっと夢!.....1



【記念対談】

橋本聖子のSeiko's Cafe ゲスト/王 貞治氏.....7



【第25号記念大特集】.....17
Part1 TOLだよりのあゆみ.....18
Part2 TOL総会&フォーラム一覧.....27
Part3 63のMessages.....30



フォーラム2009.....74

第25回 TOL総会.....84

オリンピックズネット

地域貢献

文/スピードスケート 戸田 則子.....86

選手が抱える問題解決の一助に

文/フィギュアスケート 河合 彩.....88

トピックス.....91



お知らせ.....93

事務局だより.....95



編集後記.....100



人は人との出会いで、 才能の花が開くこともある

橋本 実は私、王さんの大ファンで、小さい頃追っかけをしていました(笑)。王貞治物語を読んで育ちました。ご出身は墨田区の業平ですよ。

王 そうです。今、東京スカイツリーが建築されているところから500mも離れていないですよ。

橋本 そこで陸上競技をしていらしたと本で読んだのですが。

王 中学1年のときに陸上部に入っていました。走るのあまり速くなかったんですが、走り幅跳びとかやっていましたね。

橋本 砲丸投げもやっていたそうですね。

王 中学3年生のとき、野球の大会が終わってしまった秋に、砲丸投げで東京都の大会に出ないかと誘われました、何も考えずに出ってしまったんです。ピッチャーが砲丸投げに出るなど、本来なら考えられないことですけど

ね(苦笑)。今でも憶えています。区の大大会で13m11という記録が出て、優勝しちゃったんですよ。それで東京都の大会に行きました。そこではダメでしたけどね。

橋本 野球選手は身体能力が高いので、他の競技に借り出されるといことが昔はよくあったと聞きました。

王 野球部で走ることが得意な人が借り出されることがありましたが、僕みたいに砲丸投げは珍しいですよ。よくまあ肩を壊さないで甲子園で野球もやれました。頑丈だったんですね(笑)。

橋本 その野球ですが、最初はどのようなところでやってらしたのですか？

王 当時は野球部などないですから、小学生のときは地域の子どもたちが集まって野球をやっていました。中学に入学すると、理由は覚えていませんが陸上部に入り、2年は野球部、3年卓球部と、1年、1年違うんです(笑)。今となってはいろんなクラブに入って、いろんなことをやったことが僕にとってはよかったのではないかと思いますね。

ています。国内でも日本オリンピック委員会をやっていますね。

王 そうですよ。今のリトルリーグの子どもたちなど、ちょっとまいと他のスポーツはやらせない。これは本人にとって、あまりいいことじゃないと思いますね。

橋本 なにより、もったいないです。もしかしたら、野球以上の能力の高さを表現できる、あるいは引き出せるスポーツがあるかもしれませんから。私はスピードスケート競技、自転車競技専門ですが、特にスケート選手の中には、身体能力は高いけれど、技術が伴わない人がいます。しかし、技術がないと記録につながっていきません。そういう選手が競輪に転向したり、自転車競技で成功したりする姿を見てきました。

王 そうですね。だから、いろんなスポーツをやらしたほうがいいですよ。

橋本 ただ、どうしても指導者が少ない。体育の先生も限られていますし、さらに専門になりませんとまた限られてしまって、部活がでないといった問題もあります。そこで今、

オリンピック委員会で『ゴールドプラン』という委員会を立ち上げています。全国各地にいる元オリンピックアスを大いに使っていたかどうかというもので、学校の総合学習の中で生徒と直接いろんな話をしたり、教えたりといった機会を作っていくと計画しています。

王 オリンピック体験を聞くことができるというのは、生徒は喜ぶと思いますね。体育の先生はいろんなことを教えてくれますが、体験談となると同じことをいっても受け取り方が違いますから。そういうことを考えると、子どもの教育の現場では子どもたちに何が必要かをまずは考えるべきで、教える側の資格がどうのこうのなどとは言わず、子どもたちに必要なことを教えられる人ということだと思いますね。

橋本 ご自身が選手として世界一になられ、その後、指導者として活躍されました。でも、その裏にはトップレベルでやってこられたからこそ指導の難しさがあったのではないかと思います。

王 僕がこういう立場になって一番感じるこ



橋本 最先端をいつているといいますが、今は逆に小さい頃から一つの種目に絞らない方が良く、とされています。アメリカをはじめとしたスポーツ先進国は4シーズン違う種目をやらせて才能を見出し、最終的にどの能力が高いかを見極めるタレント発掘作業をや

とは、指導者の数が足りないことと、指導者の能力にばらつきがあるということです。選手に勉強しろ、練習しろといっているわりに、指導者はあまり勉強していません。指導者もつとつと今の自分を高めるという意識を持って勉強しなければいけないと思いますね。私は荒川(博)さんと出会い、何もわからないうちに荒川さんに引張られ、だんだん、あんなりたい、こうしたい、といったように、自分の欲が大きくなっていったんです。つまり、荒川さんに目覚めさせられたんですね。これがコーチの仕事なのだと思います。選手を目覚めさせるためには何が必要か、指導者はもつと勉強しなければいけません。そうでないと選手がかわい、そうですよ。せっかくな程度能力があるのに、引張りあげたり、才能の花を開かせてくれる指導者に巡り合わなかったためにオリンピックになれないという人がたくさん出てくるわけですから。逆に、それほどでもなかった人たちでも、引き出しの出し方によって大きく花開くことがあります。人との出会いということ



おう・さだはる◆1940年5月20日生まれ。東京都墨田区出身。早稲田実業高卒。現・福岡ソフトバンクホークス会長。読売巨人軍での現役時代、通算本塁打数868本。メジャーリーグのハンク・アーロンの755本を抜いた「世界の王」として知られる。巨人軍、その後福岡ダイエーホークス（現ソフトバンクホークス）で08年まで監督をつとめ、第1回ワールドベースボールクラシック日本代表の監督となり（06年）、チームを優勝へと導いた。

つくっていくという良い循環が生まれると思います。

王 今は使い捨てですよ、はっきりいえば。選手は終わったらおしまい。そこをみんな見ているわけです。夢を実現した人たちなのに、その先に何もない。国の補償も何もない。自分たちもいざれそうなるんだと思ったら、頑張らねえよ。

橋本 そうなんです。

王 日本の一番良くない点は、例えばボクシングでは世界選手権のときには歴代のチャンピオンがみなリング場に呼ばれ、拍手で紹介されます。日本のスポーツにはそういうところがありません。いいときは騒ぎ立てて持ち上げてくれるけど、あとは知らん顔ということが多い。これはオリンピックに出た人たちだけの話ではありません。選手をやめた人たちに対して、みんなからその功績に対して敬意が表されれば、選手たちの頑張る意欲が増すはずです。そのための方法は、考えればいくらでもあると思います。早くそうやってほしいですね。

はものすごく大きいんですね。そういう意味で、選手時代と違った情熱を持った指導者をたくさん作っていかないといけないと思います。

橋本 日本のスポーツ界は素材をみつけて育てることはするのですが、育てた人材をどうやって活かしていくか、というところには力

が注がれていません。せっかく、国のお金を

使ってオリンピックを育成したのですから、選手を終えた人たちを地域社会の中で活かしていくべきです。人材の活かし方はいろいろあると思いますが、その部分に力を入れていけば、選手が育ち、その選手が現役を終えたら今度は子どもたちを指導して次の選手を

日の丸には不思議な力がある

橋本 王さんにとって記憶に残っているオリンピック選手や競技を聞かせてください。

王 僕はマラソンのザトベック（エミール・ザトベック／チェコスロバキア／48ロンド

ン、52ヘルシンキの金メダリスト）ですね。

あとは東京オリンピックのマラソンのアベベ（アベベ・ビキラ。エチオピア。60ローマ、64東京の金メダリスト）ですね。我々の時代は陸上競技が華で、東京オリンピックでは1万メートルで優勝したミルズ選手（ペリー・ミルズ。アメリカ）を長嶋（茂雄）さんと一

緒に見に行きました。

橋本 やはり4年に一度しかないイベントとすることが、多くの関心を引きつけると思われませんか？

王 顔ぶれが変わりますからね。出場選手だけではなく、見る側も変わります。例えば小学生6年が中学3年か高1になるでしょう。子どもが青年に、青年が完全に大人になる。そうなれば見方も当然変わってきます。そういう意味でもオリンピックは特別なものだと思います。

橋本 出場する側には、4年に1回という難しさと、実力だけでなく運もついていないとダメだというところがあります。

王 どの世界でも運が必要ですからね。でも、それを言いだしたらきりがありません。競泳の古橋（廣之進）さんもロサンゼルスで行なわれた全米選手権で18分19秒という世界新記録で優勝して、『フジヤマのトビウオ』と称賛されましたが、オリンピックでは成績が出せなかった。選手としてピークを迎えていたときは、日本が国際大会に出場できなかった



はしもと・せいと◆1964年10月5日生まれ。北海道勇払郡出身。駒沢大附小・小牧高卒。現職、参議院議員。冬季（スピードスケート）／84サラエボ、88カルガリー、92アルベールビル1500m銅メダル獲得（日本人初）、94リレハンメル3000m 6位。夏季（自転車）／88ソウル、92バルセロナ、96アトランタ。2010バンクーバー五輪選手団団長。

という事情からですが、本人が一番残念だったと思いますね。

橋本 そう思います。ところで、私たちがオリンピックで一番重みを感じるのは日の丸です。チームジャパンとなった瞬間から、日の丸を背負うという重みと責任を感じます。そこで、同じチームジャパンとして戦われたWBC（ワールドベースボールクラシック）について、まずは監督になられたときの心境からお聞かせください。

王 私は長年野球をやってきましたが、日の丸を背負ったのはあのが初めてでした。日の丸の不思議な力っていうのかな？ やっぱり個人じゃなくなってしまうということを感じましたね。自分のことよりも日の丸のため、つまり国の代表としてプレーします。純粹な気持ちでそう思います。今の若い選手は自己中心的だと言われますし、確かにそういう面もありますが、あるとき一緒に戦った選手たちは、本当にいわゆるアマチュアスポーツマン的な取り組み方をしていたと監督として感じました。

王 だいたい日本の半分の数ですね。

橋本 それでもメダルは日本の3倍獲っているんです。そこにはやはり徴兵が免除されるとか年金があるといった韓国の事情もあると思いますが、それ以上に国旗を、国を、背負っている重みを感じている逞しさが日本の選手とは違っていると感じました。そんなことから、これからは競技力の向上はもちろんですが、人間力の向上もやっていかないと競技力が向上しないのではないかと考えさせられました。

王 私はあまり政治の話は好きではないのですが、国旗掲揚をしなくなり、国旗に対する敬意がだんだん変わってきているというところはあるかもしれませんね。人間力ということであれば、フィギュアスケートのキムヨナ選手。あのプレッシャーの中であれだけの演技ができるのは、日頃の訓練もありますが、それ以上にプレッシャーを乗り越える精神力の強さを感じました。浅田真央ちゃんに是非勝ってほしいと思っていましたけど、これは勝てないとも感じましたから。隣の国なの

橋本 普段、ベナントレースを戦い抜かれ、長年監督をされていても、選手とは異なる緊張感や厳しさは感じられましたか？

王 それはありましたね。選手のレベルにもよるので、どちらがどうだということはありませんが。期待される度合いが大きい選手ほどプレッシャーというののは大きいですからね。06年のWBCは私のこれまでの野球人生の中でも特別な体験をさせてもらった大会だったといえると思います。自分にとって、確かにプラスになっていますね。

橋本 あのととき、イチロー選手が「王監督の下でできることの幸せと感謝」ということを口にされました。素敵な言葉でした。

王 あんな言葉を彼が口に出すとは思いませんでした。それまで、彼は個人主義の典型例だと思われていましたが、あのとときの取り組みでそれまでの彼に対するイメージが変わりました。参加している選手たちも「イチローさんがあんな考えを持って取り組んでいるのだから、自分たちもやらなければいけない」というところがあったのではないかと思います。

す。WBCは運良く2回とも勝つことができましたが、でもその勝敗以上に、選手たちがいいものを得た大会だった。出場した選手たちは選手寿命が延び、より競技に対する思いが強くなったのではないと思います。

女性オリンピックのみなさんにもっとスクラムを組んでもらいたい

橋本 私は今年のバンクーバーオリンピックで選手団長をさせていただき、1ヶ月近く選手村に入って選手とともに生活しました。そこでいろんなことを観たり、感じたりしたのですが、特に強く印象に残っているのが、選手の放つオーラの違いです。日本の選手からは華やかさや爽やかさといったオーラが出ていますが、大躍進した韓国の選手から出ているオーラは違いました。魂の強さ、芯からの強さを感じるオーラでした。出場選手の数からすれば日本94名の選手団に対し、韓国は45名でしたけれど。



に、全然違うところがありましたね。

橋本 今まで体格でヨーロッパの選手に勝てない、アメリカに勝てないというところがあったのですが、その言い訳ができなくなりました。韓国とは体格が一緒どころか、日本の選手よりも小さい選手が活躍していたからです。でも、これは日本のウインタースポーツにとって良いことでした。選手の体格にハンデはないという意識改革ができました

で、あとはどうやって精神的に強い選手を育ていくかということです。そこで、王さんにかがいたのですが、監督として指揮官をやってこられて、人の力を、志気を、高めていくのにどんな方法をとられていたのでしょうか。

王 やっぱり目標を鮮明にするっていうことです。

野球に恋。



女子プロ野球を見に行こう!

日本女子プロ野球リーグ チケット情報

前売りチケット 1,000円 当日チケット 1,500円

※当日券は、試合開催日に球場にてご購入いただけます。※1枚で試合日・試合会場に関わらず、主催球団の公式戦1試合/1名様にてご観戦いただけます。

右記の方は<無料>にて
ご観戦いただけます。

- 中学生以下の方
- 18歳以下の女性の方
- 65歳以上の方
- 身体障がい者の方(付き添いの方1名様無料/障がい者手帳をご持参下さい。)

チケット 試合日程 に関するお問い合わせ

TEL: 072-699-8911 [受付時間: 平日9時~18時] (日本女子プロ野球機構)

www.girls-probaseball.jp

日本女子プロ野球機構

検索



日本女子プロ野球リーグ
試合速報はこちら



あなたから始まる次代への健康物語

わかさ生活®

<京都本社>

〒600-8008 京都市下京区四条烏丸長刀鉾町22

www.wakasa.jp

わかさ生活は、
女子野球を応援しています。

橋本 一人ひとりの選手に対してですか？
王 そうです。チームスポーツですから。我々のチーム目標は優勝しかない、みんながそれに向かっていくようにね。少々の犠牲的部分を求められることもあります。そういう思いを結集するってことが大事なんじゃないかと思えます。団体、チームスポーツの場合ね。
橋本 スポーツをやる子どもたち、指導者を含めてですが、スポーツに対して何を期待されますか？
王 プレーヤーはプレーヤー、指導者は指導者、運営する人たちは運営する人たちとそれぞれ仕事は違いますが、選手たち、子どもたちにとって何が一番良いかということを優先して考えるべきです。そうすればそれぞれの縄張りのな、勝手な意見も出にくいのではないかと思えます。プレーヤーはとにかく自分の能力を高めるということを頑張ればいいし、指導者はとにかく選手たちのレベルをどう上げるかを考えるのです。そして、運営する人たちは指導者に対してもプレーヤーに対

しても待遇ではなく、いかに快適にプレーができるかを考えてあげればよいのです。自分のことばかり考える人はダメだと思います。
橋本 確かにそうですね。では、最後に私たちレディースオリンピックに期待をすることお聞かせください。
王 そうですね、私はやはり女性を外見で判断しちゃいけないと思っています。本来、女性はずいぶん、成人女性はずいぶんだと思います(笑)。そういう女性のみなさんが持っているパワーをもっと使ってほしいですね。そういういえば、体育省とか、スポーツ省といったものをつくる予定はないんですか？
橋本 スポーツ省の設置は長年の悲願で、現在、超党派の議員連盟でスポーツ基本法をつくり、これを通すことを目標に進めています。
王 そうですか。本当に必要ですよ。そうしたものの実現にも、オリンピックの結集が必要だと思えますね。そうすれば、大きな力となつて発揮できるのではないかと思います。もちろん、オリンピックに出ていい成績を出す選手たちを育てることも大切です

が、みなさんにもっとスクラムを組んでもらいたい。オリンピックの将来を踏まえ、それに打ちこめる環境をつくりあげる。その一歩がスポーツ省ということになると思っています。で、ぜひ、頑張ってくださいね。
橋本 ありがとうございます。
王 いえいえ、どういたしまして。





1985年に発足したTOL会の
会員と会員をつなぐ会報誌として、
1986年、TOLだよりの第1号
が発行されました。そこから毎年1
回、さまざまな苦勞をしながら幹事
会が中心となって発行を続け、今号
のTOLだよりは第25号という記念
すべき1冊となりました。
それを記念し、これまでのTOL
だよりのあゆみを振り返るととも
に、たくさんのオリンピックとそし
てパラリンピアンのみなさまから
メッセージをいただきました。
女性オリンピックアの四半世紀がこ
こに、あります。

第25号記念大特集

PART 1

TOLだよりのあゆみ

PART 2

TOL総会&講演・フォーラム一覧

PART 3

63のMessages

※お名前は現役時代のお名前前で統一させていただきました。
何度か出場されている方は最初に出場したときのお名前と
なっています(現姓は()で表記しました)。また、編
集の都合上、西暦は1986年は86年、2000年は00年と
させていただきます。
お名前に☆印がついている方は現幹事です。

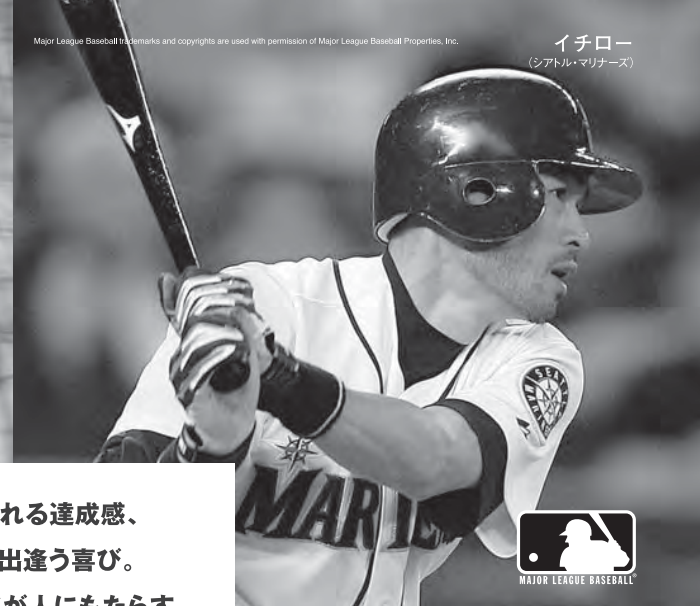


室伏広治
(ミズノ)



Major League Baseball trademarks and copyrights are used with permission of Major League Baseball Properties, Inc.

イチロー
(シアトル・マリナーズ)



挑戦の先に生まれる達成感、
成長した自分に出逢う喜び。
それはスポーツが人にもたらす、
とても大切でかけがえのないもの。

明日は、 きっと、 できる。

ミズノは、スポーツを愛する
すべての人の挑戦を
これからも応援し続けていきます。

福原 愛
(ANA)



中村憲剛
(川崎フロンターレ)

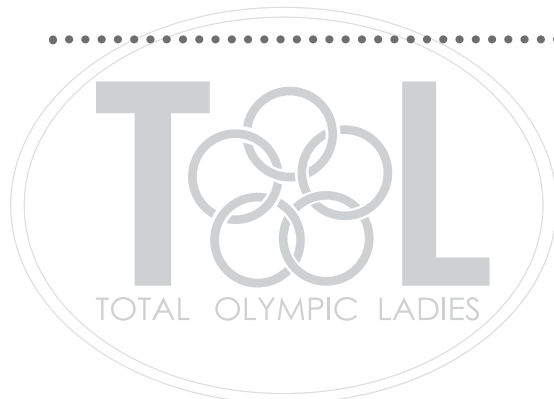


北島康介
(日本コカ・コーラ)



全日本女子バレーボールチーム
©J.LEAGUE PHOTOS, INC.





▼**主な内容**
会長あいさつ・事務局からのお知らせ事項

B4サイズ1枚で発行。初年度は「TOL便り」だったが、このときは「TOLだより」という名称で発行されている。

第2号 日付なし

▼**主な内容**
第3回総会メモ・TOLトピックス・会員のPRコーナー 他

ソウル五輪が開幕した年。この号からTOLだよりはB5版の大きさに。現在も使われている「TOL」のマークがこの号から使われている。B4用紙を2枚に折ってつくられたもので、書きでつくられていた。

第3号 1988年 (昭和63年4月26日)

青函トンネル開業
東京ドーム完成

第4号 1989年 (平成元年4月26日)

昭和から平成へ
消費税スタート
中国天安門事件

時代は昭和から平成に年号が変わり、新たな時代を迎えた。前年に開かれたアジアで2度目となるソウルオリンピックに出場した選手たちからの声が寄せられ、内容が会員の声を集めたものへと少しずつ変わり始めている。

▼**主な内容**
第4回総会報告、事業報告・SEOUL1988 他

▼**主な執筆者**
井上喜久子(64、72、88馬術)、金戸久美子(60飛込)、山中智子(88アイスダンス)、浅井えり子(88マラソン)、秋山エリカ(88新体操)、長谷川智子(88射撃)、岡智子(88フェンシング)、田中京(88シンクロナイズド)、大坪恵子(88飛込)、竹宇治聡子(60、64水泳)、星野綾子(52陸上)

PART 1

TOLだよりのあゆみ

競技はバレーボールはバレー、スピードスケートはスピードと省略して表記させていただき、お名前、競技名も当時の掲載にあわせてあります。ご了承ください。

第1号 1986年 (昭和61年3月31日)

英国のチャールズ皇太子、ダイアナ妃が初来日
伊豆大島で三原山が大噴火
チェルノブイリ原子力発電所で爆発事故

東京オリンピック(1964年)に出場した女性たちが集まって、TOL会ことトータル・オリンピック・レadies会(現・トータル・オリンピック・レadies会)が発足された翌年、記念すべき第1号が発行された。スタート時の会員数は63名。会員相互の交流の場とTOLの充実を図って発行されたのがこの「TOL便り」である。当時の会報紙はB4用紙2枚。ワープロで作られている。

▼**主な内容**
会長 副会長あいさつ・TOL発会 アラカルト・事務局からのお知らせ



第1号より

TOL会長あいさつ 小野清子

TOL発会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。この度、みなさまのご推挙によりTOL会長に就任致すことになりました。今後とも皆みなさまのご協力をお願い申し上げます。昨年(1985年)の10月10日に開催されましたTOL会に残念ながらご参加いただけなかったみなさまには、TOL発足のご趣旨をご理解のうえ、ご賛同いただき、会の運営上、ぜひ会費の納入をお願い致します。企業その他のご協力をいただく前に、自分たちの組織を自分たちの手で育てていくという姿勢を打ち出してまいりたいと思います。活動をすみやかに行なうためにもブロック制を持ち、かつ連絡競技会というのはいかがでしょう。みなさまにお量り申し上げたいと存じます。地域別の特性にあった活動が大切だと思います。どういう分け方が望ましいか、名簿をご参考のうえ、これも含めてみなさま方のお考えをお待ち致しております。会員のみなさまのご健勝とスポーツの振興・活動の实りが多いことを心よりお祈り申し上げます。

第5号

1990年

(平成2年4月26日)

礼宮さま、紀子さま結婚の儀
東西ドイツ、45年ぶりに統一

▼主な内容
オリンピックの昔と今・会員からの声・協賛者からのお言葉・第5回総会報告 他

▼主な執筆者

梅村すみ子(32陸上)、西沢礼子(36飛込)、矢野まさみ(52飛込)、前嶋靖子(76スピード)、石川佐知子(68バレー)、山崎浩子(84新体操)、馬淵かの子(56、60、64飛込)、丸山美保子(68アルペン)、大和田智子(64フエシシング)、岡山恵美子(64陸上)、田口智恵野(68、72水泳)、監物紫子(72体操)、荒木田裕子(76バレー)、竹内夏枝(76ハンドボール)、穂刈美奈子(76アーチェリー)、桜井尚子(88馬術)、井上悦子(88テニス)、日下部昌和(テサント)、渉外部長、天野幸江(スミエフランチング社長)、岸本健(スポーツ写真家)、三ツ谷洋子(WSFジャパン代表)



第8号

1993年

(平成5年4月15日)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)開幕
皇太子・雅子さまご成婚
異常気象でコメ騒動起きる

前年に行なわれたバルセロナ大会の特集が組まれ、14歳で金メダルを獲得した岩崎恭子選手のコーチ・水野隆一郎氏(沼津スポーツセンター)による寄稿文を掲載。インタビューとして田辺陽子選手(柔道)、佐藤伊知子選手(バレーボール)、瀬尾京子選手(体操)などが誌面を飾った。

▼主な内容

バルセロナ出場選手インタビュー・寄稿文・二世選手の活躍・母の想い・観戦記/会員の活躍・第8回総会報告・会員からのお便り 他

▼主な執筆者

木下アリアシア(92ヨット)、高柳裕子(92フエシシング)、中込恵子(92アーチェリー)、星野美香(92卓球)、源洋子(92射撃)、鈴木裕美子(92自転車)、金戸久美子(60飛込)、相原俊子(64体操)、河盛恵子(JOC理事)、春岡杜史子(76水泳)、石川佐知子(68バレー)、前嶋靖子(64スピード)、山本さち子(スキー)、矢野まさみ(52飛込)

第6号

1991年

(平成3年4月26日)

雲仙・普賢岳で火砕流
バブル崩壊
湾岸戦争の勃発

さらにページが増え、60ページ(表紙まわり含む)となったTOLだよりの。最初のページに日本女子選手として金メダル第1号を獲得された故・兵藤秀子さん(旧姓・前畑。32ロサンゼルス大会2位、36ベルリン大会優勝/ともに200m平泳ぎ)が登場。TOL会の名誉会長に決定するとともに、女性スポーツ界初となる文化功労賞授章のニュースが伝えられている。

▼主な内容

オリンピックの昔と今・研究発表・第6回総会報告・通信欄 他

▼主な執筆者

天野幸江(スミエフランチング社長)、小野清子(TOL会長)、菅谷初穂(32水泳)、星野綾子(52陸上)、長久保初枝(60スピード)、西文字(52水泳)、佐藤伊知子(88バレー)、三角幸代(76バスケット)、阿部知香子(84自転車)、香西式子(84射撃)、梶沢聖子(64陸上)、望月紀美子(60体操)、金戸久美子(60飛込)、千葉勝美(64バレー)、稲田悦子(36フィギュア)、吉野トヨ子(52陸上)、木村多喜(64、68体操)、加藤宏子(64体操)、岩原多美子(64フエシシング)

第9号

1994年

(平成6年4月8日)

日本女性初の宇宙飛行士
向井千秋さんが宇宙へ
関西国際空港、開港

リレハンメル冬季大会が行なわれた94年。TOL会は発足からちょうど10周年を迎え、TOLだよりにはその特集が組まれ、各界から寄せられたお祝いのコメントとともに、発展を願う会員からの提言が寄せられた。

▼主な内容

特集I 十周年おめでとう・特集II TOL会の発展を願って・座談会「オリンピック2世選手の母」・TOL会 10年のあゆみ 他

▼主な執筆者

柳川寛治(参議院議員)、猪谷千春(JOC委員)、岡野俊一郎(JOC委員)、古橋廣之進(JOC会長)、林克也(JOC専務理事)、塚田佐(長野市長)、伊藤公(評論家)、岸本健(スポーツ写真家)、西沢礼子(36飛込)、稲田悦子(36フィギュア)、大和田智子(64フエシシング)、菅谷初穂(32水泳)、平松純子(60、64フィギュア)、岩間秀子(76フエシシング)、春岡杜史子(76水泳)、伊沢まさこ(64陸上)、野口京子(84バレー)、武藤恵子(92レーシングカヤック)、坂上洋子(92柔道)、小野清子(TOL会長)、木村多喜(64、68体操)、田中カネ子(64スケート)、望月紀美子(60体操)、広中ミユキ(68、72、76体操)、神白高子(72バレー)、永田七恵(84マラソン)、加藤雅子(84フィギュア)、望月のり子(84体操)、田中京(88シンクロナ)、鈴木裕美子(92自転車)

第7号

1992年

(平成4年4月15日)

東海道新幹線に「のぞみ」登場
全国国公立学校が週休2日制スタート

アルペールビル冬季大会、バルセロナ夏季大会と2度のオリンピックが行なわれた年。TOLだよりは表紙を薄いブルーから淡いグリーンになって登場。この色はこの号のみ。広告も8ページと増えている。

▼主な内容

インタビュー「女性とスポーツ」 篠田正浩映画監督に聞く(聞き手・佐野智恵子)・アルペールビル冬季オリンピック観戦記・オリンピックの昔と今 他

▼主な執筆者

竹宇治聡子(60、64水泳)、金戸久美子(60飛込)、長久保初枝(60、64スピード)、平松純子(60、64フィギュア)、田島麻(32陸上)、岩井眸(56、60水泳)、矢崎文恵(60スピード)、下野芳枝(64フエシシング)、神白高子(68、72バレー)、福原鈴江(68バレー)、小谷理貴子(76水泳)、森尾麻衣子(84、88体操)、丸山由美(84、88バレー)、北浦あづさ(84フエシシング)、杉本充子(84射撃)、大木豊子(88アーチェリー)、中村多仁子(64体操)、広紀江(84バレー)

第10号

1995年

(平成7年4月25日)

阪神大震災
地下鉄サリン事件
オウム事件
メジャーリーグで野茂投手活躍

暗い出来事が続いたこの年。TOLだよりにでは、前年に行なわれた関西初となるTOL総会のイベントの様子を紹介。ダンスパフォーマンスなどの催しがあったことが伝えられている。また名誉会長であり、女子金メダリスト1号の兵藤秀子さん(旧姓・前畑/水泳)がこの年お亡くなりとなられたため、その哀悼の意が捧げられている。

▼主な内容

第10回TOL総会開催・TOL名誉会長 兵藤秀子さんご逝去・寄稿文/トータルオリンピックレディス それぞれの想い・活動報告 他

▼主な執筆者

平松純子(60、64フィギュア)、菅谷初穂(32水泳)、丸山サタ(64バレー)、長沢琴枝(72フィギュア)、鈴木智子(88フィギュア)、田島麻(32陸上)、西沢礼子(36飛込)、稲田悦子(36フィギュア)、星野綾子(52陸上)、齋藤美佐子(52水泳)、矢野まさみ(52飛込)、吉野トヨ子(52、56陸上)、西文字(52水泳)、池田敏子(56、60、64体操)、馬淵かの子(56、60、64飛込)、河合初子(56、64飛込)、新益鈴子(56体操)、塚田安子(60陸上)、小野清子(TOL会長)、相原俊子(60、64体操)、望月紀美子(60体操)、井上喜久子(64、72、88馬術)、中村多仁子(64体操)、田村洋子(64バレー)、大和田智子(64フエシシング)、伊沢まさこ(64陸上)、中山光子(68体操)、石川佐知子(68バレー)、和田豊子(68、72バレー)、高橋邦枝(68バレー)、渡部絵美(76、80フィギュア)、古橋美知子(72バレー)、中野真理子(72、76バレー)、田村悦智子(76バレー)、野口京子(84バレー)、三屋裕子(84バレー)、橋本聖子(84プロサイクリスト)、大野木智子(88水泳)、伊藤佳子(88射撃)、田中京(88シンクロナ)、長尾ナツエ(88スピード)、川端絵美(88アルペン)、沢松奈生子(92テニス)、岩崎恭子(92水泳)、猪又由美(92クロスカントリー)

第11号

1996年

(平成8年5月18日)

日本初の通信衛星を使ったデジタル多チャンネル放送「パワフェクトTV」が本放送を開始
病原性大腸菌O-157による食中毒発生

アトラクタ五輪が盛大に開かれた年。新しい試みとして、スポーツ情報アラカルトという、「社会体育指導者育成事業について」「ニューススポーツ」など16ページにわたる特集を掲載。会員に向けた情報提供を行なった。

その他、構成は寄稿文中心にまとめられ、病気や不妊治療など、個人的な内容も赤裸々に語られている。

▼主な内容

寄稿文・スポーツ情報アラカルト、第11回TOL会総会 他

▼主な執筆

猪谷千春(日本オリンピックメダリストクラブ理事長)、元渕幸(88、92飛込)、八木沼純子(88フィギュア)、川瀬時枝(84体操)、小菅麻里(92体操)、星野綾子(52陸上)、木元教子、中野眞理子(72、76バレー)、稲田悦子(36フィギュア)、野口京子(84バレー)、望月紀美子(60体操)、田中力ネ子(64スケート)、田村悦智子(76バレー)、友寄美江子(84、88フェンシング)、矢野まさみ(52飛込)、鈴木裕美子(92自転車) 他

第12号

1997年

(平成9年4月)

サッカー、悲願のワールドカップ出場権獲得
消費税率5%に引き上げ
タイアナ元皇太子妃、パリで交通事故死

巻頭でスポーツをファッション、メンタル、科学などさまざまな立場から見た寄稿文が掲載された12号。幹事会の熱意が感じられる内容だが、編集後記に「なかなか企画通りに進まないもので、今回はアトラクタオリンピック大会後の特集が組めませんでした。現役でご活躍の選手のみなさんはそれぞれにお忙しいのでしよう。必ず将来の想い出に残るものですから少しでも何か書いていただけるといふ思惑は外れてしまいました。若いみなさんが活字を嫌わないでほしいと願わずにはいられない真情です」とあり、当時の制作の苦労がしのばれる。

▼主な内容

寄稿文・スポーツ情報アラカルト、第12回TOL会総会 他

▼主な執筆

芦田 淳(フアッションデザイナー)、馳浩(84スリング/参議院議員)、白石豊(福島大助教)、石島まり子(日本陸連科

第13号

1998年

(平成10年6月)

和歌山毒物混入事件
格安運賃のスカイマークエアラインズ、エアドゥ就航

表紙に1枚の写真相が掲載されている珍しい号。この年、日本で開催された冬季オリンピック・長野大会開会式での日本選手団の入場風景を写したものである。その表紙のとおりに、内容は長野五輪の観戦記、体験記を中心として構成されている。そんな中で、巻頭の裏千家元・千宗室氏による「馬術と茶道」などといった寄稿文が目玉を引く。

▼主な内容
寄稿文・長野五輪観戦記・長野五輪体験記・スポーツ情報アラカルト
第13回TOL会総会 他

▼主な執筆

釜本邦茂(64、68サッカー/参議院議員、福田正浩(日本体大大学院教、藤本昌男(園田学園女子大教、稲田悦子(36フィギュア)、平松純子(60、64フィギュア)、丸山美保子(68アルペン)、水野里美(72スピード)、市川秋子(72スピード)、小林優子(72リージュ)、橋本聖子(84、88、92、94、96スピード、自転車)、川端絵美(94アルペン)、横山久美子(98クロスカントリー)、近藤ゆかり(98カントリー)、逸見美智子(チャコット)、長久保初枝(60、64スケート)、神白高子(72、76バレー)、益子直美(スポーツキャスター)、木原光知子(64水泳)、上向のり子(84体操)、高柳裕子(92フェンシング)、佐々木美和、望月紀美子(60体操)



第14号

1999年

(平成11年4月)

東海村で臨界事故発生
EUで単一通貨ユーロを導入
携帯電話とPHSの電話番号が11桁となる

前号同様、写真が1枚使われている。準備が進んでいるシドニーのオリンピック会場である。この号では、日本古来のスポーツ(なぎなた、弓道、新相撲)、妊婦水泳など、さまざまな分野から原稿が寄せられた。また、前年の総会第2部として開かれた「スポーツフォーラム」の収録が17ページとかなりのページで紹介されている。

▼主な内容

寄稿文(日本古来のスポーツ/オリンピック)・スポーツ情報アラカルト 他
第14回TOL会総会

▼主な執筆
能城律子(国際ラリーサー)、越野立夫(日本医科大教)、小野清子(TOL会長、河盛敦子(全日本なぎなた連盟)、池田邦子(全日本弓道連盟理事、北田登男(日本新相撲連盟理事長、雄子牟田明子、木原綾子、山崎浩子(84新体操)、長崎宏子(84、88競泳)、秋間純子(84競泳)、堀美千代(72陸上)、春岡杜史子(76競泳)、浅井えり子(88マラソン)、齋藤香(84競泳)、廣紀江(84、88バレー)、鈴木智子(88フィギュア)、金吉幸(88、92、96飛込)、惠本裕子(96柔道)、渡辺祥子(96ソフト)、半田悦子(96サッカー)、パークinson赤城千恵子(96カヌー)、佐藤有香(92、94フィギュア)、新井祐子(96フェンシング)、藤本昌男(園田学園女子大教)

▼主な執筆

第14号編集後記「TOLだよりのよきよき」より
「ご協力いただきました。また初めての広告掲載はそのときの幹事、石川佐知子さんの協力によるもので、第6号から積極的に企業各社に働きかけるステップになりました。何もかも手づくりの冊子誕生を思い返すと胸が熱くなります。」
第9号からは私が引き継いでお山の中心に行く。記者ポツポツのようにトンネルを抜け、鉄橋を渡り、真っ黒な煙を吐きながらシュッシュポツポツと先輩の方々が強いて下さったレール上を第14号までひたすら走ってまいりました。お忙しい中、原稿をお寄せくださいましたみなさま、広告掲載にご協力くださいました各社のみなさま、そしていつも赤ペンと国語辞典持参でお手伝いに来てくださった星野綾子さん、幹事のみなさま、本当にありがとうございました。また、第5〜8号までは六甲印刷(株)、第9〜14号までは(株)アイオーエムさんの多大のご協力を手にして私たちが幹事は異口同音に「すごい」といったあと絶句。米倉さんのお嬢さん史夏さんの挿絵も愛らしくス

第15号

2000年

(平成12年4月)

三宅島噴火で全島民避難
北海道、有珠山噴火

シドニー五輪の年に発行されたのは区切りの第15号。この号は現在まで続くTOLだよりの構成の土台となっている1冊である。表紙の体裁が変わり、ピンク色を基調に、目次を表紙に掲載。内容も対談、特集、会員だよりなどでまとめられている。

▼主な内容

巻頭メッセージ/女性オリンピック出場100年を記念して
対談/小出義男監督VS山崎浩子
シドニー五輪特集・TOLリレートーク・会員だより 他

▼主な執筆

八木祐四郎(JOC会長)、笹原正三(スリング/JOC副会長)、小野喬(体操/日本スポーツマンクラブ協合理事長)、石井好子(シャンソン歌手)、佐藤直子(フロテニス)、田村亮子(92、96柔道)、長谷川智子(88射撃)、金子正子(日本水泳連盟シンクロ委員長)、鈴木陽二(日本水泳連盟強化コーチ)、徳丸純子(56陸上)、浜松ヨシ江(56陸上)、吉野トヨ子(52、56陸上)、大崎喜子(56、60競泳)、河合初子(56飛込)、馬淵かの子(56、60、64飛込)、新谷鈴子(56体操)、木原光知子(64競泳)、丸茂明雄、増島みどり(スポーツライター)、荒木田祐子(76バレー)、石角洋子(92柔道)、小谷美可子(88、92シンクロ)、佐藤紀子(84フィギュア)、信田美帆(88体操)、竹内由江(64フェンシング)、松村則子(88、92スケート)、山下佐知子(92マラソン)、友寄美江子(84、88フェンシング)



第16号

2001年

(平成13年4月)

同時多発テロ
Jリーグを対象としたサッカーくじ「TOTO」スタート
メジャーリーグでイチロー選手が大活躍

シドニー……そしてアテネへ
現在まで続くタイトルのような、メッセージが表紙に加わった最初の号。そのタイトルに即し、前年にオーストラリアで行なわれたシドニー五輪の体験談が中心となって構成されている。

▼主な執筆者
巻頭インタビュー／田村亮子（柔道）、高橋尚子（マラソン）
・カリスマ指揮官対談／宇津木妙子×井村雅代・第2のオリンピック（ナンバードラス）
「2000年を見る」より転載）・オリンピックを支えた人たち・思い出のオリンピック・他

▼主な執筆者
増島みどり（スポーツライター）、岡本依子（00テコンドー）、田本博子（00ソフト）、古章子（00トランポリン）、福田容子（96、00射撃）、橋崎教子（96、00柔道）、成田

第17号

2002年

(平成14年7月)

サッカーW杯日韓共同開催
拉致被害者、北朝鮮より帰国

真由美（96、00パラリンピック競泳）、岩崎恭子（92、96競泳）、金戸幸（88、92、96飛込）、佐藤麻衣子（84、88体操）、陣内貴美子（92、96柔道）、白石豊（メタルトレーナー）、田村栄子（競泳コーチ、青島和之（食糧学院）、中村和美（92、96パレー）、喜島健夫（食糧学院常任理事）、山田海峰（92、96新体操）、加藤雅子（84フィギュア）、大野笑子（84パレー）、西沢礼子（36飛込）、北田典子（88柔道）、前嶋靖子（スケート）

▼主な執筆者
ソルトレイクシティ五輪が開かれた年。不況のあおりを受け、企業スポーツが次々に休部、廃部に追い込まれているなか、巻頭で四半世紀以上スポーツを支え続けてきた三協精機の名譽会長・山田六一氏と、橋本聖子氏が対談。企業におけるスポーツの意義など興味深い話が掲載されている。

終わりでではなく、始まり！
この号から、取材して構成するといったページも登場。数々の金メダリストを育ててきた柔道私塾「講道学舎」を他競技出身の村山よしみさん（競泳）が突撃訪問。見学記としてまとめられている。

第18号

2003年

(平成15年5月号)

横綱・貴乃花引退
北島康介選手、世界水泳選手権を新記録で連覇

あこのころ。これから。

オリンピックの発祥地・アテネでの開催を翌年に控え、「あこのころ」と題して、36年ベルリン大会・飛込の西澤禮子さんへのインタビュー、「これから」として国立スポーツ科学センター所長・浅見俊雄氏による寄稿など、オリンピックをあらゆる角度からみつめる構成となっている。

▼主な執筆者

武田恒和（JOC会長）、増島みどり（スポーツライター）、岡崎朋美（94、98、02スピード）、三宮恵利子（98、02スピード）、田畑真紀（94、02スピード）、田中千景（98、02ショートトラック）、村主章枝（02フィギュア）、恩田美栄（02フィギュア）、上村愛子（98、02モーグル）、吉川由里（98、02スノーボード）、西川樹里（76パレーボール、長尾ナツエ（88スピード、自転車）、大久津真由美（92、98カーリング）、稲田悦子（36フィギュア）、河合彩（98フィギュア）、井本直歩子（96競泳）、木原光知子（64競泳）、大久保通方（NPO日本移植者スポーツ協合理事長）

▼主な執筆者
巻頭対談 竹田恒和JOC会長×小野清子TOL会長
（聞き手：山崎浩子）
・岡崎朋美選手に聞く（聞き手：橋本聖子）
「足跡」マラソン有森裕子（文：山崎浩子 文藝春秋 03年5月号より転載）
・会員だより 他

▼主な執筆者
平松純子（60、64フィギュア）、井本直歩子（96競泳）、伊藤理枝子（80パレー）、大菅小百合（02スピード）、自転車、高山樹里（96、00ソフト）、松崎ヨシ子（64競泳）、松永理絵子（00新体操）、溝口紀子（92、96柔道）、倭千鶴子（日本セーリング連盟理事）

第19号

2004年

(平成16年5月)

スポーツ界にゴルフ宮里藍など、10代旋風ふきあれる
新潟県中越地方で地震発生
1万円、5千円、1千円の新紙幣発行

日本から世界へ。

アテネ五輪で史上最多のメダル数を獲得した年の1冊。巻頭には世界オリンピック協会理事となった鈴木大地氏（84、88競泳）による寄稿を掲載。スペシャル対談として、「日本人としての誇り」と題し、音楽博士の藍川由美氏と山崎浩子氏が音楽から日本人とは、という問題に迫っている。

▼主な内容

巻頭対談 猪谷千春×木原光知子
いざアテネへ
アメリカ女子バレーボール・ナショナルチーム監督に聞く 吉田敏明氏（聞き手：山崎浩子）
・フォーラム2003
・会員だより 他

▼主な執筆者

石井好子（ジャンソン歌手）、生島淳（スポーツライター）、太崎喜子（56、60競泳）、岡本治子（68フィギュア）、田中ウルヴェ京（88シンクロ）、磯田陽子（00シンクロ）、香西式子（84、92射撃）、増地千代里（92柔道）、小野千賀子（栗東市体操協会理事）、村山よしみ（68、72、76競泳）

第20号

2005年

(平成17年5月)

女子フィギュアスケートグランプリで浅田真央が史上最年少優勝
愛知万博 開催
JRF福知山線脱線事故

勝利への執着

対談が中心となり、さまざまな角度から勝利への執着をみつめている1冊。また、これまでは自身の体験、考えといった寄稿やインタビューが多かったが、

第21号

2006年

(平成18年6月)

WBCで日本初代王者に
41年ぶりに皇室に男子誕生

PASSION LIVES HE
ORE「情熱はここにあり」トリノオリンピックテーマより」

▼主な内容

ソルトレイクシティ五輪出場選手からの手紙
「金メダルの余韻なんてどこにもない」井村雅代×立花美哉×武田美保（Number plus
「2001年を見る 文：山崎浩子」より転載）
・会員だより 他

▼主な執筆者

武田恒和（JOC会長）、増島みどり（スポーツライター）、岡崎朋美（94、98、02スピード）、三宮恵利子（98、02スピード）、田畑真紀（94、02スピード）、田中千景（98、02ショートトラック）、村主章枝（02フィギュア）、恩田美栄（02フィギュア）、上村愛子（98、02モーグル）、吉川由里（98、02スノーボード）、西川樹里（76パレーボール、長尾ナツエ（88スピード、自転車）、大久津真由美（92、98カーリング）、稲田悦子（36フィギュア）、河合彩（98フィギュア）、井本直歩子（96競泳）、木原光知子（64競泳）、大久保通方（NPO日本移植者スポーツ協合理事長）

トリノ五輪が開かれ、日本選手団唯一の金メダルを獲得したフィギュアスケート・荒川静香選手の得意技「イナバウワー」が流行語になるほど、盛り上がった年。TOL会では長きにわたってTOL会長を務められた小野清子初代会長が退任され、2代目会長として木原光知子氏が就任した。

また、これまでTOLはトータルオリンピックレイスと表記されてきたが、この号から「トータル・オリンピック・レイス」と表記されるようになっていく。

▼主な内容

巻頭対談「我々の負けず嫌いは一生です」樋口久子×木原光知子
2006トリノオリンピックインタビュー「バンクーバーはもつと厳しい戦いになります」平松純子（TOL副会長、聞き手：山崎浩子）
2006世界女性スポーツ会議くまもとレポート
特別対談「セカンドキャリアを考える」吉田秀彦×北田典子
フォーラム2005
女性オリンピックアンスのキャリア調査結果報告
・会員だより 他

▼主な執筆者

橋本聖子（84、88、92、94、96スピード、自転車）、緒方茂生（84、88、92競泳）、高柳裕子（92フエンス）、田中雅美（96、00、04競泳）、武田美保（96、00、04シンクロ）、矢野広美（76パレー）、村田由香里（00、04新体操）、石角洋子（92柔道）

第21号 巻頭あいさつより

冒頭に、小野清子初代TOL会長へ会員を代表しまして、御礼と感謝の言葉を述べさせていただきます。と思いましたが、

「小野先生、発足より20年の永きにわたり、多忙をきわめられる日々のなか、会の先頭に立ち、当会を現在のような深刺とした女性オリンピックの集まりへと導いてくださいましたこと、その数多の尽力に心より深く感謝を申し上げます。先生の初志、すなわち発足における趣意、目標を踏まえながら、益々の会の隆盛に努めてまいり所存でございます。本当にありがとうございます。」

会員のみなさま、2代目会長を務めさせていただくことになりました木原光知子です。若輩非力ではありますが、意見をちょうだいしながら努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。（中略）

現在も後進の指導にあたりながら、現場から離れた会員の方へ、どうぞお気軽にご参加ください。

PART 2

TOL総会&講演・フォーラム一覧

- 第1回 (1985年10月10日) 東京プリンス
- 第2回 (1986年10月5日) 新宿京王プラザ
- 第3回 (1987年6月20日) 東京プリンス
- 第4回 (1988年6月18日) 東京プリンス
 - 講演内容 カルガリー大会に出場した選手のみなさんを迎えて
 - 講演ゲスト 田中智子/フィギュア 川端絵美/アルペン 関ナツエ/スケート 房野妙子/スケート
- 第5回 (1989年6月17日) 東京プリンス
 - 講演内容 ソウル大会体験談
 - 講演ゲスト 井上喜久子/馬術 宮原美江子/フェンシング 元淵 幸/飛込み 平松純子/フィギュア
- 第6回 (1990年6月16日) 東京プリンス
 - 講演内容 新しい風、生涯スポーツ
 - 講演ゲスト 本間正雄/文部省体育局
- 第7回 (1991年6月29日) 東京プリンス
 - 講演内容 冬季五輪長野招致決まる
 - 講演ゲスト 古橋廣之進/JOC会長
- 第8回 (1992年6月6日) 東京プリンス
 - 講演内容 アルペールビル報告会
 - 講演ゲスト 佐藤有香/フィギュア 戸田則子/スケート
- 第9回 (1993年6月19日) 東京プリンス
 - 講演内容 オリンピック二世選手の母
 - 講演ゲスト 金戸久美子/飛込み 相原俊子/体操 佐藤久美子/フィギュア
- 第10回 (1994年5月29日) H日航大阪
 - *イベント中心
- 第11回 (1995年6月17日) 赤坂プリンス
 - 講演内容 変貌するオリンピック
 - 講演ゲスト 伊藤 公/五輪評論家

第22号 2007年 (平成19年7月)

陸上短距離のマリオン・ジョーンズ(米)がドーピングで引退。ゴルフ界で石川遼、日本男子ツアーで15歳8ヶ月の最年少優勝、上田桃子最年少で賞金女王に。木原光知子TOL会長逝去。

Passion is all 情熱こそすべて!

2代目TOL会長となったばかりの木原光知子氏がこの年の10月、急逝。そのため急ぎよ、橋本聖子氏が第3代TOL会長に就任。あまりに突然の出来事に、幹事会は驚き、悲しみに包まれた。この号のあいさつ、巻頭対談が木原会長最後のメッセージである。

▼主な内容 木原光知子のmimi's Cafe ゲスト/星野仙一・おしゃべりサロン ゲスト/浜口京子 ナビゲーター・友寄美江子、北田典子・レポート/1枚の写真から、高木貴子のネパール奮闘記・オリンピックと楽しむ「元気みやさき開催」・ウーマンス・スイム・フェスティバル10周年を迎えて・高木貴子と村山よしみの新体操・感動の直撃レポート・フォーラム2006・会員だより 他

第23号 2008年 (平成20年7月)

金融危機が世界に波及 日本人4人にノーベル賞

「夢を体験! 情熱の力」

アジアで3度目となる北京五輪が開催された年。巻頭には、その後、首相となるオリンピック・麻生太郎氏が登場。国を動かす立場からみたスポーツについて語られている。

▼主な内容 橋本聖子のSeiko's Cafe ゲスト/麻生太郎 「世界で勝つためには国としても戦略が必要です」 レポート 村山よしみの突撃レポート「豪速球の響き、北京へ!」 おしゃべりサロン ゲスト/原田めぐみ(フェンシング)ナビゲーター/友寄美江子

▼主な執筆者 友寄美江子(84、88フェンシング)、坂佳代子(68、72体操)、村山よしみ(68、72、76競泳)、桐谷乃宇奈(92フェンシング)、安藤美佐子(96、00ソフト)、米倉加奈子(00、04バドミントン)、井村雅代(シンクロ)

第24号 2009年 (平成21年7月)

新型インフルエンザ、日本に上陸 天皇陛下、即位20年 アメリカで黒人大統領誕生

With Glowing Hearts 夢 育む心と力

2016年の東京オリンピック・パラリンピックの招致活動が盛んだった。残念ながら、この年の10月の投票でブラジルはリオデジャネイロに敗れたが、TOLはよりはその決定前に発行されるため、招致を応援する企画として、64年東京オリンピックを振り返る特集が掲載された。

・特集北京五輪 がんばれ! ニッポン・フォーラム2007 ・追悼 ありがとう!! ミミさん ・オリンピックズネット 他

▼主な執筆者 齊藤美佐子(52競泳)、山口香(88柔道)、田中雅美(96、00、04競泳)、吉田昌子(76バレー)、友寄美江子(84、88フェンシング)、山崎浩子(84新体操)、松崎ヨシ子(64競泳)、渡辺涼子(92柔道)、岡崎朋美(94、98、02、06、10スピード)、中村真衣(96、00競泳)、野田朱美(96サッカー)、板倉美紀(92競歩)

▼主な内容 橋本聖子のSeiko's Cafe ゲスト/水野正人 おしゃべりサロン ゲスト/佐野優子、ナビゲーター/大林素子 特集 Remember Tokyo Olympic 64

「日の丸を背負った戦士たち 早田卓次(体操)、相原俊子(体操)、岡野功(柔道)、井上喜久子(馬術)×三宅義信(ウエイトリフティング)×池田敬子(体操)×竹宇治聡子(競泳) 特別座談会/記者席から 堂本暁子(元千葉県知事)/パラリンピック 高橋明(アタフテッドスポーツ・サポーターゼンター理事長)」

2010バンクーバーオリンピック 村山よしみの突撃レポート/氷上のチェス、カーリングに迫る! フォーラム2008

パラリンピックアンストーク 神谷千恵子(アーチェリー) 他

▼主な執筆者 山口香(88柔道)、友寄美江子(84、88フェンシング)、堂本暁子(元千葉県知事)、道廣奈美(スピード)、平松純子(フィギュア)、村山よしみ(68、72、76競泳)、吉田昌子(76バレー)、東明有美(96サッカー)、吉原知子(92、96、04バレー)、岩田良子(00バドミントン)、荒川静香(98、06フィギュア)

第19回 (2003年6月28日) 国立スポーツ科学センター (総会)
(2003年10月18日) デサント東京オフィス (フォーラム)

講演内容 フォーラム2003
 進 行 木原光知子/競泳
 講演ゲスト 竹内由江/フェンシング 有森裕子/マラソン 山口 香/柔道
 小町美弥子/リュージュ 村山よしみ/競泳

第20回 (2004年6月19日) スポーツマンクラブ (総 会)
(2004年10月16日) デサント東京オフィス (フォーラム)

講演内容 フォーラム2004
 司 会 木原光知子/競泳
 講演ゲスト 柴田亜衣/競泳 山本 博/アーチェリー 金戸 幸/飛込み
 大林素子/バレーボール 小林貴子/柔道 野村八詠子/野村忠宏母 柔道

第21回 (2005年6月25日) 岸記念体育館内スポーツマンクラブ (総会)
(2005年10月15日) デサント東京オフィス (フォーラム)

講演内容 フォーラム2005
 ナビゲーター 木原光知子/競泳 大林素子/バレーボール
 講演ゲスト 福原鈴江/バレーボール 三宮恵利子/スケート 萩原智子/競泳
 泉 浩/柔道

第22回 (2006年10月28日) デサント東京オフィス

講演内容 フォーラム2006
 ナビゲーター 木原光知子/競泳 大林素子/バレーボール
 講演ゲスト 後藤美喜子/スキー距離 増田明美/マラソン 越 和宏/スケルトン
 小野寺歩/カーリング

第23回 (2007年10月27日) デサント東京オフィス

講演内容 フォーラム2007
 ナビゲーター 山口 香/柔道 大林素子/バレーボール
 講演ゲスト 新沼博恵/バドミントン 岡山恭崇/バスケットボール 田中雅美/競泳

第24回 (2008年10月26日) デサント東京オフィス

講演内容 フォーラム2008
 ナビゲーター 長田渚左/ノンフィクション作家 田中雅美/競泳
 講演ゲスト 中村礼子/競泳 内柴正人/柔道 陣内貴美子/バドミントン
 国枝慎吾/車いすテニス

第25回 (2009年10月24日) デサント東京オフィス

講演内容 フォーラム2009
 ナビゲーター 山口 香/柔道 大林素子/バレーボール
 講演ゲスト 鈴木大地/競泳 丸山由美/バレーボール 荻原次晴/スキー複合
 成田真由美/パラリンピアン競泳

第12回 (1996年6月15日) 原宿クック・ドレ

講演内容 レンズが見たオリンピック
 講演ゲスト 岸本 健/フォートキシモト写真家

第13回 (1997年6月28日) 東京プリンス

講演内容 世界オリンピックズ連盟について
 講演ゲスト 笹原正三/レスリング金メダリスト (メルボルン)

第14回 (1998年10月2日) 東京プリンス

講演内容 スポーツフォーラム/スポーツの華を育てる
 司 会 長崎宏子/ロサンゼルス・競泳
 講演ゲスト 木原光知子/東京・競泳 木原綾子 (木原光知子母)
 橋本聖子/サラエボ他・スケート・自転車
 橋本善吉 (橋本聖子父) 千葉弘子 (札幌・クロスカントリー)

第15回 (1999年6月19日) キャピタル東急

講演内容 リレートーク
 司 会 木原光知子/競泳
 講演ゲスト 井上喜久子/馬術 遠藤恵子/カヌー 奥野史子/シンクロ
 竹内由江/フェンシング 田辺陽子/柔道 野口京子/バレーボール
 橋本聖子/スケート・自転車 春岡杜史子/競泳 山崎浩子/新体操
 渡辺絵美/フィギュア

第16回 (2000年7月1日) 六本木桜庵

講演内容 フォーラム/トークショー
 司 会 木原光知子/競泳
 講演ゲスト 池田敬子/体操 北田典子/柔道 高木貴子/バレーボール 竹宇治聡子/競泳
 千種寿代/ライフル射撃 中島美代子/バレーボール 西沢礼子/飛び込み
 福原美和/フィギュア 山崎浩子/新体操 吉野トヨ子/陸上

第17回 (2001年9月1日) Hパールシティ神戸

講演内容 フォーラム
 司 会 木原光知子/競泳
 講演ゲスト 高橋有紀子/ビーチバレー 平松純子/フィギュア 松崎ヨシ子/競泳
 馬淵かの子/飛込み

第18回 (2002年10月26日) メイ・ウシヤマ学園

講演内容 メイ牛山女子講演/トークショー
 司 会 木原光知子/競泳 星野綾子/陸上 笠松和永/体操
 講演ゲスト 田村悦智子/バレーボール 岡本依子/テコンドー 磯田陽子/シンクロ

Message 01

水に溺れ、水に生きる

田村 美佐子 ☆(現姓・齊藤)



競泳 52年ヘルシンキ大会

戦争が終わり、焼土となった日本列島。その日、その日、食べることに精一杯で、失意のどん底の中、世界のレベルに追いつこうと必死に国民みんなが頑張った時代。戦後3年目となる昭和23年、『フジヤマの飛び魚』で有名な古橋廣之進選手が、世界記録を樹立したことは、希望の光となつて日本列島を照らしませ

た。私が水泳を志したのは、そんな時代でした。そもそも水泳を始めることになつたきっかけは、実家の裏が紀ノ川から引いている納涼用水路だったといふことにあります。6歳のとき、そのくぼみで姉たちとママゴト遊びをしていたとき、一緒にいた友だちがさつと立ちあがったあおりを受け、私は水の中に転がりました。溺れたのです。一度沈んで再び浮き上がったとき、水と空と自分が一体となつ

て見上げた空の色がコバルトブルーでとてもきれいで、すごくいい気分でした。それがきっかけとなり、それまで見向きもしなかった水遊びに熱中しました。泳げるようになると、その水路の土手に立っていた柿の木の根元に縄を縛り、縄の端を自分の体に巻きつけて川に入りました。流れに身を任せ、縄がピンと伸びるとその縄を引き寄せて木の根元へ戻り、また縄を離して川を下るということを繰り返して、手足を動かさずに進むというのを覚えました。この逆流に向かう自己流の泳ぎ方が、後のパワーアップに役立ったと思います。

いつしか川からプールへと練習場所が変わり、すばらしいコーチに恵まれて、幸いにもオリンピック代表に選ばれました。結果は出せませんでした。オリンピックを含めた75日間の転戦は微力ではありますが、

Message 02

戦後初の五輪

宮本 まさみ (現姓・矢野)



飛込 52年ヘルシンキ大会

46年、中国の天津から引き上げて広島に帰ってみると、焼け野原。国民学校の友人はみな原爆の犠牲となり、消息不明のまま母の里である金沢へ帰りました。そこで母から中田先生を紹介され、五輪を目指して励むことになったのです。

練習場は第2回国民体育大会がきっかけとなり、日本で2番目にできた松任プールです。5mと10mの飛び込み台があったのですが、火の見櫓のような鉄骨に板を張ったもので、雨の日などまっすぐ10mの鉄の梯子を上ると滑りそうに緊張しました。風の強い日はグラグラ揺れて怖い思いをしました。プールの水は水田に引く川の水。水温は5月初めで15度くらい。木の枯れ葉や泥が

沈殿し、今は絶滅危惧種のゲンゴロウがいっぱい泳いでいて、飛込む度に泥が舞い上がって目も開けられず、ゲンゴロウにかまれないかと慌てて泳いでプールからあがったのものでした。

日本では女子で最初に逆立ちの種目を飛んだのは私でしたが、グラグラした10mの台から飛込むのは命がけで、恐怖でした。その甲斐あって、五輪代表になりましたが、当時のことなので世界の飛込みの情報はありません。ヘルシンキに行ってみたら、飛板飛込みは木の板ではなく、ジェラルミンのボードで吃驚したことを覚えてます。しかし、今から考えると、戦後7年目のあの逆境の中でよくまあ

国際親善という役割と新しい日本の姿の一片を世界の方々に見ていただくことに役立ったものと思っております。

今、TOLの皆さんのお手伝いをしながら、元気をいただくとともに、これから世界を目指す選手の誕生を楽しみにしています。

Message 03

夢に観て、夢を追い、夢を叶えた

吉川 綾子 (現姓・星野)

陸上 52年ヘルシンキ

北陸から五輪に参加できたものと、我ながら不思議な思いがします。やっぱり、当時ラジオから聞こえてくる古橋廣之進さん、橋爪四郎さんたちの活躍に憧れ、田畑先生はじめ諸先輩方の五輪に対する熱意のおかげだったのでしよう。

五輪は約75日間の日程でストックホルム合宿、招待試合などで欧州をあちこちら廻りました。誰もが経験できることではない幸運を得ることができたのは、古き良き時代だったということでしょうか。

36年ベルリンオリンピックの「民族の祭典」、48年戦後初のロンドンオリンピックの記録映画を観て、幼い頃からは知ることが大好きな私は「オリンピックに出たい」その一念で厳しい練習に耐えた。

夢に観て、夢を追い、夢を叶えたヘルシンキ。52年7月19日、日本選手団の陸上女子選手3人の1人として胸を張り、開会式で行進する私が入った。

太平洋戦争の敗戦から世界各国と交流もない。スポーツを通じて親善を尽くすように、父がはなむけの言葉とともに用意してくれたピンク地

に華の刺繍がほどこされた振り袖一式。支給された日の丸のついた大きなトランクに詰め込んで羽田から沖繩、カラチ、イラクのバスラ、ローマを経由して、今では考えられない50時間のフライトで6月28日ストックホルムへ。日本が史上初めて出場した由緒あるオリンピック競技場で、先輩を偲びつつ競技会に参加。2週間の合宿の後、ヘルシンキに到着したのは7月12日だった。

森と湖に囲まれたフィンランドの首都ヘルシンキ。女子の選手村は看護学校を借り受けた質素ながら清潔な建物。看護師の卵たちによる世話

も心がこもり、温かで心地よかった。早速、選手村の庭に出てチマチョゴリの民族衣装を着た韓国の砲丸投げ代表・崔さんと記念撮影。その写真が翌日、地元スポーツ紙の表紙を飾った。流暢な英語で友人を増やしていく崔さん。私は微笑むだけだった。

7万人が埋め尽くした競技場の大観衆の中でただ1人、トランプ、フィリンドで走り跳ぶ。英語が話せ

たら各国の選手と会話ができ、役員とコンタクトがとれたのに。陸上競技の世界新24、大会新104の記録ラッシュの中で、戦中戦後の16年のブランクがいかに大きかったかをしみじみと実感した。父が持たせてくれた和服より、語学力をつけておく必要を感じ、敗戦の惨めさを味わったのだった。あれから58年の歳月が流れ、最近では優れた後継者が活躍していることが心強い。



Message 04

オリンピックと私

JSS宝塚ダイビングチーム主任コーチ・兵庫県水泳連盟理事
津谷 かの子 (現姓・馬淵)

飛込
ボルン
60年口一マ
64年東京

メルボルンオリンピックなんてとんでもなく古いなー、と思う。給油のために沖縄、マニラ、ダーウィンを経由して、36時間もかかってメルボルンに到着したなんて、今から思うと悪夢である。3回連続で選手として出場し、その後モントリオール



入村第1号の日本チーム右筆者18歳。左河合初子20歳。

大会ではコーチとして参加。次は長女よしのをロサンゼルス大会に出場させるべく、人にはいえない苦労をしたことも思い出して残る。一昨年の北京大会には、我がチームの寺田健選手が出場した。アトラクタ、バルセロナ、アテネ、北京大会には応援団を結成してスタンドで声援。現在もロンドン大会を狙う選手を育てているので、またロンドンに行かねば……。

私は東京オリンピックのときには結婚して2年目、26歳だった。1月に次女を出産して体重が15キロも増した。これはいへん。服が入らない。3月から体育館でトランポリンを、5月からはプールでコーチをする傍ら、少し飛び板を跳んだり練習のまねごとをやったら、これが楽しい。体重も落ちた。6月に大会に出場したら優勝してしまった。一緒に出場しているライバル選手たち

Message 05

ママさんアスリートとく

日本体育大名誉教
田中 敬子 (現姓・池田)



体操
60年メルボルン
64年東京 (団体/銅)

54年ローマ世界選手権で初の金メダルを獲得し、「ローマの恋人」といわれた私も、東京オリンピック女子体操チームの中では最年長の30歳。25歳で結婚し、すでに2人の子どもをもうけており、次男はその前年に出産したばかりであった。この出産には実は一悶着あったのである。

なんといつても、自国で開催される初めてのオリンピックである。メダルは獲りたい、ではなく「獲らねばならない」鉄則だった。ましてや当時、女子スポーツでメダルが期待できたのは体操とバレエボールといわれていた状況だったからなおさらだ。それゆえ、この妊娠がわかったと

Message 06

これからの女性スポーツに期待すること

国際スケート連盟理事・IOL副会長
平松 純子 ☆



フィギュア
60年スコーパー
64年インスブルック

きは、協会幹部の方から「東京オリンピックを来年に控えたこの時期に、女子体操チームを率いるエースが出産とはなにごとだ!」「そんなことをしてくれては実に困る」とたいへんお叱りを受けたのである。しかし、そんな幹部に私はきつぱりとこう言い放つたのだ。『私、生みます。子どもを授かったら生むのが当たり前ですから。メダルも必ず獲ります』

いたり、家を出るときに「ママ、今度いつ来るの」といわれたり。東京オリンピックまでの2年間は合宿につき合宿生活で、子どもとふれあう時間はほとんどなかった。私の流儀として、選手村に入ったら、家族のことはきつぱり忘れて競技に集中した。70歳を超え、孫ができた今でも、私は子どもたちとの久々の再会を喜び、小さかったあの子どもを思いきり抱きしめるといったあの頃の夢を繰り返し見る。子どもを犠牲にしてしまったという母親としての心の傷はおそらく生涯消えることはないだろう。

Message 07

オリンピックの想い出

IOL副会長
田中 聡子 ☆ (現姓・竹宇治)



泳
60年ローマ (100m背泳ぎ/銅)
64年東京

スポーツ界が強くなることにつながるのではないかと頃考えています。そのためには、引退した選手たちへの地域、競技団体での良好な受け皿作りが不可欠だと思っています。指導員、審判、管理関係、その他セカンドキャリアとして身に付けた資格などが後の選手強化の支援になることもあるでしょう。現役時代、国際大会や海外練習で培った人脈や語学力が、其々の競技団体の国際力アップにも貢献できるでしょう。

努力した結果が成績に如実に現れる現役時代のように、スポーツへの熱意や実力が、男女同等に評価され活かされるスポーツ界であってほしいと思っています。そのためにも、IOL女性スポーツ専門委員会としてできることをを通じ、女性スポーツの発展のため寄付していきたいと思っています。

現在私はIOLC 女性スポーツ専門委員会委員長を務めさせていただいております。その立場より意見を述べさせていただきたいと思えます。

近年の日本女子選手たちの活躍に

は目を見張るものがあります。アテネ五輪の日本選手団女子の金メダル獲得数は男子を上回りました。メダリストのみならず、多くの女子オリンピック選手のパワーをスポーツ界に取り込むことにより、さらにス

今から50年前のローマオリンピック。初めての飛行機、初めての海外遠征は羽田からローマに到着するまでに2カ所でお給油。とても長いなが

い道のりでした。当時、私は高校3年生。日本代表としてきちんとプレザーをハイヒールを履いて開会式に参加。グラランド

を1周したら、両足に大きなママが2つ。試合にはそのつぶれたママの痛みを抱えて臨まなければならなかったことを覚えていきます。

試合場のプールは屋外で、夜の決勝、背泳ぎはスタート台から上を見ると大きなお月さま。レースの結果は3位。本人は負けた！とさっさと控え室に行つて着替えているところに男性コーチが慌てて更衣室に飛

Message 08

オリンピックと私

森実 芳子 (現・松崎ヨシ子)

64年東京 競 泳

64年東京オリンピック水泳競技候補選手に中学生4人が選ばれた。故木原美知子、石井雅子、川西繁子、森実芳子である。オリンピックの1年前のことで国内各地で強化合宿が実施された。中学生は義務教育を受けなければならぬため、合宿先の地元中学校に通わされた。午前中だけ授業を受け、持参したお弁当を食べた後、午後からの合宿参加することが日課であった。授業は教育課程が学校で異なるため勉強内容が十分

には理解できず、苦痛であった。それでも水泳訓練中の先輩たちの厳しさを思えば、中学生はまだ恵まれている方だと自分に言い聞かせていた。一度だけ学校を集団欠席したことがある。つまり学校をさぼり、別府港で遊び、お弁当だけはしっかり食べて何事もなかったかのように平然と午後の合宿に参加。ところが学校から監督のところへ連絡がいつており、こっぴどく叱られた。もう一つ忘れられない出来事があ

込んできて、大騒ぎになったという出来事もありました。

ローマの夏はとても暑く、選手村の中央広場では夜遅くまで音楽とダンスで賑わっていて、私たちも浴衣を来てそぞろ歩きを楽しみ、ダンスにも加わったことを懐かしく思い出します。そのローマ市では本年、50周年の記念パーティーが開催されたとの報告がありました。



石井雅子、川西繁子、木原美知子、森実芳子
1963 (S38) 当時中学3年生 東京室内プールにて

Message 09

苦い記憶となつて いる東京大会

木崎 正子 (現姓・藤本)



陸上競技
64年東京

女性の陸上競技が初めて採用されたアムステルダム大会(28年)。日本女性として、初めて国際大会に出場した人見絹枝さんが女子800mでこれまた日本女性初となる銀メダルを獲得した。その後、女子800mは過酷な種目として中止され、東京大会から復活した。

その陸上女子800mの代表に選ばれ、私は東京オリンピックに出場した。当時20歳だった。

現在のようにコーチがマンツーマンで指導してくれた時代ではない。ストレッチということも知らず、科学的なサポートももちろんなかった。男子マラソンの田谷幸吉さんと同じグループで練習をしていたのだが、期待された男子ですらほとんど海外に遠征に行く機会が少なかった時代であったし、私も外国人との試合経験が少なく、オリンピックが初めての大きな国際大会だった。そん

な緊張感もあったのだろう。代表に決まっただけで、私はこれまで経験したことのない足首のケガをしてしまったのである。それだけではない。選手村に入ってから、今度は体にじんましんが出てしまった。これもこれまででなかったことだった。そのため選手村の診療所を行き来する毎日となり、十分な走り込みが必要とされる種目にも関わらず、練習もままならなかった。

迎えた本番。スタートラインに着く。その瞬間は緊張からだろう、痛みを感じることはなかった。たまたま夢中で走った。痛みが走ったのはゴールした瞬間だった。

当時、陸上競技は花形だった。それに地元開催、初めての世界の舞台というさまざまなプレッシャー要因が重なったのかもしれない。ケガをしてしまったこと、自分の精神的な弱さがあったこと、結果的に選手と

して申し訳ない気持ちとともに、今も私の中で苦い経験となつて残って

いるオリンピックである。

Message 10

たくましい 女性選手に期待

井上 喜久子



馬 術
64年東京
72年ミュンヘン
88年ソウル

数多あるスポーツの中で、馬術は唯一生き物と一緒に戦う競技です。しかも、年齢や体重はもろもろ男女の区別がありません。馬術には馬場馬術、障害馬術、総合馬術という3つの部門がありますが、すべて何の制限もなく、ただただ人馬一体となつて戦い、その技が評価されます。

はタレントのようにもてはやされる光景を目にすることが多いような気がします。どうぞ自分を過信せず、足元をよく見詰め、行動してください。

ですから、勝ったときは本当に嬉しく、心からほっとし、負けたときでも頑張ってくれた馬やスタッフの方たちに対して心から感謝の気持ち湧いてきました。と同時に、その日の敗因と、明日からの練習方法のこなど頭の中を駆け巡っています。そうして、その思いは初めて競技会に出たときから73歳で競技生活を終えるまで、変わることはありませんでした。

これまでやってきた競技、またやっている競技を、結婚している人は家庭の一員として、独身であれば自分自身のために、とそれぞれの環境の中で続けていくことができたからこそに楽しいことはないと思います。そして、もしも子どもがいたなら、その子が成長したときに、家庭を守りながらアスリートとしても活躍した母親のことを誇らしく思ってくれたなら、どんなに幸せなことでしょう。独身だって同じです。いつの日かジュニアの育成に携わり、その子が何かをつかんでくれたなら、きっと大きな喜びを感じるに違いあ

りません。女性として、妻として、母として、そしてアスリートとして。そんなたくましい選手が増えて来ることを楽しみにしています。蛇足ですが、私の馬術はあくまで

Message 11 私のオリンピック

鷹野 靖子(現姓・前嶋)



スピードスケート
64年インスブルック

私は今でもときどきスケートの大会や練習している選手たちの姿を見に行くことがあります。見ていると若い頃の気分になり、楽しくなります。

私は64年第9回インスブルックオリンピックのスピードスケートに出場しました。女子のスピードスケート競技がオリンピックに採用されたのは60年開催の第8回ストックホルムオリンピックからでしたから、2回目の冬季大会に出場したことになります。

現在の選手たちは日頃指導しているコーチ、トレーナー、ドクターなどが帯同し、選手のために万全を期す体制ができていると聞いていま

趣味でしたが、その趣味がまもなく86歳を迎える今日まで、いろいろな形でプラスとなっていることは本当に幸せなことだと思っています。

私が遠征した頃の日本にはまだそのような環境はなく、世界選手権大会でも1〜2名の選手に対して1人の監督のみで、しかもその監督は日頃の練習を見てくれていたわけはありません。もともと、当時は日頃からコーチがいたわけではないので、それが当たり前でした。1ドルが360円の時代で、海外では日本との経済力の違いも感じました。スケートへの挑戦する気持ちは負けていたつもりはありませんでしたが、海外では十分力を発揮できず、悔しい思いをしました。母は「靖子のよくな体の小さい者が代表選手になっているようでは」とよく言っていました。私が、オリンピックの3000

ミュンヘン五輪では金メダルかと期待されましたが、椎間板を痛め7位に終わりました。帰国後、山田SCを退部し、治療に専念。76年モントリオールは腰の負担を考え、専門種目を背泳ぎにしました。しかし、ここでもメダルには手が届かず、私のオリンピックは終わりました。

オリンピックやメダルに執着したのは、私の夢の実現「オリンピック選手になりたい。世界一になりたい」の目標があったから。今は、いい経験させてもらった水泳に「ありがとう」と言いたい気持ちでいっぱいです。

Message 13 オリンピックと私

(株)花園万頭非常勤取締役

福中 佐知子(現姓・石川)



バレーボール
68年メキシコ(銀)

68年10月12日午前10時、メキシコオリンピックスタジアムの聖火台に火が点り、122カ国8000人のスポーツマンが集い、16日間にわたるスポーツの祭典の幕が開いた。小学生の頃から密かに抱いていた「オリンピック出場」が現実となった

感激の瞬間だった。

前回金メダルという大きな重荷を背負わされた。新東洋の魔女。チームは米国、メキシコ、ペルー、チェコスロバキア、ポーランド、韓国チームに勝利し、10月26日、無敵同志で迎えた決勝戦。ソ連チームに3対1

mのレースで銀メダルを獲得したステニナ選手(ソビエト)と同走し、スタートから2週目までに先行された距離がフィニッシュまで変わらなかったことを考えてみると、もう少しコンディションの調整がうまくできていたら...と思ったものです。

Message 12 オリンピックと私

西側 よしみ☆(現姓・村山)



競泳
68年メキシコ
72年ミュンヘン
76年モントリオール

「オリンピックの選手になりたい！」と思ったのは、小学校5年生のときでした。

きっかけは、64年の東京オリンピックです。当時、25m無呼吸泳法クロールが泳げるようになっていた私は、東京オリンピックの競泳に強く興味をひかれ、夢中になってテレビを観ました。そのなかで印象に残ったのが、オーストラリアのドン・フレイザーさんです。メルボルン、ローマ、東京五輪の100m自由形において3冠王に輝いた方で、「ドン・フレイザーさんみたいになりたい！」これが、オリンピックを見た

親しくなったフィンランド人の誘いもあって、ヨーロッパのような環境で練習できたら対等に戦えるかもしれないと、真剣に海外で練習してみようと思ったことが懐かしく思い出されます。

私の「将来の夢」となりました。小学校6年生の夏、やっと呼吸法をマスター。50m自由形で全国ランキング7位入賞までになりました。ちょうどその頃、東京オリンピックの日本選手団の結果が惨敗だったことを嘆き、ロート製薬(株)の創業者である山田輝郎氏が「オリンピックで日の丸を！」を合言葉にスイミングクラブを設立されました。その山田SCに入部するには小学生では全国ランキング7位までが入部可能でした。私へのスカウトの言葉は「オリンピック行きたいかい?」「オリンピック行きたい!」即答でした。親

で完敗してしまっただけ。日頃の実力も発揮できず、レギュラーの平均年齢弱冠22歳の若さからくる精神的脆さで自滅してしまっただけ。先輩が成し遂げた金メダルの期待と、想像を絶する重圧による焦りが敗北の原因だったと思う。

しかしながら私は不思議と悔いはなかった。若い時期に世界一を目指し、精一杯努力し、目標に向かって邁進したことは、何物にも代え難い青春の1ページであった。継続し、積み重ね、汗を流し、集団で行なうスポーツの醍醐味を味わえたのである。

ところで、私はオリンピック出場と運命というものの巡り合わせの不

Message 14 女子スポーツ選手に期待すること

日本体育大名誉教授・九州保健福祉大教授

橋口 佳代子☆(現姓・坂)



体操
68年メキシコ
72年ミュンヘン

「TOIだより」第25号の発刊となりました。「TOI会」発足25周年という歴史、そして四世紀半の真つただ中にいる私たち。元アスリート仲間たちとともに「TOI

思議と今も感じている。勝敗の結果は天に任せて、その中で自己の信じた道を歩きたこと、悔いのない、素晴らしい青春時代を過ごすことができたのだ。ひとはそれぞれの人生の中でいろいろな艱難辛苦を経験し、会得した貴重な体験を元に希望を持って前進するものということはある。もちろん、よき指導者の導きがあり、取り巻く環境やたくさんの方々のご尽力のおかげであったことも忘れてはならない。最近のバレー界は衰退しているが、かつてのような情熱を持ったカリスマ性のある指導者が出現し、バレー王国日本の復活を願っている。

会」に祝杯を挙げ、そして歴史を一つ一つとくたさった先輩方に感謝し、次に続く後輩たちには会の発展と存続を期待しています。男子より女子選手の活躍が目立つ最近の状況です

が、この「TOL会」は大切な役目を持ち、責任があります。この記念すべき年だからこそ伝えていかなくてはならないこともあります。

私は2回のオリンピックに日本の代表選手として出場しました。オリンピック代表選手になろうと目標を立て、努力し、その結果代表選手になりました。自分の力を出し切り臨んだオリンピック大会です。とはいえ、1回目の大会が終了したら選手生活をやめて好きなことをしようとして自分では決めていました。しかし大先輩に「あなたは選手をやめてはいけませんよ」「さらに精進しながら頑張りなさい」「オリンピックの代表選手になるということは、1人の選手に掛かる費用は○百万円。すべて日本国民の税金で行かせてもらっているのです」「次の選手が育ち、

また自身のできなかつた技術や力や次の世代にしっかりと渡すことがあなたの使命ですよ」などと言われ、2回目のオリンピック（奥さん選手でしたが）に気持ちをつなきました。大先輩の意思に沿ったかどうかはわかりませんが、その後は多くの代表選手を育ててきました。

代表選手になった以上責任を持ち、発展を願ひ、次の世代にバトンをしっかりと渡す役割があると思っています。「自分だけのこと」のみでなく、育ててもらって今の「自分」があるのです。恩返しをする使命があること、そして感謝のこころを持つ大切さが選手たちに伝わって、そして「心と力と技術をしっかりと受け継いで」成長してくれること。それが次の日本を代表する女子選手に期待することです。応援しています。

Message 15
女子スポーツに期待すること

杉並区教育委員会
白井 貴子☆



バレーボール
72年ミュンヘン
76年モントリオール

ミュンヘンから36年、モントリオールからは32年が経過しました。

現在は杉並区にて、中学生の部活動をサポートする専門非常勤職員として

女」と世間が大騒ぎした快挙すら知らずに小学校を卒業。中学校でバレーボールと出会い、始めました。部活動でのバレーボールは楽しいもので、2年生のときの作文には、将来の夢はバレーボール選手としてオリンピックに参加したい」と無邪気に書いていました。しかし、当時の私は地区大会さえ勝てない、弱小チームの一員でした。

そんな私が高校へ進学し、良き指導者と巡り合えたことで、バレーボール人生が一転したのです。血の汗を流し、苦渋を飲みこみ、精根果てるまで練習を繰り返し、築き上げていった力は、インターハイ、国体の上位入賞、そして「春高バレー」の全国制覇でした。これをきっかけに実業団に入り、本格的に社会人としてオリンピックを目指し、バレーボールを続けることになったのです。

とはいえ、高校とは違い、強者揃いの実業団。レギュラーにさえ入れずに、夢が夢のまま終わってしまいました。そうになったこともありましたが、そんなとき、1人の選手のアクシデントで、レギュラーが空くという千載一遇のチャンスが巡ってきました。チャンスを目前にし、高校時代の恩

師の言葉「掴み損ねた女神は二度と微笑まない」の教えを固く信じ、死に物狂いで練習に励みました。その結果、76年のモントリオールオリンピック大会に出場。「東洋の魔女」以来の金メダルを獲得することができたのです。

オリンピックの夢が最高の形で実現したことは、私の人生の大きな節目となりました。

私自身、嬉しかったことはいくつもありませんが、それ以上に両親、仲間、恩師、と周りで支えてくれた人たちが喜んでくれたことに、とても感激しました。最高の結果を出した自分自身を褒めたいと思う気持ちもありましたが、それ以上に周りの人たち、お世話になった人々への感謝の気持ちを忘れてはいけないことを学びました。最高の舞台で最高の力を発揮できたのは、大勢の人の支えがあったからこそ、実現できたのです。

オリンピックを経験した私の役目は運動することの楽しさ、辛さ、すべてを含むスポーツの素晴らしさを1人でも多くの人たちに伝えること。これを私の人生の生き甲斐とし、これからも歩んでいきます。

て活動しています。

スポーツと女性に関しては、東京オリンピック以降、大きな環境の変化があったと感じています。

トップアスリートと頂点としたピラミッドの下には社会人・学連・国体・総体：部活動、児童団体など種目ごとの組織が存在し、男女の差がなく、さまざまな機会やチャンスに触れられることには、平和の象徴であり、豊かな時代を感じることでできます。幼児、児童、生徒と成長しながら種目や目標を設定し、ステップアップして、一握りのアスリートが生まれます。

では、果たして、女性がスポーツを行なう環境は、男性の環境と同等になったといえるのでしょうか？

私が今、声を大にしていきたいことは、女性トップアスリートたちのその後の役割です。ここは未だに男

Message 16
私のオリンピック

TOL会副会長
高柳 昌子☆(現姓・吉田)



バレーボール
76年モントリオール

九州の田舎町で生まれた育った私

は、東京オリンピックで「東洋の魔

性社会となっており、指導者、コーチ、監督には、女性のポストが極めて少ないことが嘆かわしく、悲しい現実だと感じています。私はこのところ、女性がスポーツと関わりながら進化しなければならぬ部分だと考えます。こういった状況の打開には「待つ」ではなく、一歩前に「進む」気持ちを大切にしたいと思っています。私が杉並区の部活専門非常勤という職を得られたのも、自ら一歩前に進んだ結果だったからです。

みなさんの勇気ある一歩が明日の女性スポーツ環境を改革し、コーチや監督などのポストニーズの拡大を可能にするのではないのでしょうか。

女性らしさや女性特有の課題などを女性自身が解決する、新たな女性スポーツ環境の仕組みづくりを行ないたいですね。

Message 17
女子スポーツに期待すること

体操教室SEGクラブ主催
吉川 智恵子☆(現姓・佐野)

体操
76年モントリオール



チャスラフスカさんが訪日した際、パーティーにて

あの子って何者？ と思ったのは、76年オリンピックモントリオール大会、体操競技本会場のことでした。私たちが試合前最後の本会場練習を終えたばかりでほととしているときだったと思います。体育館の向こう側にある平均台の上を、まるで床の上かのようにまったくふらつくことなく演技している女の子がいたのです。言い替えば機械仕掛けのお人形です。とても人間技とは思えませんでし

た。その上白いレオタード、高いポニーテール、小さな顔、細い身体、長い手足。まったく無駄のない理想的なフォルムでした。世界には

こんなにも何でも揃っている女の子もいるんだー!!と、あっけに取られた瞬間でした。それが、コマネチ選手です。

彼女が選手であった頃のルーマニアでは、有望選手が1ヶ所に集められて合宿生活をしていました。敷地内に体育館はもちろん、宿泊施設、トレーニング場、そして学校もあつたと聞きました。その施設の中で一

モンドセレクション 3年連続最高金賞受賞



燻製屋熟成あらびきウインナー90g



2010



2009



2008

ハム・ソーセージ業界初、モンドセレクション最高金賞を3年連続受賞しました。

燻製屋熟成ウインナーは、じっくり72時間以上熟成することで素材の旨味を最大限に引き出したウインナーです。

今回も、その品質が世界的権威を持つ食のコンテスト「モンドセレクション」において、

3年連続の最高金賞受賞の栄誉に輝きました。世界が認めたウインナーを、ぜひお召し上がりください!

MONDE SELECTION GRAND GOLD QUALITY AWARD 2010

OMO丸大食品

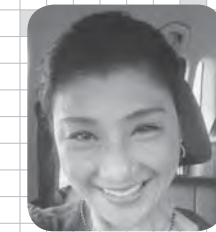
番身体の動く午前と午後の時間帯に練習して、その他の時間に学校に行くのです。彼女はオリンピック当時14歳でしたから、その数年前である小学校時代からそのような生活を送っていた事になります。

そのような仕組みすべてが完全に身体的、精神的発達に有効な手段かという疑問も残りますが、少なくとも学校生活が1日の大部分を占める日本の子どもたちよりも技術的に上達する近道であることは事実だろうと思われまます。

Message 18

私のオリンピック

春岡 杜史子☆



競泳
76年モントリオール

私は12歳のときに競泳の平泳ぎの選手としての才能を認められ、中学校入学と同時に親元を離れ英才教育を受けました。

競技を好まず、日々自分との戦いでしたが、家族や仲間を支えられ、オリンピック出場を果たすことができました。いろいろな方々の思いを小さな背中に背負い、やっとなりに入

れたオリンピックへの切符。でも私は、オリンピックに出られたのは、私の実力ではない! 頑張らせてくれたから、頑張っただけであって、なんか違う! とかたくなな思いを抱き、盛り上がる大人たちに対して、気持ちには萎えていました。

そんな私が縁あって、指導者となり選手の強化育成を始めてから、自

分を認められるようになりました。オリンピックに出場できたことを誇りに思えるようになりました。オリンピックへの方程式はわかっているのに、ともに頑張りぬける選手がいかに少ないか痛感し、自分が普通ではない険しい道乗り越えた人間の1人であったことに気づかされたのです。いろんな自分の葛藤や経験が選手をオリンピックに導く過程において活かされ、助けられました。TOOL会に参加し始めた頃、ちょうどオリンピックに向かっての選手強化の真っ最中でした。私はTOOL会で素晴らしい先輩方や仲間の存在や活

Message 19

オリンピックと私

国際基督教大高教・全日本アーチェリー連盟理事
佐藤 美奈子(現姓・穂苅)



アーチェリー
76年モントリオール
84年ロサンゼルス

モントリオールオリンピックは大学3年生、20歳のときでした。大学から始めたアーチェリーでオリンピックに出てしまいました。あのときはオリンピックを狙っていたわけではなく、大学王座日本一を目指してチームの仲間と努力していただけ

です。そんな意識しかありませんでしたが、トントンと個人的にも大きな試合に出られるようになり、気がついたらオリンピックの選考会でした。プレッシャーなく競技して、トップで選考していただきました。このような感じだったので、あとがたい

躍を知り、勇気とパワーをいただきました。オリンピック選手を育て上げるということは、想像以上にハードでしたが、選手がオリンピック出場を決めたときは、自分のとき以上に嬉しかったし、自分が辿った道を選手を通して再確認できたように思います。元オリンピック選手、されどオリンピック選手。上には上の世界はありますが、トップに掛け上がった、さまざまな競技の方々とのつながり、絆を大切に自分の場所でもこれからの励みとして誇りに思い頑張りたいと思います。

い選手が増えました。顔立ちもそうですが、見られることを力に変えられるのです。

そんな選手たちを取材していると、私の現役時代と大きく違うことが二つあります。一つは心のゆとり。大会場で会うと「先日は取材に来ていただきありがとうございます。今日は解説ですか」と人のことを気にかけてくれます。私にはこんな余裕はありませんでした。社会性のある選手が増えたのは、彼女たちが競技生活を楽しんでるからだと感じます。そして指導者とその環境づくり、雰囲気づくりを大切にしていることが私の頃と違うもう一つの点です。昔は選手よりも指導者が負けず嫌い（今も変わりはないでしょう）。中学、高校、大学とそれぞれに自分が指導している期間に選手を一番にしようと思いがちでした。しかし最近、高校や大学の強豪チームの監督に、指導する上で何を一番大事にしているかと尋ねると「走ることを嫌いにさせないことです」という言葉が



途上国の子どもを支援する国際NGO活動で、ラオスの子どもたちと走る

「走ることを嫌いにさせないことです」という言葉が

入れている高校の先生方の姿を見つけてと涙がでます。そんな教え子の中から五輪マラソン選手が生まれるのです。

最後に選手たちにアドバイスを一

真つ先に返ってきます。余裕を感じます。自分に向き合う時間が2時間以上もあるマラソンは、人生においてのさまざまな経験が後半の勝負で底力を生みますから、早熟な選手では大きな目標を達成できません。高校時代に花を咲かせた早熟代表の私は五輪で失敗しました。

冬の美濃路。全日本実業団女子駅伝を沿道で見守りながら、自分の教え子が今年は何人走ったかを楽しみ

て喜んだ。石田、夏見円の両選手は日大の後輩であるが、実はまだ会ったことはない。

日大女子スキー部は昭和46年、故八木祐四郎監督（元JOC会長）の

Message 20

オリンピックと私
〜後輩が果たした夢〜

秋田県湯沢市立湯沢北中学校校長
照井 美喜子（現姓・後藤）

スキー距離
76年インスブルック

パンクーパー冬季五輪、クロスカントリースキー女子30kmで石田正子選手が5位入賞を果たし、冬季オリンピック史上アジア勢最高位に輝いた。嬉しくて、嬉しくて、小躍りし

へんでした。オリンピックの期間中は「自分はここにいるべき人間ではない」と考えてしまいましたし、オリンピックが終わってもそのことがずっと心に引っかかったままでした。

大学を卒業してすぐ市立高校の体育の教員になり、ボイコットしたモスクワは仕事で精いっぱい競技をする余裕がありませんでした。教員4年目に生徒の希望でアーチェリー部を創り、自分もまたアーチェリーにのめり込んでいきました。そして、モントリオールから引きずったままの気持ちを決断するために「もう一度オリンピックに出よう！」と気持ちが固まりました。今度こそ、オリ

ンピックを目標にしてそれを実現させるために努力しよう。そう強く決心しました。その結果、ロサンゼルスで8年ぶり2度目の出場を果たしました。モントリオールのときは違う自分が確かにいました。大きな目標でも頑張れた自分を認めることもできました。

振り返ってみれば、モントリオールでは課題をもらい、ロサンゼルスではそれを解決する機会が与えられました。「物事は主体性を持つて行うことに意味がある」ということを2つのオリンピックから学びました。オリンピックは私をずいぶん成長させてくれました。オリンピックに心から感謝しています。

Message 21

女子選手の競技力向上から見えるもの

スポーツジャーナリスト・大阪芸術大教授
増田 明美

マラソン
84年ロサンゼルス

女子マラソンは多くの人にとって関心事のひとつになっているようです。よく、「増田さん、競技レベル

肝いりでできた部であり、私はその1期生である。距離選手が3名で、かろうじてリレーメンバーだけは揃った形であった。あれ以来、女子部は今年で40年になる。この間、多くの後輩たちが日本の代表として活躍し、日本女子距離陣の牽引をしてきていたことをありがたく、誇りに思っている。今だから話せるが、先輩のいなかった4年間、女子部は幾度も崩壊の危機があった。初年度こそ3名でスタートしたものの、次年度からは高校トップレベルの選手も入部するようになり、部内で勝つことが全日本を制することと同様に強く変身していったのである。お互いが切磋琢磨し、走り続けてきたが、部内での軋轢もあり、正直いつて精神的にきつい日々を過ごした。競技

をやめるか続けるか揺れ動いた4年間、監督・コーチ・友人など多くの人に支えられ、日本国内でも数年感は頂点に立つことができた。また、北野建設や三馬ゴム、カザマスキーのような企業と学生とが競り合う中で、日本の競技レベルを向上させようと燃えた4年間でもあった。

昭和51年、冬季インスブルック大会。私はただ1人の日本代表として20位以内を目標に走ったが、5km26位、10km30位に終わった。自分の夢が果たせなかったからこそ、この度の石田、夏見両選手の活躍が自分のことのように嬉しい。多くの人に支えられ、努力を惜しまず歴史を変えてきたクロスカントリーの後輩たちに感謝したい！

Message 22

オリンピックと私

筑波大准教授
元好 三和子（現姓・本間）

シンクロナイズドスイミング
84年ロサンゼルス（ソロ・デュエット/銅）

今のシンクロ選手たちの目標は「オリンピック」ですが、私にとって「オリンピック」はTVで観戦するものでした。なぜなら、私がシンクロを始めた当時はオリンピックとは無縁な競技だったからです。

私がオリンピックを意識したのは82年の夏でした。シンクロでは最高峰の国際大会である4年に1度の世界大会を繰り返した結果「オリンピックに出られるかどうかかわらないけど、できるころまで挑戦してみよう」と考え直し、選手生活を再開したのでした。

入れて3名)でした。私は4ヶ月前(84年4月)に行なわれた代表選手選考会でデュエット代表切符を手に入れました。そして本番までの短期決戦で猛練習に励んでいる最中、衝撃のニュースが飛込んできました。ソロ種目が加わったというのです。コーチから「あなたがソロを泳ぐのよ」とさらっと告げられました。私は「何で私が?」「デュエットだけで精一杯なのに」と複雑な思いでした。結果的にソロでもメダルを獲得でき、今では感謝しているのですが、当時はいくぶん葛藤がありました。



れないことですが、ソロが採用されたのは総競技者数に変化がないことと、開催国アメリカが金メダルを獲得できる可能性が高かったからだといわれています。実際、このオリ

ピックでアメリカはソロ、デュエットの2種目で金メダルを獲得しました。スポーツにおける国際政治力を痛感した最初の出来事でした。

Message 23

オリンピックと私

バレーボール解説者
中田 久美



バレーボール
84年ロサンゼルス
88年ソウル

13歳の春休み。それまでバレー

ボールをまもとにやったことがない

私の目に留まったのが、1冊のバレーボール雑誌でした。そこに載っていたのは女子バレーで3冠を達成した故・山田重雄氏の英才教育募集の記事で、心が震えたことを今でも覚えています。
親の反対を押し切って試験を受けにいき、テスト中に「バレーボールと私」か「オリンピックと私」をテーマに作文を書かなくてはならず、決められた時間内で必死にバレーボールへの思いを書いた記憶があります。バレーボールが自分にとって、なぜ、そこまで魅力的なものだったのか……。きつと「自分を表現できるものかも？」と考えていたのだと思います。そして、そのチャンスをつかむために親や友だちと離れることに対して不安も寂しさもありませんでした。

テストは合格。私のバレーボール人生が始まりました。毎日練習する体育館には、モントリオール五輪優勝の瞬間が写っている大きなパネル。日々懸命に練習するうちに不必要なものは自然と自分から離れてい

き、私の夢でもあった「オリンピック」に焦点が定まっていきました。バレーボールを初めてから5年、夢にまで見たロサンゼルス五輪。私の気持ちは夢を叶えたというより、女子バレーの伝統と歴史を消してはいけないという責任感に変わっていました。結果的には3回のオリンピックを経験しましたが、試合内容はほとんど記憶に残っていません。特に現役最後と決めて出場したバルセロナ五輪では、日々の練習で自身自身の技術の追求はもちろんですが、これからも走り続ける後輩たちにしつかりとバトンを手渡さなければ……という思いこそが現役最後の仕事だと考えていました。
残念ながらオリンピックでの世界一は果たせませんでした。夢を叶えるためにたくさんの人に支えられ、いろいろなことを学べたことが私の財産です。今後は指導者として、オリンピックを目指している選手たちにつなげていきたいと思っています。

Message 24

終わるためのかけがえない、最高の舞台

ロンドンオリンピック・新体操強化本部長
山崎 浩子☆



新体操
84年ロサンゼルス

山口百恵になりたかった。時代のスターであり、衣装や照明、手先や視線の使い方が曲と見事にマッチして、歌手というより、芸術家であった山口百恵。

新曲を出すたびに彼女は新たな顔を見せ、たおやかな女、情熱的な女、クールな女に変身した。そして人気絶頂のときにステージにマイクを置き、引退した山口百恵。

私はそんな山口百恵に憧れ、彼女の生き方をまねたかった。次の作品ではどんな曲を使い、どんなレオタードを着用し、どんな女を演じるかを考え、指先の動かし方、視線の送り方にも気を配った。そして彼女と同じく、「自分が最高の時に引退しよう」……そう決意した。

であるならば、自分の「最高の時」を演出しなければならぬ。私はオリンピックをその舞台に選び、最高の時にするために、ひたすら練習を

重ねた。彼女のように一番輝いた姿を残して引退するためには、オリンピックをなんとしても成功させなければならなかった。

そう考えると、苦しい練習も苦しさだけでは終わらなかつた。この日をこの練習を乗り越えさせれば、自分自身がキラキラと輝くことができるのだ、と汗をほとばしらせた。

84年、ロサンゼルスオリンピック。私はその舞台に立てることが嬉しくてならなかつた。世界中の人たちが、私の引退試合を見守ってくれると思うと、それだけで幸せな気分になった。

新体操を始めたあの日、きつい練習に耐えられなくて新体操をやめようとしたあの日、自信をなくして打ちひしがれたあの日、「今できることを一杯やってください」という言葉で救われたあの日、思い出し、仲間や同級生や恩師に両親……すべて

Message 25

1988ソウルオリンピック番外編
ソウルの夜

宮原 美江子☆(現姓・友寄)



フェンシング
84年ロサンゼルス
88年ソウル

の人に感謝して私は舞った。オリンピックは私にとって、初め

での、そして終わるためのかけがえない最高の舞台だった。

競技が終わってあとは閉会式を待つばかりというある夜、宿舎に突然韓国女子チームのキャプテンとナンバー2の2人が訪ねてきた。今まで大会では何度も顔は合わせて来たものの一度も言葉を交わしたことがなかったのが驚いた。開口一番「ドリッキング、レッツゴー」だった。女子同士だということもあり、わざわざ誘ってきたので、とりあえず彼女たちについて夜のソウルに繰り出した。

選手村を出て歩くこと5分。「ファースト、クラブ。OK?」と聞かれ、ただ頷いた。ふかふかのソファに座り、いきなり真露をストリートで一気に煽る2人にビックリしたが、お酒が入り、いろいろと話してみるとなかなかいい感じだった。キャプテンの王さんはこのオリ

ンピックを最後に引退し、結婚するということだった。引退前に私とゆっくり話をしてみたかつたらしい。韓国と日本は妙なライバル関係であったため、仲良く話をしてはいけないう空気があったが、英語・日本語・ジェスチャーを交え、話題は尽きることがなかった。フェンシングについて、恋愛について、お互いの国の風習について、など。2軒目は屋台で飲んだ。かなり打ち解け、笑いあっていたとき、隣の席のおじさんが私に「日本人か?」と聞いてきた。なんだかわからないけれど絡んできた。彼女たちは私を真ん中に挟むように席を替わり、そのおじさんに猛烈な勢いでまくしたてた。韓国語が飛び交う中、あっけにとられてみると飲み代を置いて突然「ラッ!」とナンバー2が叫び、猛ダッ

シュで選手村のゲートを目指して走らされた。ゲート目前で振り返ってみると、遙か後ろにおじさんがヨタヨタとなりながら追いかけてきていた。あんなに飲んでいたので、

わらず、すごいダッシュができたのはやっぱりオリンピック選手なのせだ。技だろうか？と変に感心した夜だった。

Message 26

私の目標、ソウルオリンピック

星野 美香 (現姓・馬場)

卓球
88年ソウル
92年バルセロナ

私が卓球を始めたのは、小学校3年のとき。兄が半ば強制的に「お前は囲碁や、将棋など対人勝負が得意だから卓球に向いている。だから、今日から毎日教えるから」と言われ、教わることに。その兄が正にスパルタ指導なのです。私はボールを打ちたくなくて、足でボールを蹴って遠くへ取りに行くのですが、それが見つかって叱られて……。近所の方々は、また、美香ちゃん叱られて、大泣きして家に帰ったな」と、いつも笑っていたそうです。

学生だったときなのですが。それが私の目標になって、目指すことが当たり前になっていました。それから「は、目標は？」と誰に聞かれても「ソウルオリンピックに出て活躍すること」と、答えていました。

人間とは面白いもので、そう思い込むと自然にそのように努力したり、結果そうなるものです。ですから、ソウルオリンピックでは、いつも緊張しやすい私が、あまり緊張せずにプレーできたように感じます。そう考えると目標とは、非常に重要なものだと感じます。卓球を引退し読んである本に、「必ず目標をたてなさい。そして本当にそうやりたいと心から願いたい」と、書

ことを考える暇はなかった。これをやり抜けばメダルが獲れる、と300%信じていた。そして、それが現実となったときは嬉しかったけれど、ある種、当然のことのようにも思えた。

しかし、さらなる上を目指して行きたいバルセロナ大会。私は途中休養期間を挟み、長野五輪招致活動など社会勉強をして自分を豊かにするように務めた。それでも補欠として挑んだ2度目の五輪で私の出場はなかった。ソウルのとときと同じほどに頑張っていたのに……。五輪への強い思いはソウル以上なの……。唯一異なっていたのは、300%を獲れると信じていたソウルと、私が泳げなかったらどうしよう。私が泳いだらメダル獲れるかなあ……。という不安がいつも心にあったバルセロナ。自分は生きている価値すらないほどの悲しみに暮れたバルセロナ五輪だったが、スポーツの厳しさを、だからこそ輝くオリンピックの意義を知ることができた貴重な体験である。

Message 28

私とオリンピック

埼玉県警察本部
千種 寿代☆

ライフル射撃
88年ソウル
92年バルセロナ

私はライフル種目の中のピストル射撃で2度、オリンピックに出場させていただきました。射撃はオリンピックの種目(男子)としても古く、また参加人員も多い競技ですが、特に日本では銃を持つことについて厳しい制限があり、一般的なスポーツではありません。中学・高校と運動部に所属してい

たものの走るの遅く、ジャンプ力もないおデブさんだった私が射撃を始めたのは二十歳。日本での競技人口が少なかったおかげか、始めた当初から、「すぐに海外に行けるよ」とおだてられ、「豚もおだてりや木に登る」ごとく、良い成績を出せるようになり、オリンピックに出られるまでになりました。

いてありました。そういえば私の目標は、ソウルオリンピックに出て活躍すること、と立てて、メダルを獲る、と小さな頃から願って口に出していなかった！

私にとつて、出ることすら可能性が少なかったのですから、仕方ないこと。ただ、自分や、世界が理解できる年齢になったときにもっと夢や目標を大きく、明確にし、必ず達成する、と願って努力すべきだった。そうすれば脳と、体がその様に行動したのにと、痛感しています。

Message 27

2つのオリンピック

アーティスティックシンクロッチ、スポーツコメンテーター
小谷 実可子

シンクロアイスダンス
88年ソウル (ソロ、デュエット/銅)
92年バルセロナ

私は88年ソウルと92年バルセロナの2大会に出場したが、シンクロアイスダンスは84年ロサンゼルス大会で女子の新種目として取り入れられたばかり。そこでメダル獲得を果たし、次のソウル大会には大きな期待がかかってしまった。

が滑ったらどうするの？」「シンクロの人は泳げるの？」なんて質問をされなくなった。

五輪種目になってからというもの、それまでは関係者しかいなかった大会会場に多くの一般人や報道陣も訪れるようになり、テレビでも中継され、水中の様子も見られるようになる、やっと「プールの底で足

まったくのマイナー競技から、オリンピックでメダルが期待されるようになる間の変化はすさまじく、日本代表としてオリンピックに出場する私の周りも日々過熱していった。「プレッシャーは？」と聞かれることも多かったが、「世界中の誰にも負けないほどの練習をしよう」とチーム一丸となって練習に取り組んでいた私たちにプレッシャーなんて



初めてのオリンピックでは、何か「ゲン」をかつがなければいけないと思ひ、ビールとアイスクリームを断ちました。競技と何の関係があるんだ、と思われようが、強い気持ちを保つために何かをやらずにいられなかったような気がします。その甲斐あつてか、オリンピック本番では、ものすごく集中して撃つ

ことができました。周りの景色や音はまったく気にならず、自分と標的だけの世界で、ただ、いつも通り、銃を構えると勝手に身体が反応して、いい射撃ができたように思います。後半は意識が入って崩れてしまい、入賞はできませんでしたが、やるだけのことや「た」という気持ちで初めてのオリンピックを終わることができました。オリンピックには、自分だけの力で出られたわけではありません。家族や職場の方々、そして一緒にオリンピックを目指した仲間らに改めて感謝します。

Message 29

次の世代への新たな道づくり

筑波大学院准教授
山口 香☆

柔道
88年ソウル (52kg級/銅)



女子柔道には長い間競技への道を閉ざされ、自分の力を試すことがで

きなかつた先輩たちが大勢います。女性スポーツは社会の偏見と闘ってきた歴史でもあります。その中でチャンスを得、オリンピックという舞台に立つことができたことに心から感謝しています。

現在、女性アスリートは五輪参加者数でも、競技成績においても、男性に引けをとらなくなりました。では今後、女性スポーツはどこを目指し、何に向かっていったら良いのでしょうか。

女性の場合、選手引退後にも組織の人間として、指導者や審判として、スポーツに貢献している割合は男性に比べて圧倒的に少ないのが現状です。男性に比べて結婚、出産、育児などに時間を割かれ、活動が制限されることは確か。やりたいと思っても機会に恵まれないケースもあるでしょう。しかし、そういった状況にあっても、大事なことは多くの女性オリンピックアンがスポーツ界、社会に貢献するという気持ちを持つこと、その機会を持つシステムを作り上げることです。

前会長の木原光知子氏はTOLがその役目を果たすことを願っていた。有名な人でなくても、メダリストでなくても、多くのオリンピックを引っ張りだして役目を与え、活躍の場をつくることに尽力されました。私たちはこうした木原さんの遺志を継いでいかなければなりません。

女性には女性ならではの力があると考えます。女性ならではの欠点もあります。おそらくスポーツ界での女性の立場、抱えている問題は社会でも同じだと思います。私たちが目指すべきなのは、選手を終えた後でも女性が活躍できるようなシステムを構築することです。「見る、やる、支える」スポーツがあるといわれますが、女性が「見る」「やる」だけでなく「支える」部分を担うことが、次のステップとして求められているのです。多くの先輩方が私たちに道を開いてくれたように、私たちは次の世代に新たな道を開いていかなければなりません。

Message 31

これからの女子スポーツ界に望むこと

講道学舎常務理事 持田 典子☆(現姓・北田)



柔道 88年ソウル (61kg/銅)

前TOL会長・木原光知子さんは常日頃からこう私たちにおっしゃっていた。

「我々オリンピックは人様に支えられてきたから今がある。だから我々は地域社会に恩返しをしていかななくてはならない」

女性には結婚、出産と男性とは違う意味で抱えていかなければならぬものがある。その中で地域社会に貢献できることとどうとどんなことがあるだろうか。例えば、公立の学校などへ行って話をし、指導をするといったことも貢献の一つだ。教育の場では、本物に触れさせることを望んでいるが、その伝手が無い、予算がないといったことで実現していないことが多いと聞く。学校教育ばかりではない。クラブ活動、クラブチームなど、我々の持っている技術、経験などを必要としてくれるところではなくさんあるだろ

う。しかしながら、こういう役割はとかく知名度の高い選手にスポーツがあたりがちだ。

そこで、私は「オリンピックバンク」のようなものをTOLでつくることを提案したい。誰でも気軽にお願いできる場所があれば、もともとオリンピックアンを身近に感じてもらえることができ、たくさんの子どもたちに本物と触れ合う機会を与えられるはずだ。また、オリンピックであれば知名度も関係なく伝えられることに大差はない。埋もれているたくさんのおリンピアンを掘り起こすにもつながる。その役割を果たすことができる団体、それがまさに我々TOLではないかと思う。

各分野において私たちが極めた技、理論を現代の子どもや親に伝えていく責任が私たちにあるのではないだろうか。

Message 30

オリンピックと私の2つの銀メダル

日本大准教授 田辺 陽子☆



柔道 88年ソウル (72kg/銅) 92年バルセロナ (72kg/銀) 96年アトランタ (72kg/銀)

女子柔道がオリンピック正式種目として入ったのは92年バルセロナ大会から。前回のソウルは公開競技でした。当時私は大学4年生。「これがオリンピックなのか」ということを感じさせられ、閉会式で聖火が消えていくのを見ながら、4年後、一番高いところで「君が代」を斉唱したいと強く願っていました。

それから4年間はとにかく稽古しました。念願叶い、迎えたバルセロナ。十分な稽古、トレーニングが成果を出し、自分のスタイルで試合をすることができましたが、最後の決勝で韓国の選手に判定で敗退。残り30秒、このまま試合が終われば勝てると思いきや、守りに入ってしまったことが勝負の分かれ目となってしまいました。

帰国後は、気持ちも体も疲れ果て、次の目標もなまま悶々とした日を送っている自分自身に一つの区切りをつけようと現役引退を発表。しか

し、年月が経つにつれて何かやり残したことがあるのではないかと感じるようになりました。しかし今さら選手として復帰する勇気がわかずに毎日稽古だけはしている状況でした。

いつからどうしてというはっきりした理由はありませんが、会社の理解、生活や練習環境の変化などいろいろなことが混じりあって少しずつ「もう一度やってみようかな」という気持ちになっていったのです。そしてどうにかアトランタに間に合いました。膝のケガが続き十分な稽古、トレーニングがほとんどできなかったが、前回のようないい思いだけはしないうよう、最後まで攻めることを心がけました。結果は前回と同じ銀メダルでした。

Message 32

女子スポーツへの期待

スポーツキャスター、タレント、女優 大林 素子☆



バレーボール 88年ソウル 92年バルセロナ 96年アトランタ

W杯サッカーに日本中が盛り上がり、石川遼選手や、宮里藍選手の活躍に心躍らされ、日本・大和魂を世界にアピール!! その一方で国技である相撲の賭博事件など、残念な暗いニュースもありました。

我がバレー界。今年は、ニュースでもあまり取り上げていただく機会もなく、バレーファンのみならず、心配の声もあります。お待たせ致しました。8月のワールドグランプリを皮切りに、秋には世界選手権を控え、全日本男女とも、頑張っております。

来年のW杯では、ロンドン五輪の切符を賭けて熱い戦いを見せてくれるはず。私たちOG、解説陣も、選手たちの想いを伝えるべく、気合を入れております。私自身、ソウル、バルセロナ、アトランタと3度の五輪を経験させていただきましたが、メダルに手が届

きませんでした。2度目の五輪に出たとき世界のバレー事情を感じました。そう、1つの国だけでは、得られない、技術や経験、環境を!!

バレーは、イタリヤのセリエAのリーグが最高峰であり、トップ選手はみんなそこでプレーします。強い、最高の環境で生き残るには、また上のレベルに自分を高め、上げていく努力をします。私自身はセリエA・ブルーメル・アンコーナというチームで、1シーズンプレーしました。厳しい世界だけど、命懸けでバレーをする! 生き残るためにすべてをかけた貴重な時間でした。日本選手の海外への移籍は企業からすると、困るけれど、後のことを考えると必要です。

どんどん、世界へ行ってほしいし、また世界から、呼ばれる選手が出てほしいなあ、と改めて思います。強い女子バレー!!と再び呼ばれ、ロン

ドンでメダルを獲得する姿が私に伝える。これが私の夢であり、私が叶えられなかったことを、後輩に託す願いでもあります。あと2年、日本で、世界で、もまれ強く逞しいチー

Message 33

私とオリンピック

日本29er級協会理事
野上 敬子

ヨット
88年ソウル

私が出場した88年ソウルオリンピック。早いものでもう22年が経ってしまいました。大学入学と同時に始めたヨットですが、オリンピックに出るまで22年かかりましたから、同じ年月が流れたことになりました。ヨット競技はマイナースポーツですが、本来、男女の区別のない数少ないスポーツの一つです。とはいえず、当時、ヨット部では、女子は戦力にならないから要らない、といわれ続けて同等には扱ってもらえませんでした。練習は思い通りにできず、出られるレースも限られていました。まして、オリンピックは夢のまた夢で、私にはチャレンジすることなど

を習っていたが、好きで続けられたものが水泳だった。水に潜ると無我夢中になった。懸命に泳いでいた幼い頃は今でも思い出す。私が通っていたスイミングスクールは全国大会に出場するような選手が多かったわけではないが、姉が当然かのように出場し好成績を修める選手だったため、私も全国大会に出場することが当たり前のようになっていた。姉の影響は大きく、物怖じしない性格を確立できたのも幼い頃の環境によるものかもしれない。92年、バルセロナオリンピックで金メダルを獲得したが、目標を遥かに超えた結果となった。バルセロナから帰国後、「最年少」という記録が過度な注目を生み、14歳にして心に大きな傷を負った。心身ともに折れそうになり、大好きな水泳さえ嫌になりそうだった。目標を失いかけた頃、両親や友人の支えもあり、何とか水泳を続けることができたことが救いだっただ。大好きな水泳をゼロから見直し、もっと速く、もっと速くと、記録を追い求めていた。

考えられないことだったので。ところが、ソウルの10年ほど前から国際ヨット連盟で、女子にもオリンピックに出る機会を与えようという動きが出てきて、ソウルオリンピックから女子種目が増えられたのです。2人乗りの女子470級種目です。ヨットの面白さに魅かれて大学卒業後もレース活動を続けていたので、オリンピックに女子種目の採用が決まった時点で、琵琶湖からペアを組む斉藤愛子の住む神奈川県江の島に拠点を移して、チャレンジが始まったのです。本番の結果は残念ながら目標には届きませんでしたが、3年間のオリンピックキャンペーンは充実してい

96年、アトランタオリンピックの出場権を獲得できたことが何よりも嬉しかった。目標を改め、その舞台に立てる喜びは金メダル以上かもしれない。それまでの4年間は激動だった。月日が長く感じた。いろいろな感情が交錯し、一時はやめることまで考えていたのだから。大きな支えとなったのは、両親や友人、そしてコーチの存在はもちろんだことだが、「水泳」を続けていたことが一番だった。無我夢中になれる、それは幼い頃に抱いた感情。私は「水泳」というスポーツを通して多くのことを学んだ。技術だけではなく、人へ感謝すること、人間教育として大きく成長させてもらった。現在、水泳、スポーツを多くの人たちに楽しんでもらえるように活動している。好きになってもうえれば、良い選手になってくれれば、という気持ちがある。私の道を切り開いてくれた「水泳」は現在の活動の礎となっている。



1987年ヨーロッパ遠征に向かって左が著者

Message 34

私の道を切り開いた水泳

スポーツ環境アンバサダー
岩崎 恭子(現姓・斉藤)

競泳
92年バルセロナ(200m・金)
96年アトランタ

姉の背中を追って、水泳を始めたのは5歳のとき。他にも習字やピアノ

Message 35

女性とスポーツ

高柳 裕子☆

フェンシング
92年バルセロナ

競技生活から離れ、10年後にフェンシングの指導を再開致しました。その10年の間に、私の周りの環境も、フェンシングのルールも変わり、日本のランキングも上がり、世界から注目され、強国となりました。もう少し早く、競技に携われるかと思いましたが、どうしてなかなか、育兒たるもの、甘くはありませんでした。日本では、ママさん選手、ママさん指導者が活躍できる環境がまだ整っていません。これは、日本のスポーツレベル向上に欠かせないことです。1日も早く、ママさんたちが今以上に活躍できる日を期待しております。また、私も、何か手助けできれば、と思っております。

Message 36

スケールが違ったオリンピック

スポーツキャスター
陣内 貴美子☆

バドミントン
92年バルセロナ

私にとってオリンピックとは、テレビで観て応援するもの……。バドミントンが正式種目になったのは、92年のバルセロナ大会です。それまでは国際大会でどれだけ実績を残しても、オリンピックは縁のないものでした。女子バドミントン選手にとっての

最高峰は、全英選手権が国別対抗選手権（ユーバー杯）。私にしても、90年に日本で開かれたユーバー杯を区切りに、現役を退くつもりでした。16歳で日本代表となつてから10年。身体の内側にガタがきていますし、後輩も育ってきています。そこに、オリンピックというものが、よしつ、あと2年頑張つてみよう！

とはいえ、バドミントン界にとつては初めての挑戦です。どうすれば出場資格が得られるのか、情報が入り乱れました。世界ランキングの何位までとか、ドーピングに引っかかるからコーヒードリンクを飲めないと。とにかく、出られる国際大会にはすべて出てみよう、そこから2年間は目の回るような海外遠征です。海外のトップ選手にとつても事情は同じで、その間の国際大会は、異様にレベルが高かったですね。正式に出場が決まったのは、92年の5月でした。



そして、いざ本番。

オリンピックはどんな国際大会ともスケールが違っていました。開会式では各競技のスターがそこにいますし、選手村では日本のトップアスリートが目の前を通り過ぎていきます。コートに立てばいつもの大会と同じ、いい開かせましたが、ふと隣をみれば世界チャンピオンでさえ緊張で手が震えていました。これこそ五輪の重み、と感じた瞬間でした。

五輪を通じて得た人とのつながりは、今でもかけがえない財産です。偉大な実績を残しながらオリンピックの舞台を経験できなかった先輩たち。現役中に正式種目になった巡り合わせに感謝し、その経験から得た者を後輩たちに伝えていくのが私にできることだと思っています。

そして、日本における女性の社会進出を考えても、こちらにもまだまだ後押しが必要です。そういった中、女子選手の活躍は、一つの象徴的な

存在になり得るのではないのでしょうか。今後の女子スポーツには、この点を期待し、今後も側面から応援したいと思います。

Message 38
3つのオリンピックから学んだこと

スポーツコメンテーター
田中 雅美 ☆



競泳
96年アトランタ
00年シドニー（メドレーリレー銅）
04年アテネ

オリンピックという舞台は私に多くのことを教えてくれました。96年のアトランタでは、オリンピックの素晴らしさと同時に、自己ベストで5位という結果に、世界の壁の厚さ、厳しさを感じました。4年後のシドニーで学んだのは、絶望と挫折感と、そして感謝でした。選考会でいい記録を出し、周囲にも期待していたら、自分でも夢のメダルに手が届くかもしれないと思つたのも、つかの間、その選考会後から調子が

の自分を救ってくれました。当時メダルが獲れるかどうかギリギリのラインで、もし獲れなかったら自分の責任だと思つていた私に、仲間がこう言ってくれたのです。

「1人では獲れなかったかもしれないけど、この4人だったら必ずメダルを獲れるから！」

その言葉で思い切り泳ぐことができて、結果は銅メダル。表彰台で受け取ったメダルは、本当に重たかったです。その重みは、ただの銅メダルではなく、仲間の存在や支えてくれたいたコーチやスタッフの重みだったのです。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、最後のオリンピックは04年アテネ。結果は、200メートル

Message 37
女子スポーツに期待すること

永富 有紀（現姓・横野）



バレーボール
96年アトランタ

私が出場したアトランタオリンピックから早14年。当時の代表選手12名が所属していたチームのうちすでに4チーム（ダイエー、東洋紡、日立、ユニチカ）が廃部となりました。存続しているのはNECのみとなるなど、バレーボールをはじめ、女子スポーツを取り巻く環境は一段と厳しくなっているように思えます。一時期、「企業スポーツでは勝てない」と言われていましたが、長引く不況の下、今や「企業はスポーツを応援できない」時代になっているのかもしれない。

また、現役生活13年を振り返っても、当時はとにかく上手くなりた、試合で結果を残さなければならぬという想いだけで、なかなか女子スポーツ界全体を考えることはできませんでしたが、日立から東洋紡への移籍、引退後の社業への転身、そして今、バレーボール教室などで

の普及活動を経験して思うことが一つあります。何を今さらと思われるかもしれませんが、やはりスポーツは、世代や性別を超えて、地域や組織に不思議な一体感をもたらすことです。

だからこそ、「企業の支援がなければ発展がない」という状況がいつまでも続くようでは、日本の社会にとって大きな損失ではないでしょうか。野球やサッカーのようにプロ化を成し遂げて成功したといえる競技の急増は望めない中（特に女子ではさらに先になるでしょう）、今こそ地域や企業のスポーツへの関わり方を再構築すべきでしょう。一企業の負担を軽くするために、複数企業が地域と一体となつて支援する方法などもあるはず。日本のスポーツは地域と企業が支えるからこそ再び躍進した」と言われる日が来ることを願つてやみません。

で4位。100分の5秒差で負けました。もちろんとても悔しかったです。しかし、心はずっきりしていました。なぜなら、そのスタート台に立つまで、後悔する日が1日もなかったからです。たくさんの方に支えられ応援していただき、オリンピックという最高の舞台で泳げることを幸せに思いました。大切なこと

は、夢や目標に向かって決して最後まであきらめずに努力すること、結果は後からついてくるものなのだと実感しました。

これからも、このオリンピックで学んできたことやスポーツの素晴らしさを多くの人々に伝えていく仕事をしていきたいと思っています。

Message 39
女子スポーツに期待すること

スポーツアドバイザー
松本 直美



ソフトボール
96年アトランタ
00年シドニー（銀）

今の時代はスポーツのみならず、運動をする機会が以前より少なくなつていと感じます。例えば、子どもが遊びを通して運動を学ぶ時期においては、勉強やゲームなどが盛んで、大人は便利さに慣れてしまつて運動の機会を失っています。

中での振る舞い、生活する上で必要とされるコミュニケーションなど、多くの大切な学びができるからです。その経験という学びは、本人にとつての一番の師となると思います。

そこで、スポーツや運動をすることの真の意味を考えてみました。私が思うのは、自分自身を知ることから始まり、生きる力に通じるのではないかと。単に健康や

だからこそ、子どもときは部活

動などに入り、スポーツを学ぶことと同時に規則など集団の中での経験をさせることは必要です。大人であれば、地域スポーツに参加することなどいろいろな人と接する活動をお勧めします。仕事や子育てなど、毎日の生活の中で余裕がないからできないと思われがちですが、家族や周

りの協力を得てぜひ初めてみてはいかがでしょうか。私は女性には男性以上にいろいろなパワーがあると感じています。だからこそ、女性ももっとスポーツを通して社会進出し、世の中に元気と活力をもたらしてほしいのです。

Message 40

オリンピックと私

プロテニスプレーヤー
杉山 愛

テニス
アトランタ
シドニー
北京
96年アトランタ
00年シドニー
04年アトランタ
08年北京

私は幸運にも4度オリンピックに参加させてもらうことができました。どの大会も印象深いですが、大会ずつ振り返ってみます。最初に出場したのが、アトランタ

ちようびテニスの会場がマラソンコースになっていたので、高橋尚子選手の走りを傍で感じられた思い出があります。他の競技で盛り上がることは普段のテニスツアーではないので、すごく力ももらいました。

開会式は大イベントだ。しかし翌日から試合が始まるため、深夜まで長時間拘束される式に参加するかコーチの間で論議されていた。出たい、入場行進で歩きたい！という思いでいっぱいだった私たちは心配な気持ちだったが、最終的に「最高のモチベーションとなる」ということで、ぎりぎりになって参加が決まった。

アテネオリンピックが一番思い出深い大会です。これまでツアースケジュールの関係で叶わなかった開会式に参加できて、世界一大大なスポーツの祭典を肌で感じられて嬉しかったです。試合ではシングルスベスト8、ダブルスベスト4と惜しくもメダルに届きませんでした。ア



Message 41

オリンピックと私

味の素NFCバスケットボール専任コーチングディレクター
萩原 美樹子

味の素NFCバスケットボール専任コーチングディレクター

競技団体としては20年ぶりの出場



バスケットボール
96年アトランタ

Message 42

オリンピックと私(みら)

バスケットボールアトバイザー
永田 睦子

バスケットボールアトバイザー

バスケットボール
96年アトランタ
00年シドニー



バスケットボール
96年アトランタ
00年シドニー

となったアトランタオリンピック。開会式は大イベントだ。しかし翌日から試合が始まるため、深夜まで長時間拘束される式に参加するかコーチの間で論議されていた。出たい、入場行進で歩きたい！という思いでいっぱいだった私たちは心配な気持ちだったが、最終的に「最高のモチベーションとなる」ということで、ぎりぎりになって参加が決まった。

また。爆音と色とりどりの飛行機雲で群青の空を疾走する飛行機を見上げて「すごいね」と感動して大泣きしあう。入場行進も本当に素晴らしいかった。せり上がった入場口の階段から見下ろした満員の競技場の眩しさを、私は一生忘れない。上がり口のところで係員の女性が「GOOD LUCK」と微笑んだ。ここから私のオリンピックが始まるんだ。とうとう来た。オリンピックなんだ!! 興奮にしびれた頭と全身鳥肌が立った身体で、強烈にそう思った。

あの開会式こそが私のオリンピックのイメージそのものだ。光の渦、世界中の人々の声援とブラスのエネルギー。その国その国の競技のまさに、己の持てる力と日頃の壮絶な鍛錬を試し競う場所。オリンピックが、永遠に、世界中の人々の憧れの場であり続け、その自らの光源で輝き続けてくれることを、切に願う。

米国空軍の航空ショーで式典が始

メリカのナブラチロワ・レイモンド組と対戦したダブルスが印象的です。最初はナブラチロワ側の応援ばかりだった会場が、私たちがいいプレーを重ねるうち、次第に日本の応援をしてくれるようになり、日本人以外の方からも応援でパワーをもたらす勝利することができました。そのときは改めて、国境を越えたスポーツの力を感じました。

るベテランになっていました。プレー以外でも何かを残せたらと思って臨んだ大会でした。改めてオリンピックに関して思うことは、どの競技でもスポーツは国境や思想を越えて感動を与えられるものです。スポーツはこれからも世界の平和をリードする存在であってほしいと思います。

幼い頃、TVで見るだけの存在だったオリンピック。まさか自分が出場することになるとは思ってもいませんでした。高校を卒業し、実業団に入った年。静岡でオリンピック予選がありました。アジアの枠が3に増え、またとないチャンス。私自身、候補には選ばれていました但最终的にメンバーには残れず、観客席から予選の戦いを見ることに。オリンピックの出場権を30年ぶりに獲得した瞬間を生で見て、「頑張ればオリンピックに出られるかもしれない」そこから、オリンピックが現実的なものになってきました。次の年、オリンピックイヤーです。幸いにも代表候補に選ばれ、あるうことが最終メンバーに残っていました。

初めての代表。そして初めての国際試合が96アトランタ大会だったので。まずその規模の大きさに驚きました。会場、選手村、開会式…。目に映るものが新鮮で、驚きの毎日でした。ある日練習に行くときに、エレベーターが故障。それ以来、練習に行くにも試合に行くにも20階以上のフロアから階段で下りて行ったり、ベンチで先輩たちのプレーを見て騒ぎすぎて貧血を起こしそうになりました。少しですがプレートタイムももらえて。初めての国際大会と考えたら贅沢すぎるくらいです。そのときの思い、感じたことが忘れられず、次のオリンピックを目指すことになりました。

00年のシドニー大会では予選で負けてしまい、悔しい思いをしました。が、04年のアテネ大会では念願の2度目のオリンピックを経験。成績は思わしくありませんでした。あのときの感動や新鮮さは8年経っても変わらぬ、それどころか新たな感動を与えてくれる素晴らしい空間でした。

なにより、ともに戦った人たちは

Message 43

オリンピックと私

スポーツコメンテーター他
武田 美保(現姓・鈴木)



シンクロナイズドスイミング
96年アトランタ(団体/銅)
00年シドニー(デュエット・チーム/銀)
04年アテネ(デュエット・チーム/銀)

シンクロナイズドスイミングという競技は、ちょうど私がスイミングスクールの先生からシンクロコース転入のお誘いを受けたその年、84年ロサンゼルス大会からオリンピックの正式種目に採用されました。4年後の88年ソウル大会では、シンクロという競技がこれまで以上にオリンピックの花形としてメディアに取り上げていただけるようになり、組まれた特集番組は欠かさず観て、その度に表彰台の上から声援に応える先

かけがえのない大切な人になりました。苦しい思い、辛い時を一緒に過ごした仲間とはなんといいいますか、わかりあえる何かがあるような感じがします。大切な仲間と共に得た貴重な経験。今も心の中にある素晴らしい思い出です。

輩方の姿に自分の将来の姿を重ね合わせたりして、それが目標を決定づけた瞬間だったと思います。「オリンピックに出るためだったらどんな努力もいとわない！」というぐらいオリンピックは子ども時代の私の原動力でした。

ところが現実はいメージと違うところに気付かされます。初出場は96年アトランタ大会。以前からシンクロほどの競技種目よりも練習時間が長いといわれていましたが、ことオリ

Message 44

オリンピックと私

長崎県立西陵高教
西 夏樹



カヌー
96年アトランタ

私がカヌーを始めた理由は、住んでいる家の前が海で、その海で高校のカヌー部が練習しており、その部員たちの漕いでいる姿を見ているう

ンピックとなればさらに練習は過酷さを増しました。夢に描いたオリンピックの現実はお恥ずかしいことに「やっとこのしんどいことが終わってくれた」という開放感しかありませんでした。2度目の挑戦となったのが00年シドニー大会。演技の完成図をいつもイメージし「アトランタの二の舞はすまい」と臨みました。空手をテーマにしたチームの演技では会場を大いに沸かし、自身の競技をすることができたのです。選手冥利に尽きる経験だったと思います。ただ一方で、同大会で私は悔いを残すことになりました。デュエット競技でまさかの大きなミスをしてしまうのです。競技人生最後の04年アテネ

大会は、すべての想いとすべての経験をぶつけるような集大成としてのオリンピックでした。この大会では、無理だと諦めていたことをもう一度洗い直し、不可能を可能にする挑戦をしたような気がします。心に残っているのは、「人間は100%の能力のうち、ほんの30%しか力を出していない。使っていない残りの70%の力を引き出せるのは自分自身の心だ」というコーチの言葉です。これは競技を引退してからも生かされるメンタリティであると思います。21年間競技を続け、オリンピックという目標を持ち続けたからこそ、こんなに素敵な学びの機会を得たのだと思っています。

ちに、自分もやってみたくと思ったからです。そして、たまたまその高校のカヌー部の先生から「カヌーをやってみないか」と声をかけられ、

私のカヌー人生が始まったのは中学1年の夏でした。

それから25年、現在も選手として、指導者として、カヌーに携わっています。いつの頃だったかは覚えていませんが、高校の後半くらいからオリンピックに出場することが夢になっていました。その夢が叶ったのが24歳の春です。その期間、カヌー中心に生活がまわり、青春のすべてをかけてカヌーをやっていたなと感じます。辛かったり、苦しかったり、悔しかったり、嬉しかったり、感激したり；いろんなことがありました。が、やはり辛い苦しいことの方が多かったと思います。でも逆に、こんなにきついことを自らの意思で選んでやる(自分を心から動かすことができる)力を持てたことに幸せを感じ

ました。カヌーと出会って夢を持てたこと、夢を叶えるために努力できる力を発揮できたこと、そして周囲の方々のおかげでカヌーを続けることができ、今の自分があること。私はオリンピックに出場するという夢を持ったおかげで、人生においてかけがえのない大切なことをたくさん学ぶことができました。

現在、私は高校で教員をしていますが。生徒たちに「夢や目標はありますか?」と訊いても残念ながら、目をキラキラさせて「自分の夢は…」と話してくれる子はほとんどいません。しかし、高校生はまだこれからです。1人でも多く生徒が夢を持てるように、夢について熱く語っていききたいと思っています。

Message 45

私の中のオリンピック

ナショナルチームコーチ
上島 しのぶ

スノーボード
98年長野

98年長野では選手、10年バンクーバーではコーチとしてオリンピックの現場に立たせていただきました。

私は幼い頃からオリンピック選手を目指していたわけではありませんが。当時爆発的に広まったスノー



ボードが急に正式種目に採用され、選手時代の自分の最盛期とたまたま機を同じくしていただけです。スキーの一部として開催されることには、実はよい気はしていませんでした。そんな私をオリンピックの興味に引き寄せたのは、その後の夏の競技でした。シドニーのマラソン、柔道に燃え、さらにアテネでは競泳、シンクロ、バレーボール、レスリングに燃え、北京では加えてソフトボールに燃え。特に同じ女子選手や指導者らの活躍に多くの刺激を受け、オリンピックでしか体感できないパワーに、震えるような感動を覚えていったのです。

そういった、世界でしるぎを削る、その精神レベルの高みに近づきたい、思いを共有したい、というのが、私を競技のトップを扱う現場へ向かわせた思いの原点です。高みに交じりたければ己がそこまで上らなくてはならない。最良の自己表現の手段は自分がやってきたものに必ず帰ってくる。自分がやりたいこと、できること、自分が活躍する場所。生き方の表現ツール

が、私にとってはスノーボードでした。このように、私の中のオリンピックの位置づけは変化し、存在は大きくなりました。そして何よりもその場へ戻れた今があるのは、やはり自分が選手として参加させていただいた事実があつてこそと、今さらながら感謝をしています。

現在もこの頃指導者としてスポーツ全体への関わりが広がる中で、さらにさまざまな方々からの熱い刺激を受けながら活動させていただいています。スノーボードは確かにいろいろな面で未成熟ですが、もう若い種目とも甘えられません。精神的価値ある一スポーツとして、どう生きるか、いかに生きるか、生かされるか。今後もさらに追求を続けていこうと思っています。



私にとつてのオリンピックとは、大きな夢で憧れの舞台でした。大阪府の四条畷学園短大を卒業し、東京のヨネックスに入社した年に、バルセロナオリンピックが開催され、そのオリンピックにヨネックス

Message 46

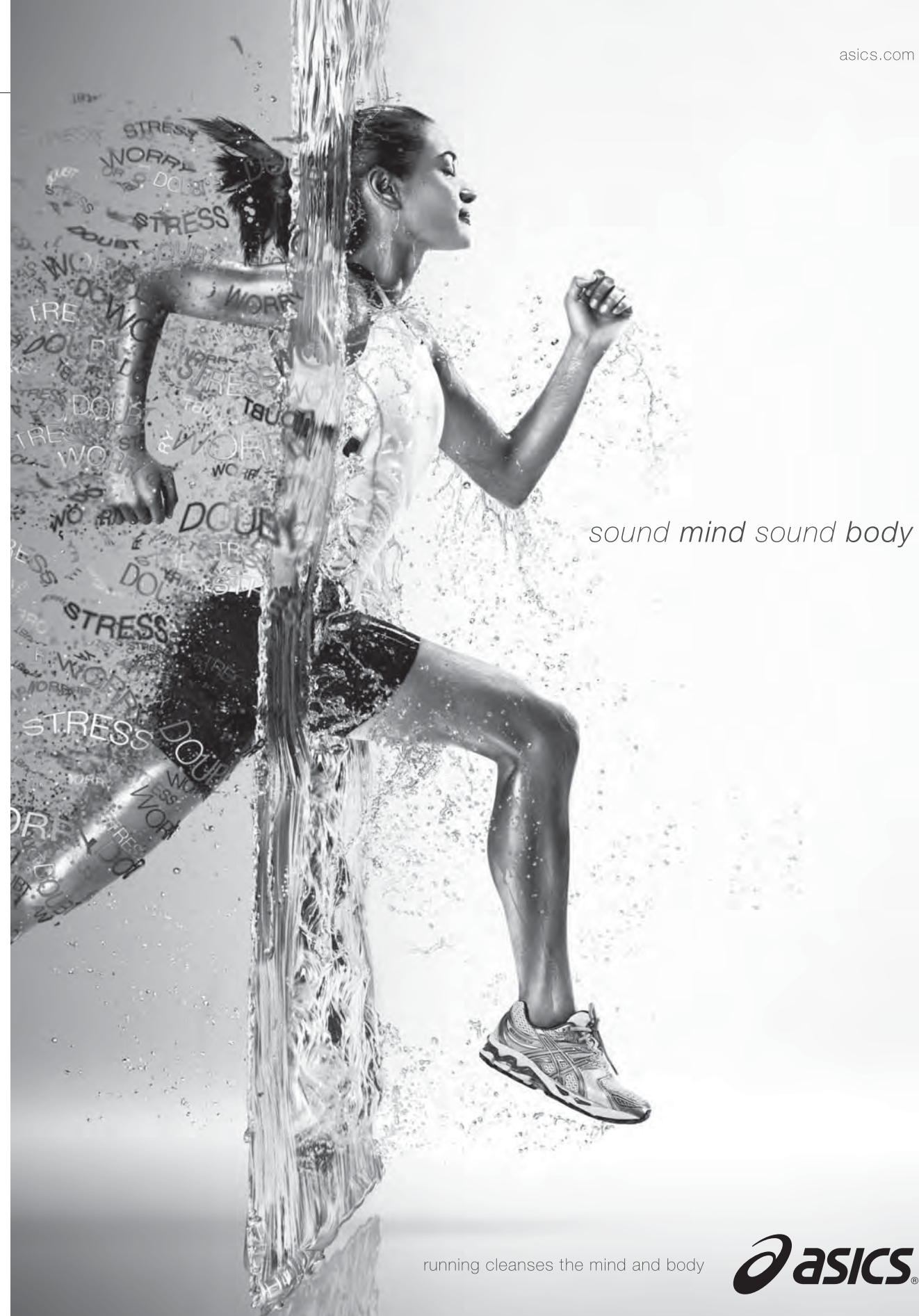
オリンピックと私

ヨネックスチーム監督
岩田 良子

バドミントン
00年シドニー

から陣内貴美子・森久子・捧匡子と3人も先輩が出場しました。そのバルセロナの壮行会で、さらさらと輝く3人が私の目に、心に、強く残りました。いつか私もきっと同じ舞台上に上がりたいと強く感じました。その頃からきつと自分の大きな目標がオリンピックになっていたのでしよう。

オリンピックを目標に日々の厳しい練習に耐えながら、アトラクタオリンピックに出たいと思いつつ、全日本社会人で優勝し、ナショナル選考会を兼ねた全日本総会で優勝を思い挑みました。1回戦敗退と振り返るわず、オリンピックどころか、ナショナルチームにも選ばれませんでしたが、もうやめようかと思ったりもしていましたが、当時の監督の「まだまだいけるこれからだよ」という一言に、よし！もう一度頑張ってみよう」とシドニーを目指す決意をし、96年の全日本総会でアトラン



sound mind sound body

running cleanses the mind and body



Message 47

真の美しさを持った選手の育成を目指して

ナショナルチーム部コーチ・タイドリンコ所属
米倉 加奈子

バドミントン
00年シドニー
04年アテネ



タに出場した選手に勝ち、優勝してナショナルチームに選ばれ、やっとシドニーオリンピックへの入り口たどり着きました。96年からはオリンピックに向けて合宿・海外遠征の連続で、精神的にも体力的にも不安がありました。今だから言えますが、協会や選手が一体となっていなかった時期で、妙な雰囲気の中でバドミントンながらプレッシャーを感じながら試合をしていた。それは自分が作り上げたプレッシャーなのかもしれませんが、でも、

「罰ゲームみたい!」10年ほど前、イラン代表女性選手を初めて見たときの感想だ。彼女らは、長袖・長ズボンを着て、頭髪を隠すためにスカーフを首まですっぽり巻き、非常に暑い館内で走り回っていた。女性は身体を覆い隠すよう法律で定められているからだ

その妙なプレッシャーが私を成長させてくれ、世界ランクも一時期かなり上位まで到達し、目標のシドニーオリンピックへの扉を開けることができました。メダルとまではいきませんでした。オリンピックは私にとっていろんな経験をさせてくれました。これからはオリンピックを目指せる選手育成を行うとともに、その過程を大切に、バドミントンが大好きという気持ちを持ち続けられ、感動を与えられるような選手育成を目指していきたいです。

が、あまりにも暑そうで気の毒に思えた。試合は、私たちと同様の半袖・ショートパンツを着て試合できるようにするため、男女別々の時間に行なうことになった。女性の試合時間帯は、全員女性の審判、さらに男性は進入禁止という徹底ぶり。困った

オリンピックは4年に一度の大会。競技者がみんなオリンピックの表彰台を目指します。私にとってオリンピックとは最高の舞台であり、最高のパフォーマンスができる大会でした。他の大会では味わえない緊張感、勝つか負けるかのドキドキ感、オリンピックならではのもの。観客の人たちもお祭りみたいな騒ぎようで盛り上がりもすごいものがあります。

柔道の場合、オリンピックの試合日まで現地入りしてから1週間ほどありますが、だいたい部屋でゆっくりしたり、現地の街に行ったりしてリラックスするようにしていました。練習は大会当日に合わせて、メリハリのある練習を意識していました。試合はトーナメント戦で、優勝するまで1日に5試合ほどすることになります。1試合1試合必死で戦います。誰が勝ち上がってくる

か、そこが面白いし、この選手が上がってくるだろうと思っても、独特の雰囲気飲まれるのか、早々に負けてしまう選手もいました。勝ち上がっていくうちに戦うことが楽しくなってきました。そして、決勝戦では勝つしかないという気持ちで戦いました。勝った瞬間と表彰台で国歌を聞いているときは、すべてを懸けて戦い終えた開放感と、日本代表としての責任を果たした充実感でいっぱいでした。また、この日までもに頑張ってきた仲間たち、応援してくれた人たち、勝つために力になってくれた人たちへの感謝の想いと喜んでる顔を想像し、一緒に戦ってくれたみんなまで獲った金メダルだと感じたことを思い出します。

現役を引退した今、あんな経験はもうできないだろうというさみしい気持ちがあります。しかし、次の世代に、たくさんの人たちにこの経験

Message 49

オリンピックと私

三井住友海上女子柔道部コーチ
上野 雅恵



柔道
00年シドニー
04年アテネ (70kg級/金)
08年北京 (70kg級/金)

長野五輪から正式種目として採用されたカーリング。幸運にも私は、その後の2大会に出場した。ただ出場することが夢だったソルトレイク。すべての面で甘かったと思う。だからこのままでは終われないと誓ったのが、トリノ五輪だった。北海道から、新境地・青森で目指したトリノ。出場できる保障などあるはずもなく、チームメンバーも揃わない。生活することはいっぱいで、「トリノ」よりも明日が見えない日々。しかし、情熱を持ち努力し続ければ、道は拓けるものだ、そう信じてやってきた。その



Message 50

私とオリンピック

小野寺 歩 (現姓・小笠原)

カーリング
ソルトレイク
02年トリノ
06年トリノ

ど、今後の人生に活かしていければと考えています。

後、メンバーも揃い、青森の方々もたいへん良くしてくださり、苦労もいつしか楽しくなっていた。

トリノまでの4年間もトリノでの全9試合も同じ夢舞台にいたような錯覚を覚える。それだけ、私の人生の中で充実していたのだろう。

Message 48

官舎妻オリンピックに行く

竹葉 多恵子

クレ射撃
00年シドニー
04年アテネ

私は父親の趣味であったクレ射撃を20歳で始めた。親のすねをかじり、数々の大会に出場して10年あまり経ち、

ある。容姿磨きだけを注目する次世代の子がいることだ。本当に伝えたいことと異なり、危機を感じてしま

美しい容姿を求めるのは、人間の本能だという。故に女性スポーツの発展のチャンスが広がっている。ただし、本来の美しさを伝えなければいけない。ロンドンオリンピックを指す選手に携わっている私は、だからこそ、心豊かな選手を送り出したいと考えている。向上心を持ち努力する姿、目標に挑戦する姿、困難に立ち向かう姿。そのひた向きの姿こそが、みなさんのパワーとなり、女性スポーツの進化につながることを信じて。

会って、結婚することになった。私は警察官の妻となった。

2人の生活が官舎でスタートすると、さすが警察、早起して走ったらと言われ、官舎前の土手をしぶしぶ走った。筋トレとかちゃんとしたらと言われ市民体育館でしぶしぶ筋トレ。年明け、初詣はというと、約5キロ離れた神社へジョギングだ！と言われ、元旦からしぶしぶジャージで初詣。わたしは機動隊員か！

この生活が良かったのか、1月のマレーシアの大陸選手権では奇跡か優勝し、シドニーへの切符を手に入れた。

オリンピックは、行くまでは期待に胸が膨らんだ。しかし、現実は今となっては話せないハプニングの連続。練習の成果を出し切ることはできず、人生最高に落ち込んだ。そんな私に夫は、

「オリンピックの借りは、オリンピックでしか返せない。今が次のオリンピックのスタートの日だろ」

夫がブルースリーに見えた。

そのおかげか翌年、ドーハで開催される夢の大会WCファイナルに出場することになった。大会前日の公開練習後、トイレへ入りドアを閉めると、ドアノブが落ちた。どうして



専業主婦として日曜大工、庭の手入れ、夫の世話と子どもの教育に情熱をもって打ち込んでいる

もドアが開かない。明日、試合なのに！今晩は、ここで泊まり！誰かが来ることを祈って待った。20分ほど経つとようやく人が来て「ヘルプミイ！」。その選手は大笑いしながら、開けてくれて私は助かった。この試合、何とか優勝し、世界一のクリスタルトロフィーをゲットできた。

その後、アテネオリンピックに出場し、仇は討てなかったが、8位となり、射撃人生に幕を引いた。今は4歳の子どもと持ち家での生活だが、私にとっては中身の濃い官舎新妻生活だった。

現在私は代表クラスから一線を退き、休んでいる。これは、今後復帰するために「今」を休み、いろいろな経験を積む前向きな休養である。カーリングは、40歳前後が一番良いといわれている。女性は特に母親になつてからが強い。世界のメ

Message 51

オリンピックと私

中山 英子

スケルトン
02年ソルトレイクシティ
06年トリノ

私は98年の長野五輪を地元紙の新聞記者として、取材したことを機に、そり競技「スケルトン」に出会い、29歳で競技を始めた。15キロ前後の水でできたコースを、腹ばいで頭から下り降りる。時には時速130キロ近くスピードが出るスケルトンの楽しさに全身全霊を奪われ、ただ、純粋に「究めたい」と思つて始めたことだったが、強化選手に選ばれ、02年のソルトレイクシティ五輪への出場につながった。

五輪出場を通じて驚いたのは、私に対しての周囲の目が突然変わったことだった。私自身は変わっていない

リストもほとんどがそうだ。私もまだ？ 31歳。カーリング人生、これからだ。母親になり、強くなった。日本選手に少ない母親として五輪という夢へ：私もそろそろ始動します！

くても、必要以上に注目される。オリンピックの持つ「力」を、実感した。バンクーバー五輪は、競技に取り組み始めて12年目で3回目の挑戦だった。すでに39歳になっていたが、走つて乗り込むまでのスタートタイムはこの12年のうちで最も速かった。しかし、世界でもトップクラスだった。しかし、最終的に自分に課せられた不利な状況をはね返すことができず、悔しい思いをした。自分に何が足りなかった。

またも、「五輪」の持つ「魔力・魅力」に多くの人が振り回されていることを感じたのと同じに、境界線

でした。母が「応援しようよ」。何気に座つて観る。私の視界にすぐく衝撃的に外国人選手の姿が焼きついた。女子選手の挙げる鉄のシャフトがものすごくしなつていて女性でもこれだけやるんだ！と感動すると同時に、私もオリンピックに出たいと思つたことが昨日のように思い出されます。

それまでの私を振り返つてみると、幼少の頃からウエイトリフティングという生活環境の中で育ち、絶対やりにくいナンバーワンの競技でした。なぜかという男の競技だし、筋肉はつくし、何が楽しくてあんな重い鉄を毎日毎日挙げているのか、まったく関心がなかったのです。

04年。父の指導のもと、練習を始めて3年半、無我夢中でした。アテネオリンピック代表になり第一目標突破。夢が一步前進しました。5kgの減量、結果9位。出るだけで精一杯のアテネでした。

08年、メダルを目標にした北京オリンピック。期待に応えることができませんでした。最後の試技が終わった瞬間、支えてくれた両親や応援してくださった多くの人たち、目標に敗れた悔しさがよぎりました。ステージから降りたとき、「もう、



やる資格がない。やめよう」と思いました。でも、会場を出たところで、空港で、知らない人たちから「この次も応援しているよ」という言葉をかけられて「こんな私でも、まだ応援してくれる人がいる。へこたれていいの？」また目標に向かうことができきました。

12年、ロンドンオリンピックを指している今、夢をつかめるかどうかかわかりませんが一心不乱に頑張ります。

を保つことを心掛けたが、空気に飲まれてしまったと実感した。周囲が振り回されることは、選手起用や協会運営に影響し、選手にとつてやる気をなくすような状況を作り上げられていることも、少なからず感じている。

自分では動かすことのできないものと闘うことをやめ、ふつと力を抜いて、やれることを続けている現在の自分から出た答えは、競技者として究め続ける楽しさを追い求めるこ



Message 52

オリンピックと私

いちごグループホールディングス
三宅 宏実

ウエイトリフティング
04年アテネ
08年北京

2000年夏、シドニーオリンピックの模様がテレビ・新聞を賑わしている。

そんな中、私はどこの高校を受験しようか悩んでいました。何の目

的にもなく受験する。それでいいのかな？ ピアノは弾いていたが本当にやりたいことはピアノかな。何か違うことをしたい。でもそれが何かわからなく悩んでいた頃

Message 53

オリンピックと私

デザート
柴田 亜衣

競泳
04年アテネ (金800m自由形)
08年北京

私は04年のアテネ大会と、08年の北京大会に出場させていただきました。この2回のオリンピックは同じオリンピックなのにまったく違う試合でした。

まずは、アテネ。やはり、金メダルを獲つたということもあるのですが、初めてのオリンピックでプレッシャーもなく自分の調子も良い。何も怖いものがない大会でした。メダルはまったく考えてなく、ベストで必ず泳げるという自信だけ満ち溢れていました。無心で挑んだ結果、金メダル。ただ、オリンピックという最高の舞台で泳げることが嬉しくて楽しくて仕方がない試合でした。

しかし、4年後の北京はまったく別の世界でした。試合から逃げ出したいと思つたのは、水泳人生の中で初めてでした。1年間を通して、しっかりと練習ができず、自分の泳ぎが自分でわからない。ずっと暗闇

を泳ぎ続けているようでした。私は強がってしまつたところがあるので、「きちんと練習ができています。メダルを目指したい」など、心にもないことをメディアを通して言っていました。さらに自分で自分を追い込んでしまつていました。でも、どんなに苦しくても、逃げたくなくても、逃げることはしませんでした。それは自分一人でこの舞台に立っているわけではなくと思えたからです。選考会で悔し涙をのんだ選手、今まで支えてくれた家族、応援してくれている方々など、たくさんの人たちのいるんな気持ちを感じることができたからです。結果は惨敗でしたが、逃げずに最後まで泳ぎきれたことは今でもよかったと思つています。そこで逃げていたら、これからの私は何に対しても逃げていたかもしれません。どれだけ努力をしても、うまくいかないときはある。ということ

改めて教えてくれた、私にとって1番成長できた試合だと思いません。

私は、これからこの2つのオリンピックで学んだことや、水泳を通して感じたことなどを多くの人たちに伝えていきたいと思っています。今後とも、よろしく願っています。



小西 ゆかり (現姓・森)

感動と感謝の存在

Message 54



ライフル射撃
04年アテネ

04年アテネオリンピックを経験させていただき、その感想を募らせていただく機会と巡り会えましたことにとでも感謝しています。オリンピックを目指したことによって私をもっと感じたことについて語らせていただきたいと思います。

私はさまざまなストーリーから受けることができる「感動」について、昔から興味がありました。オリンピックというスケールの中に存在していた感動は数えきれないほどあり、今でもその迫力は持続しています。その感動から見えたものは、今までの自分にはなかったメンタル部分を良い方向へと導き、成長させる術をもたらし、かつ探してもなかなか見つからない貴重な存在であった

る瞬間と出会ったのです。それは、ブラウン管の向こうで、鮮やかな一本背負いを決め、金メダルを口にくわえてはにかむ、柔道60kg日本代表・野村忠宏選手の姿でした。野村選手は、私の中学・高校・大学の先輩です。身近な先輩が、オリンピックで金メダルを掲げる姿を観て、一気にオリンピックの存在が自分の中のものとなったのです。

憧れは見事に打ち砕かれ、湧いてきたのは、「あのレベルに到達すれば、オリンピックに出場できる」という興奮でした。メダル獲得にはならなかったものの、アテネ・北京オリンピックの2大会連続出場を果たすことができ、自ら興奮を生み出すことができました。



と確信し、本当に感謝しています。競技を始めるようになってから、一つひとつの経験の中に人生勉強につながる要素がものすごくたくさんありました。また競技に携わることでも人の輪も広がり、さまざまな価値観や視点にも多く出逢うことができました。そうして自分自身の中に徐々に芽生え、大きなものに変化していったものは、周囲の方たちや物事に対する「感謝」の気持ちでした。

となり、親密に働きかけてくれると思います。私の中でこの感謝の気持ちは感動ととても近い位置にあり、負けたときの悔しさまでも成功につながるパワーを授かったと感謝できるようになりました。感動はさまざまなかたちで心に響き、そして感謝の気持ちは感動を創るものではないかと思っています。オリンピックの舞台で、1人でも多くの方たちに感謝の気持ちを最大限に表現したい、それが持ち続けている私の目標です。

Message 55

オリンピックと私



天理高教
森本 さかえ
ホッケー
04年アテネ
08年北京

女子ホッケーが史上初のオリンピック出場を果たしたのは、04年アテネオリンピック。私が初めて日本代表合宿に選出されたのは95年。当時は、国内でホッケー競技のオリンピック映像を観ることはなく、代表選手でありながらも、本当にオリンピック競技なのか疑っていたくらい

で、アジア大会の代表に選出されることでステータスが確立されるように感じていたのです。そんな中、96年アトランタオリンピックに盛り上がる日本国内で、私はホッケーが観戦できないことから、さらにオリンピックの存在を空虚のように感じていました。しかし、私は運命を変え

Message 56

オリンピックと私



ペンション経営
中込 由香里
マウンテンバイク
04年アテネ

小学校5年生のとき、テレビで観たモンテリオールオリンピック。体操競技で10点満点を連発したコマネチに魅せられ、オリンピックに出場することが夢となりました。体操競技で夢を叶えることはできませんでしたが、25年にも及ぶ自転車競技生活の中で、やはりオリンピックが一番大きな目標となりました。

で大きなことを学びました。また、アトランタのときの敗戦からは、マウンテンバイクという競技に必要な水のような強さ、心の柔軟さといったようなものを学んだ気がします。力及ばず敗れたシドニー選考会でしたが、できることはすべてやっていたと思い、競技から引退することを考えましたが、競技中心の生活から離れても、競技を続ける道を選び、自分も狙える位置にあったアテネも狙うことに。かつての力を削った2人のオリンピックは引退し、力をつけた若手との戦いになりましたが、自分のたくさんの経験と、そんなにかんたんにオリンピックに行かせてなるものかという気持ちでアテネに導いてくれたように思います。どちらが勝利するかわからない接戦を制することができたのは、長年頑張ってきたことへの神様の褒美のように思えました。

ソウル、バルセロナはロードレースで、アトランタ、シドニー、アテネ、北京はマウンテンバイクで代表を目指しました。5回目の挑戦となったアテネで、ようやく夢を叶えることができましたが、それまでの選考会での敗戦が自分自身を大きく成長させてくれたと思っています。特に、もともと代表に近いと思っていたバルセロナの選考会では、自信過剰だったところがあり、レースの中で自分が思うように動けない焦りから、自滅したレースとなり、ここ

そして大舞台での大きな経験は現在、未来へとつながっていく貴重な経験となっているのです。

Message 57

結果よりも大きな経験

三井住友海上女子柔道部コーチ
横澤 由貴



柔道
04年アテネ (52kg級/銀)

04年のアテネオリンピックに出場しました。

小さい頃からテレビで見っていた憧れの大会に出場でき、本当に柔道を頑張ってきた良かったと思っ

た瞬間でした。試合は決勝で負けてしまい、目標だった金メダルには届かず、残念な気持ちでいっぱいでした。でも数年経った今、振り返ってみると、結果よりもオリンピックで経験したたくさんのことが私を成長させてくれたことに気づかされます。

代表になるまでの国内予選、代表に決まってから本番まで、今まで柔道をやってきた一番練習したといえる期間かもしれません。それくらい、他の何よりもオリンピックにすべてを懸けていました。

現役時代、たくさんの方に支えられたからやってこれました。今度は私が何か少しでもみんなの力になれたらいいなと考えています。少しずつ私にもできることを見つけながら、これから夢に向かって頑張っている選手たちを応援していきます。

私は限られた人しか立てないあの畳の感覚や、緊張感に包まれた試合の雰囲気が好きです。柔道は個人競技ですが、このときの代表メンバーはみんな仲良く、監督・コーチの先生方をはじめ、みんなで勝ちにこうというとても良いチームでした。

Message 58

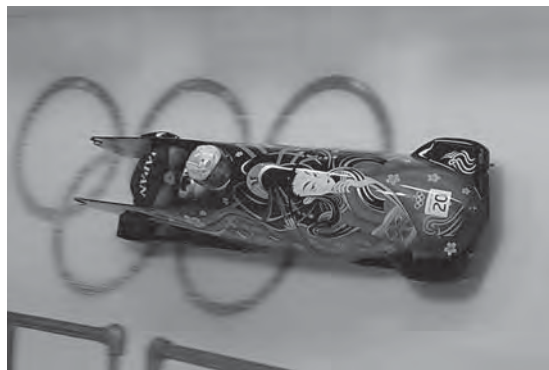
オリンピックと私

社会医療法人間北斗
北斗病院
松野 真奈美

ボブスレー
06年トリノ
10年バンクーバー

ボブスレーと出会って10年。2度のオリンピックに出場させていただきました。

誘われて始めたこの競技ですが、命をかけて戦う世界の選手を目の当たりにし、私もその一員として、日



本の代表として、強く戦いたいと思いましたが、しかし、競技を知らなければ、上を目指せば目指すほど、多くの壁にぶち当たり、特に資金面では苦労をしました。年間チーム経費で約1500万円必要になりました。多くを占めるのがソリの輸送費で、ヨーロッパからアメリカ大陸へ輸送片道100万円ほどします。遠征先では、節約のために自分たちで車を借り、ソリと一緒に自分たちで運転をして駆け巡っていました。そして無我夢中に突き進んだ結果、トリノオリンピック出場を決めることができました。

初めてのオリンピックでゴールした瞬間は、「4年後はこの舞台で勝ちたい。メダルがほしい」という感情が、一番最初に湧きあがりました。そのときから、バンクーバーオリンピックまで、スポンサーやチームメイト探し、テクニカルコーチの交渉

など、勝つために全力を注ぎました。多くの方のご支援をいただき、バンクーバーに臨みましたが、力が足りなく悔しさが残る結果となってしまいました。

これまでに経験したことは、今後の私の人生に大いに生かされると信じています。後輩たちにも、その経験を感じ強くなってほしい。ボブスレーをしてきたからこそ、人の繋がりが温かき、諦めない気持ち、オリンピック独特の試合前の恐怖と不安

Message 59
女子スポーツに期待すること

金沢学院大助手
齋藤 里香



ウエイトリフティング
08年北京

私が行なっているウエイトリフティングという競技は男子スポーツというイメージが強い。かな

り前の話だが、私の母が知人から「息子さんウエイトリフティングされているんですってね」と言われたらしい。どうやら「齋藤さんのお子さん」が人々のイメージの中で「齋藤さんの息子さん」に変わってしまったよう

との戦い、それから解放された何ともいえないあの瞬間など、たくさん

の戦い、それから解放された何ともいえないあの瞬間など、たくさん

このような現状から考えても、男子スポーツというイメージが強いことも頷ける。

また、残念ながらウエイトリフティングはマイナー競技といわざるを得ない。このウエイトリフティングを普及させるためには、一人でも多くの人にウエイトリフティングという競技が魅力あるスポーツであると認知してもらう必要があると

が、新たなファンの獲得や新たな楽しみ方など可能性が広がるだろう。

そのウエイトリフティングの現状であるが、近代オリンピックにおいて男子は1896年の第1回アテネ大会からの正式種目である。一方、

女子は00年のシドニー大会から正式種目として採用された。そしてインターハイや国体に至っては未だに男子のみの開催である。技術とパワーでどれだけ重いものを持ち上げられるかを競う競技特性から考えても、



Message 60

パラリンピックと私

大前 千代子

車いすテニス/アーチェリー/スラローム
80年アーヘン(アーチェリーで金、
スラロームで銅)
96年アトランタ
04年アテネ 08年北京

スポーツは私の人生を前向きにし、豊かにしてくれていると今も思います。スポーツとの出会いは30数年前、長居障害者スポーツセンターから始まりました。学生のおかげから社会に出て仕事以外で何か夢中になれるものを持つていたいという気持ちがあり、スポーツセンターに立ち寄り、アーチェリーというスポーツに出会ったのがきっかけとなりました。以来、スポーツ大好き人間になりました。

障害者には厳しい時代に育った私は、物心がつく頃には障害のない「普通の人」、その「普通」に近づきたいために障害を克服するのが当たり前だと思って日常生活を頑張っていました。スポーツに出会ってからは、障害のない部分で頑張ることが評価され、これまで考えてもみなかった大阪市代表に、そしてまさかの1980年パラリンピック・アー

ヘン大会日本代表選手となり、アーチェリーで「金」、スラロームで「銅」をいただいて帰国したのです。アーヘン大会の選手は生まれつき、また私のように幼い頃障害を受けた者がほとんどで、参加した選手は私同様「自分もできるんだ」「みんな頑張ってるんだ」という勇気と感動、自身を持つきっかけになったのではないのでしょうか。

結婚して子どもを生んだ後も「何か夢中になれるもの」はほしーと思っていました。子どもたちが少し大きくなるのを待ち、次に出会ったのが「車いすテニス」でした。当初、日本に紹介されたばかりのこのスポーツは、とにかく使わせてもらえるコートを探し、自分たちで練習方法を考え、理解者を増やしていくというところからの始まりでした。車いすテニス大会も自分たちの練習成果を発表できる場を設けたい一心



ません。これを解消するためには、練習だけでなく、普段の生活から性格や癖などお互いを知り、信頼関係を築く必要があります。そのために、選手とガイドは長期にコンビを組み、できる限り、合宿や遠征をともにします。しかし一方で、ガイドが合宿や遠征にはなかなか参加できないのが実情です。というのも、パラリンピックではガイドは選手として位置づけられていますが、国内では選手ともコーチともみられていない曖昧な位置づけとなっているためです。

B1クラスの選手が競技を行なうには、ガイドの伴走が必須です。なぜなら、競技中はコースから外れれば木に衝突し、他の選手との接触といった危険性を伴っているため、ガイドの誘導はとても重要なのです。また、単に誘導だけでなく、ペース配分や、コーチの指示伝達、苦しいときの精神的フォローも行ない、その役割は多岐に渡っておりません。選手はスキー技術や体力だけでなく、ガイドを心から信頼しなければ、声だけを頼りに恐れを感じず、闇の中を猛スピードで突き進むことができず、レースに勝つことはでき

ガイドは眼であり、パートナーであり、コーチであり、心の支えであり、かけがえのない存在です。ガイドの方がいなければ、私たちブライಂಡクラスの選手は競技を継続することは困難です。国や自治体、企業は、ガイドを選手と同等、ないしはそれ以上の存在として扱ってくれるような制度を整備し、少しでも競技環境が改善されるよう、心から願っています。

で、家族や友だちと一緒につくったものです。ここから夢はどんどん広がります。「子どもにも自慢される母親になりたい」「海外で実力を試したい」「世界トップ8に入りたい」などと



追いかけて続けた結果として、96年アトランタから4大会連続のパラリンピック出場となりました。パラリンピックにはもう出ないとしても、好きなことを今もこれからも続けられるように体力維持を心がけ、自分の生き方のモチベーションを下げないためにも、仲間と交わり練習したいと思います。

Message 61

スポーツに期待するって私の願い

小林 深雪(現姓・井口)

クロスカントリースキー/バイアスロン
98年長野(バイアスロン/金)
02年ソルトレイクシティ
06年トリノ(バイアスロン/ロング/金、
ショート)

私はクロスカントリースキー/バイアスロン競技で、もともと重い視覚障害のクラスであるブライント1(B1)クラスで競技を行なってきました。クロスカントリースキーは、コー

スの幅が狭く起伏やカーブが複雑な上に、みなさんの想像をはるかに超えるスピードが出る競技です。そのような中で、ガイドは選手の前を滑り、声だけでコースのあらゆる情報を選手に伝えます。

Message 62

障害を負ったからこそ夢になれる

澤田 優蘭



陸上走り幅跳び
08年北京

私には視覚障害があります。6歳のときに進行性の網膜の病気になる、以来徐々に視力と視野が失われています。幼い頃から走ることが好きで、中学校では陸上部に所属していました。しかし、中学2年生になった頃、急激に視野が狭くなり、走ることに恐怖を感じるようになりました。それからは、スポーツをすることを大嫌いになりました。

ことではなく、競技にかけた練習量・思いの差だったのだ、と感じています。自信を持ってスタートラインに立つためには、それだけの練習が必要なのだと思えました。学んだことは競技面だけではありません。私はパラリンピックに出場したことで、自分の障害を本当の意味で克服できたと思います。中学生の頃は、見づらくてコンプレックスでたまらず、病気になることを恥じてさえました。歳を重ねるにつれて受け入れていくようになりましたが、パラリンピックへの出場が決まったときもあまり多くの人にはいえずにいました。今思えば情けない話です。ところが、日本選手団をはじめ、世界の選手と出会い、競技を間近で観戦し、私自身も競技に出場していく中で考え方が大きく変化したのです。今では、自分の障害を個性だと感じ、障害を負ったからこ

その私が16歳のとき、盲学校へ入学し、当時陸上部の顧問をしていた先生の勧めで障害者スポーツと出会い、一度は諦めた陸上競技に、次第にのめり込むようになったのです。練習に励み、北京パラリンピックへの出場を果たすことができました。パラリンピックは、私を大きく成長させてくれました。競技結果は、自己ベストは出せたものの、世界と自分の実力の差を実感させられました。それは、体格の差がどうという

そ、こうして競技に夢中になれて
いるのだと思っています。
ロンドンパラリンピックへの出
場は、北京よりもさらに狭き門と

なることと思います。後悔したくは
ありません。努力し、またあの大舞
台で競技することを目指して頑張り
ます。

Message 63

パラリンピックと私

松本 めぐみ

ボート
08年北京

08年9月に開催された北京パラリ
ンピックの約1年半前から、たまた
まボートの誘いがあり、練習を始め、
2度の世界選手権に参加した後、初
めてパラリンピックにボート競技の
ダブルスカルとして出場することが
できました。初めての参加に緊張し
ましたが、今までにないとても貴重
な経験ができたと思います。結果は
良いものではありませんでしたが、
最後まであきらめずに取り組んでき
たことが自信へとつながり、その後
のスポーツにおける価値観が変わり
始めていると思います。また、パラ
リンピックでは、どんな障害を持つ
ていても選手はみな目標に向かって
取り組み、素敵な笑顔で輝いている
ので、その姿を見て、感動すること

もありました。

パラリンピックのボート種目は、
他の障害者スポーツ同様、障害に
よってクラス分けがあり、次回のパ
ラリンピックでは同じ種目に出場す
ることが困難な場合があります。私
の場合も、生活する上では良いこと
ですが、運動頻度が多くなることに
より使える筋肉が増え、北京パラリ
ンピックの際に出場したダブルスカ
ルにまた出場できるとは限らなく
なっています。

ですが、今後もボートはずっと続
けていきたいと思っており、昨年一
年間は、オーストラリアにて、パラ
リンピック選手を育成するボートク
ラブに所属し、トレーニング方法、
合宿や大会の取り組みについて学び

ました。
今は引き続きオーストラリアにて
専門学校のような機関へ通ってお
り、一からスポーツの知識に習熟し、
コーチング及びマネージメントにつ
いて学んでいます。大会のオーガナ
イズやマネージメントの仕事に興味
があり、学校を卒業後、将来的に
は、選手育成に携わり、今後の障害
者スポーツの発展に役立ててけれ
ら良いと思っています。また、パラ
リンピック出場の際に多くの方々
に応援いただき感謝するとともに、素
敵な機会を与えてもらえ嬉しかった
ので、この気持ちを忘れず次につな
がるよう取り組んでいきたいと思
います。



TOL会 歴代幹事名簿

お名前は五十音順とさせていただきます。

◆歴代会長◆

- 初代：小野 清子 (体操)
- 2代目：木原 光知子 (競泳)
- 3代目：橋本 聖子 (スピードスケート／自転車)

◆歴代幹事 (現幹事を含む) ◆

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 池田 敬子 (体操) | 石川 佐知子 (バレーボール) |
| 稲田 悦子 (フィギュアスケート) | 井上 喜久子 (馬術) |
| 岩原 多美子 (フェンシング) | 梅村 すみ子 (陸上) |
| 遠藤 恵子 (カヌー) | 大坪 恵子 (飛込) |
| 大林 素子 (バレーボール) | 大和田 智子 (フェンシング) |
| 神白 高子 (バレーボール) | 春日 宏子 (競泳) |
| 加藤 雅子 (フィギュアスケート) | 金戸 久美子 (飛込) |
| 椛沢 聖子 (陸上) | 河田 靖子 (陸上) |
| 北田 典子 (柔道) | 小菅 麻里 (体操) |
| 齊藤 美佐子 (競泳) | 坂 佳代子 (体操) |
| 佐野 智恵子 (体操) | 白井 貴子 (バレーボール) |
| 新谷 鈴子 (体操) | 真保 正子 (陸上) |
| 菅谷 初穂 (水泳) | 鈴木 裕美子 (自転車) |
| 高柳 裕子 (フェンシング) | 竹宇治 聡子 (競泳) |
| 田島 麻 (陸上) | 田中 カネ子 (スピードスケート) |
| 田中 雅美 (競泳) | 田辺 陽子 (柔道) |
| 田村 悦智子 (バレーボール) | 千種 寿代 (ライフル射撃) |
| 千葉 吟子 (体操) | 友寄 美江子 (フェンシング) |
| 内藤 充子 (陸上) | 中村 昌枝 (バレーボール) |
| 長久保 初枝 (スピードスケート) | 成田 ひで子 (スキー) |
| 西沢 礼子 (飛込) | 萩原 智子 (競泳) |
| 春岡 杜史子 (競泳) | 兵藤 秀子 (競泳) |
| 平松 純子 (フィギュアスケート) | 藤本 正子 (陸上) |
| 星野 綾子 (陸上) | 前嶋 靖子 (スピードスケート) |
| 村山 よしみ (競泳) | 望月 紀美子 (体操) |
| 矢野 まさみ (飛込) | 山口 香 (柔道) |
| 山崎 浩子 (新体操) | 吉田 昌子 (バレーボール) |
| 吉野 トヨ子 (陸上) | 米倉 幸子 (スケート) |
| 渡辺 絵美 (フィギュアスケート) | |

(お名前五十音順)



CHRIO [クリオ]



解放感、充実感。そして理想のカタチへ



普段、何気なく行っている「呼吸」。しかし呼吸の仕方次第で心と身体の健康度は大きく変わってきます。

生き生きとした身体作りのためには自然な呼吸ができるリラックスした状態を作り出すことが重要です。

スポーツや日常生活でクリオを上手に取り入れてあなたの「理想のカタチ」を実現させてください。



エナジーリング
ネックレス



インパルス
ネックレス



パフォーマンス
アップジェル



マッサージローション
DX



シアツ
マジックポイント

www.chrio.co.jp

発売元：クリエイティブ・システム・エンジニアリング株式会社クリオ事業部

TEL：03-3380-1450 E-Mail：chrio@csekk.com



はるおかスイミングスクール

会長 春岡 伸治
社長 春岡 杜史子
理事長 春錦 戸里加子

【福岡地区】

原校 福岡市早良区原4丁目23-27 ☎092-851-3315(代)
和白校 福岡市東区和白東1丁目24-26 ☎092-605-1515(代)

【北九州地区】

赤間校 宗像市田久2丁目2-18 ☎0940-32-3315(代)
水巻校 遠賀郡水巻町下二東2丁目14-26 ☎093-202-1235(代)
本城校 北九州市八幡西区力丸町2-1 ☎093-691-3355(代)
小倉校 北九州市小倉北区白銀2丁目7-2 ☎093-922-1235(代)
小倉南校 北九州市小倉南区津田新町2丁目15 ☎093-471-1777(代)

【熊本地区】

熊本校 熊本市東町4丁目2-20 ☎096-369-1235(代)
武蔵ヶ丘校 熊本市武蔵ヶ丘1丁目1-15 ☎096-339-3315(代)
大江校 熊本市渡鹿8丁目1-70 ☎096-371-1235(代)

【山口地区】

宇部校 宇部市妻崎開作910-1 ☎0836-41-2500(代)

「継続することの大切さを
オリンピックから学びました」(鈴木)

山口 昨年に引き続きまして、私と大林さんのナビゲーターコンビで務めさせていただきたいと思えます。でも、ナビゲーターというと、わかりにくいですね。ボケと突っ込みコンビといったほうがよさそうですね。

大林 私が突っ込みということでもいいですか？(笑)

山口 私がボケですか。

大林 そうなりますね。

山口 それには抵抗がありますが(笑)。みなさんと楽しくやってみましょう。今日も素晴らしいゲストのみなさんをお呼びしています。

大林 では、早速みなさんお一人ずつ、自己紹介をお願いします。

鈴木 こんにちは、鈴木大地といます。私はソウルオリンピック(88年)で金メダルを獲得しましたが、その前にロサンゼルスオリンピック(84年)にも出ていますので、2大会出場ということになります。今日は女性の方が多いようですが、大学時代は男子校だったため、女性に囲まれるということなく過ごしてきました。今日はよろしくお祈りします。

山口 うそをついてますね(笑)。

鈴木 本当です(笑)。

山口 次は東洋の魔女ならぬ美女丸山さん、お願いします。

験のある方が大勢いらつしゃることと思います。98年の長野オリンピックに出まして、その後引退しました。今はセカンドキャリアとして、日本テレビの朝の情報番組「ズームインスーパー」のスポーツキャスターという肩書きで解説をしています。今日はよろしくお祈りします。

山口 兄弟、よくまちがわれるんですよ。みなさん、弟さんの方ですよ。

萩原 年中です。選手ときは常に(兄)萩原健司とまちがわれたんですが、今は参議院に勤めている萩原健司の方が私とまちがわれているようです。どこに行っても「ズームイン見えます」ってね(笑)。

大林 立場が変わった。

萩原 ようやく、昔の双子に戻ったなあというか、同じレベルのラインに並んだなあという感じがします(笑)。

山口 さあ、みなさん。どこを見渡してもオリンピックです。町を歩いていて、そうそうオリンピックに出会うなんてことはありません。大きな海でサメの集団に出会ったのと同じです(笑)。

萩原 狼の集団の中に僕もいるんですね。スポーツの大先輩の女性を前にして、今、ピクピクしてますから(笑)。

鈴木 あんまり、変なこといわないほうがいいよ(笑)。

山口 そうですよ(笑)。では、みなさんに、競技を始めたきっかけと、いつ頃からオリ

フォーラム2009

2009年10月24日収録
会場/デサント東京オフィス

●ナビゲーター

山口 香/柔道
大林 素子/バレーボール

●ゲストパネリスト

鈴木 大地/競泳
丸山 由美(旧姓:江上)/バレーボール
萩原 次晴/スキー複合
成田 真由美/パラリンピック競泳

ピックを目指したのかということからうかがっていくことにしましょう。

鈴木 始めたのは7歳のときで、体が弱くて鈴木小地と呼ばれていたことがきっかけで始めたんです。しかも、体が弱いにもかかわらず、入会目的の欄に、「水泳選手になる」と書いたんですよ。高校2年生のとき、ようやくと日本で3番になり、もう少し頑張れば将来、オリンピックに行くことができるぞ、といわれました。次の年にロサンゼルスオリンピックがありましたからね。そこが僕にとって、オリンピックが夢から目標に変わったポイントだったといえると思います。その後も何段階ありますが、まさか体が弱かった僕がオリンピックに出られて、しかもメダルに手が届くようになるとは……。継続することの大切さをオリンピックから勉強させてもらったなと感謝しています。

山口 勉強といえは、こう見えても！順天堂大学の准教授です。こう見えても！ドクターです(笑)。

鈴木 ドクターといっても患者を診るわけじゃないですからね(苦笑)。

山口 では、丸山さん、お願いします。

丸山 始めたきっかけですね。オリンピックという大会を意識したのは、小学校1年生のときの東京オリンピックです。というところ、年齢がバレるんですけど、今、51歳です(苦笑)。この頃、スポーツが好きで、体育がよくできて、まあ勉強もできました。そんな子

どものときに体操のチャスラフスカさんを観て、すごいなと思ったんですね。それからオリンピックというもの意識するようになりました。そうしたら、学校の先生に「あなたはオリンピックの選手になりなさい」と突然言われまして。でも、なんの選手になればいいかわからなかったんですが、ちょうど小学校5、6年のときに「サインはV」「アタックナンバー1」といったマンガが放映されるようになって、バレーボールブームが起り、中学でバレーを始めました。ブームだったので部員が100人くらいいたかな。レギュラーになることすらいへんなところでスタートした、というのが始まりですね。

丸山 丸山由美です。旧姓江上といいますが。幻となったモスクワオリンピック(80年)の代表となり、次のロサンゼルスは江上で出場し、その後結婚しまして丸山由美でソウルオリンピックに出ました。そのため、こうしたところでサインを書くときにとても迷うんです。旧姓でほしがっていたことが多くありますが、江上と書くのと離婚したの？って聞かれるので、悩んだ末、江上と丸山の両方を書くようになりました(笑)。今日はみなさんの前でのトークということで張り切っていました。口が達者な方たちがいっぱいいらっしゃるの、一生懸命、話していきたいと思えます。よろしくお祈りします。

大林 成田さん、お願いします。

成田 アトランタから4大会連続してパラリンピックに参加させていただいております。初めてアトランタから帰ってきたとき、ある新聞記者の方から「パラリンピックって何ですか」と聞かれちゃって、非常に悔しい思いをしました。でも、今では回を重ねるごとに日本のみなさんの応援が大きくなっていくことと感じています。今日はみなさんに、パラリンピックという言葉を頭にインプットしていただいて帰っていただきたいなと思っています。

大林 お待たせしました、萩原さん。

萩原 みなさん、こんにちは。萩原次晴です。私は群馬県の草津温泉の生まれでございます。みなさんの中には草津温泉に浸かった経



大林 成田さんがアトランタに出るきっかけとなったのは？

成田 「成田さんは歩けた頃から水泳ができたんでしょ」って言われるんですけど、実はそれ、大きな勘違いなんです。それどころかまったく泳げず、小学校6年間の間にプールに入ったのは1回だけ。それも卒業アルバムの写真を撮るからってということで、仕方なく水着に着替えてプールに出たんですよ。3、4時間目はプールだよといわれると、仮病用の正露丸をポケットから取り出して「お腹が痛い」と見学してたくらい、水が怖くて嫌いだっただけです。そんな成田真由美がなぜ水泳を始めたかという点、アトランタに行く2年前にあたる94年、障害者スポーツセンターで「成田さん、25メートル泳げないかしら？」というメンバーが1人足りないのよ」と声をかけられたことがきっかけなんです。そのときはもちろん、「すいません。私、水泳だけはダメなんですよ」とお断りしたんですけど、なんとなく障害者の水泳大会はどこでやるんですか？ と聞いたんです。そうしたら仙台であるというので、仙台なら笹かまとか萩の月とかおいしいものがいっぱいあるし、帰りは喜多方によってラーメンが食べられるって思ってた。「私も仙台には行けるんですか？」じゃあ、私、行きます」とって(笑)。そんな子どもみたいな感覚で始めました。そうして、1ヶ月後に仙台に行って個人種目の2種目で大会新記録で金メダルをもらったんですよ。

一同 ええーっ！

成田 いや、私が一番驚きました。それで水泳を続けようと思ったんですが、その帰り道、時速160キロで居眠り運転していた車に後ろから追突され、そこからまた10ヶ月間泳げない日が続いてしまいました。その事故がなければ金メダルを獲ったと喜んでいたらどうですか、結果的に笹かまも萩の月も何も食べられなくて、新たな障害が増えてしまった(苦笑)。でも、障害を持つている仲間が毎週末来てくれて、「成田、また一緒に泳ごうね」と言ってくれた。こんなちっぽけな私のために素晴らしい仲間がいてくれるということ、事故にあったことで知ることできました。始めたきっかけは単純でしたが、そんなことがあったからまた泳ごうという気持ちが強くなったのかもしれない。みなさんも今、嫌いなことでもいつか大好き変わる可能性があるって信じてやってほしいです。

大林 素晴らしい！ このまま、トークショーを終わらせてしまってもいい、というくらいの気持ちです。

荻原 この感動ストーリーの後に僕はなんといえがいいですか？(笑)

丸山 まず、笹かまからじゃないですか(笑)
荻原 僕は3歳のときから草津のスキー場でスキーをやっていました。でも実は、健司もそうなんです、本格的なスポーツとしては体操競技をやったんですよ。僕が小学生の頃、日本男子は世界選手権を含め10連覇をし

ていた時期で、僕らにとつて、塚原といえはお父さんの光男さんのほうで、その世代の選手が僕たちのヒーローだったんです。でも、体操教室はどこも厳しいんですね。子ども心にそれが嫌だった。そんなとき、体操教室の体育館から同級生の子どもたちジャンプ台から気持ちよさそうに空を飛んでいるのが見えて。あつちの水のほうが甘そうだなと思つて、小学5年生のとき、スキージャンプに転向しました。

大林 それまで、飛んだことは全然なかったんですか。

荻原 まったくやってませんでした。

山口 私たちは嫌ですよ。あんなところから落っこちるなんて。飛んでるように見えますけど、落ちていっているんですよ、実は。

荻原 その通りです。

山口 何を考えてやっているんだろうと思います。

(会場、大爆笑)

荻原 人生に行き詰った方におすすめてですね(笑)。新たな人生の発見できるスポーツだと思います。最近、日本で軽犯罪が多発していますが、処罰を与えるにはあのスポーツは一番いいです。

山口 では、オリンピックでこんなことがあった、苦しかった、失敗しちゃった、今だからいえるということを2秒考えていただきたい。成田さんからお願いします。

成田 どれも順番をつけにくいのですが、そ

の中でも一番の思い出という点、初めてパリリンピックに出て金メダルを2つ獲った96年のときに出会った選手のことです。ドイツのカイ選手というのですが、ライバルといいますが、この大会で金メダルを4つも獲ったんですよ。2対4で私の負けです。元来、私は負けず嫌いのB型性格なので、すごく悔しい思いをして、そのときから、絶対4年後のシドニーではカイ選手よりも金メダルを多く獲ってやるということが目標となりました。とはいえ、この4年間の間にはいつもいろんな故障があるんですが、どうにか滑り込みでシドニーに間に合い、私は金6個と銀1個獲ったんですが(拍手)、カイ選手は銀メダル5個で終わったんですね。それはもちろん嬉しかったんですけど、でも、どうしてカイ選手は弱くなっちゃったのかなと思っただけです。そうしたら、その2年後、カイ選手のお母さんから「カイの命が危ない」連絡がありました。私はライバルが、34歳のカイ選手が死ぬなんてこと考えたこともなかったんですけど、そのとき私も入院していてとてもドイツに行ける状況になかったので、千羽鶴を折って届けたいと思っただけです。でも、願いは叶わず、千羽鶴が届く前にカイ選手は亡くなってしまいました。あまりにショックで、なかなか現実を受け入れることができませんでした。でも、カイが生きていたらアテネを目指していたということに気づき、私がかいこの分もメダルを獲って届けようという

ことが新しい目標となりました。そうして、アテネ大会で金7個と銅1個獲ることができました。金7個のうち6個が世界新記録だったんですが、1種目だけ新記録を出せなかった種目がカイ選手が記録を持っていた50メートルの背泳ぎだったんです。そして、その50メートルの背泳ぎで獲った金メダルを翌年2005年1月の終わりにカイ選手のお墓に届けに行きました。カイのお母さんは「本当にこのメダルを置いていくのか」といったんですが、カイが生きていて私と一緒に泳いでいたら、私は絶対金メダルを獲れなかったから、このメダルはカイが持っているべきと思うと伝えました。こうした経験、競技のことも大事なんです、競技以外でこういう選手と交流を作れたっていうことに私はとても感謝しています。未だにカイ選手は私の心の中で生きているし、一生涯私のライバルにいるんじゃないのかなと思っっています。

(会場、拍手)

大林 合計で何個の金メダルをお持ちなんですか？

成田 金が15個で銀が2個、銅が3個で合計20個です。

山口 実はですね、パラリンピックの選手たちをこのTOLのフォーラムにお呼びするようになったのは、昨年度からなんです。オリンピックは注目をされますが、パラリンピックも本当は同じくらい、あるいはそれ以上に注目されているし、もっと評価されていると

いうことが、私たちの共通した考えだったんですよ。これからは活動も一緒にやっていきたいということで、今回、成田さんに来ていただきました。

「オリンピックでメダルを獲れたことは私の大きな喜びです」(丸山)

成田 ありがとうございます。忘れないようにひと言いいですか？ オリンピックには報奨金がですよ、金300万円、銀200万円。パラリンピックの場合、初めて北京から出るようになったんです。ちなみに、金が100万円、銀70万円、銅50万円です。遡ってはもらえないので、1円も報奨金はもらっていません(笑)。報奨金をもらっていたら、私、今日この会場に小林幸子さんに負けないくらい電飾を着て現れたと思うんですよ。

(会場、爆笑)

成田 ただ、北京から出るようになったっていうことは大きな一つの進歩だと思います。

山口 こういう機会でもパラリンピックのことをみなさんに周知していただく、ついでにいますか、知っていたら機会はなかなかないのだけれんことを喋っていただきたいと思います。では、女性続きで丸山さん。

丸山 私はロサンゼルスオリンピックに一応、チームのキャプテンで出場しました。みなさんもご存知だと思いますが、バレーボールというのは東京オリンピック以来、本場に

です。ダイエットでお困りの方がいたらぜひオリンピックに出てみることをおすすめします。すぐ痩せられます(笑)。やっぱり、オリンピックって怖いところだなと思いましたね。こういうところで自分の力を発揮させるためには、やっぱり自身に実力が無いといけないんだ、ということをつくづく感じました。それからですね、練習を頑張り始めるようになったのは。その4年後、ソウルに出るんですけど、この間はものすごく練習しました。ふと気づいて手を見たら水かきができたくらい。そういう4年間で、非常に大きな経験させてもらいました。

「長野は片道燃料のヤマトの
気持ちでした」(萩原)

大林 では次に、萩原さん、お願いします。
萩原 僕は長野オリンピックに出場しましたが、楽しい思い出というのは一切ありません。正直、これはなかなかテレビじゃいえないことなんです。本当にないんです。オリンピックで何を覚えてるかといえば、夢見た舞台上がってみたら、これほど恐ろしい場所はないなと感じた、というのが正直なところ。私も選手をずっと続けてきましたから、何千人、1万人というお客さんが観ている国際試合に出場し、滑ったこととはありますけど、オリンピックは規模が違う。4万、5万という数のお客さんが観てるわけですね。その姿をスタート地点から見る

と、下は歓声というより、地鳴りなんです。「キャー」じゃないんですよ。「ゴー」っていう感じ。そして、これまで見たこともないくらいの数の日の丸が振られているんです。我々はそのおおよそ時速90キロのスピードで滑っていくんですが、ほんの数ミリ、タイミングがずれただけでバッシングされてしまう。そうなんです、スピードジャンプというのは勝たなければいけないんです！
山口 日の丸飛行隊ですものね。
萩原 そう、我々は特攻隊なんです。だから、スタート地点に立ったとき、本当に恐ろしかったんです。勝ったら日の丸を振ってるあの人たちは一斉に僕を至福してくれる。でも、負けたら、あの人たちは全員敵になって、もう僕は日本に住んで居られなくなるんじゃないかと思いました。本当に思いました。というのも、前例があるんです。94年リレハンメル大会のとき、日の丸飛行隊団体は銀メダルでした。でも、最後の最後、あの選手が失敗しなければ金メダルだったんです。たれ目の原田(雅彦)選手です。そのとき、最後の選手が105メートル飛べば日本は金メダルという状況だったんです。原田選手は当時は調子が良くて、たぶん黙って目をつぶって飛んでも140はいくだろうという感じでした。金メダルが期待される中、原田選手はスタートしたんですが、結果はなんと9メートル。日本はその瞬間、銀メダルになりました。テレビでご覧になられた方は「原田はバ

田さんに怒られちゃう(苦笑)。
山口 じゃ、ここはすっと流して行きましょう。鈴木さん。
鈴木 いいお話でしたね。今、丸山さんからバレーボールが伝統の種目だという話がありました。私は1984年に初めてオリンピックに出場させていただきました。17歳でございませう。このとき私は弱い選手で、NHKのアナウンサーにも急きょ代表になったような選手といわれていたんですよ(笑)。でも、オリンピックに行く、弱かろうと期待されんですよ。覚えているのは開会式。でっかい競技場がありまして、入場行進のときはABCと国ごとに順々に呼ばれていくんですが、「ジャパン」とコールされて、会場に手を振りながら入っていったときの観客の拍手と声援。これに感動しましたね。全身に鳥肌が立って、オリンピックに出られてよかったなと心から思いました。ところが、水泳は翌日から競技が始まるんですね。自分の出番が徐々に近づいてくるわけです。そうすると、だんだんお腹が痛くなってきました。何ともいえない緊張が始まってくるんです。特に初出場ということで、僕にとつてこの大会が一番大きな国際大会みたいなもんだ。頭の中が真っ白になっちゃって、緊張がお腹に来てお腹をくだし、59キロの体重が55キロになり、最後はもうフルーツとジュースだけで試合に出ました。つまり、わずか数日間で4キロ痩せたん

命やっつけてくれたなあ、と。そんなふうにならなくていいよ。次、頑張れ」って励ましていただき、やっとの思いで銅メダルを獲得しました。このロサンゼルス銅メダルが日本の男女を通じて最後のメダルとなっています。だから、メダルを獲れたことは私の中でとても大きな喜びになっています。その後、引退し、おかげさまで結婚しまして(笑)、現役を引退してたんなんですが、一応キャプテンで復帰ということになりました。そのときにいたのが大林素子ちゃん。10歳違うんです。10歳違うものの考え方全然違うんじゃないかって思ったんです。かつて私先輩たちに教わったバレーの厳しさ、伝統を守るために勝たなければならぬということ、この子たちにわかるのって。
大林 はい、よく新人類っていわれました。
丸山 最初は先入観でそう思っていたんですよ。この一週間ぐらい、そのときのことを振り返ってみましたが、素子たちは一生懸

と、下は歓声というより、地鳴りなんです。「キャー」じゃないんですよ。「ゴー」っていう感じ。そして、これまで見たこともないくらいの数の日の丸が振られているんです。我々はそのおおよそ時速90キロのスピードで滑っていくんですが、ほんの数ミリ、タイミングがずれただけでバッシングされてしまう。そうなんです、スピードジャンプというのは勝たなければいけないんです！
山口 日の丸飛行隊ですものね。
萩原 そう、我々は特攻隊なんです。だから、スタート地点に立ったとき、本当に恐ろしかったんです。勝ったら日の丸を振ってるあの人たちは一斉に僕を至福してくれる。でも、負けたら、あの人たちは全員敵になって、もう僕は日本に住んで居られなくなるんじゃないかと思いました。本当に思いました。というのも、前例があるんです。94年リレハンメル大会のとき、日の丸飛行隊団体は銀メダルでした。でも、最後の最後、あの選手が失敗しなければ金メダルだったんです。たれ目の原田(雅彦)選手です。そのとき、最後の選手が105メートル飛べば日本は金メダルという状況だったんです。原田選手は当時は調子が良くて、たぶん黙って目をつぶって飛んでも140はいくだろうという感じでした。金メダルが期待される中、原田選手はスタートしたんですが、結果はなんと9メートル。日本はその瞬間、銀メダルになりました。テレビでご覧になられた方は「原田はバ



山口 同じような経験を東洋の魔女もされていきますね。実は昨日が東洋の魔女が東京オリンピックで金メダルを獲った日（10月23日）なんです。それで今日は何の日、っていう番組を私見ておりましたら、同じことをいつてらっしゃいましたね。でも、日本国民はそんな悪い人間じゃなくて、そういう人たちは本当に一部なんですよ。あとのみなさんは頑張ったことをちゃんと評価してくださいって。でも、そのちよつとのことかプレッシャーになるんですよ。よくわかります。続けて荻原さん、その中で頑張り抜けたのはなぜでしょう？

荻原 実はオリンピックに向けて、僕は一つのテーマを持っていました。そのテーマとは『恨みはらさずにおくべきか』です（笑）。人間の奥底にある執念の、何ともいえないどろどろとしたエネルギーです。というのは、私が4年生のとき、22歳の冬ですけど、92年アルペール冬季オリンピックが開かれました。そのときに日本中からまったく期待も注目もされていないノルディック複合という競技で、荻原健司たち団体チームが金メダルを獲得しました。当時、私の兄が日の丸を振ってゴールするシーンが何度も放映されましたけど、あれによって荻原健司は瞬く間に日本のスポーツヒーローになりました。たぶん当時、荻原健司を知らないという日本人はいなかったと思います。そういう荻原健司フィーバーの中、私が町を歩いていきますと「オリンピック

ク、観てたわよー」と言われるわけです。その度に「僕も観てました！」（笑）。辛いんですよ。「健司さん、サインください」と言われると、僕は健司じゃなくて双子の弟の次晴なんですと説明していましたが、当時、誰にも信じてもらえなかった。ときには「双子さんのあの、ましがえてごめんさいね」とやさしく言うてくださる人はいましたが、それ以外の人はみんな僕になんていったかという「なーんだ、がっかりした」「ちえつ」です。声かけて失敗したっていう人もいました。そんなこといわれて、嬉しく思う人間はいないですよ。人から「なーんだ」って言われたこと、僕はそれまで1度もなかったですけど、健司が金メダルを獲ったあくる日から、声かけられてがっかりされる。人違いされるのが悔しくて、『今までにそっくりさんとか、ニセ物とか、ちえつていった人をいつか絶対見返してやる』という気持ちがオリンピックへの目標に変わっていききました。長野でどうにか恨みを晴らすことができたかなと思っています。

（会場、拍手）

山口 確かにね。双子に生まれちゃったゆえのことってというのは、本人にしかわからないですね。で、試合のとき、どっちが出てもおかないってことはなかったですか？（笑）

荻原 当時、荻原健司が世界で勝ち続けたときはですね、ヨーロッパで『荻原健司は双子で、健司がジャンプを飛んで、弟が走って

えてもらっている結果でもあります。例えば、障害者が見えるスポーツセンターというのは東京都内に2ヶ所、神奈川県に1ヶ所あるんですが、そこで楽しく泳いだら、競って泳ぐ競泳ではないと思っただけです。パラリンピックに出て1秒でも速くタイムを縮めるために、家の近くにある民間のスイミングクラブで練習しようと電話をしたんです。そうしますと、電話だと私が車椅子を使っていることはわからないので、最初は「入会したいんですけど」というと「ありがとうございませう。今お申し込みされますと入会金が無料となります」と、ものすごく対応がいいんです。最後の最後に明るく「車椅子なんですけど」って言った瞬間、態度ががらっと変わって、結局6ヶ所断られました。でも、7ヶ所目に今、通っている横浜市内のコーチと出会って、今までの経緯を話したら「同業者して恥ずかしい。泳げるか泳げないか訊いてもいいのに、ただ、車椅子ということだけで断ることを僕はとても残念に思う」と、私を引き受けてくれたんですね。そこから14年というコーチとの長いながい付き合いが始まっているんですが、コーチは今でも私のもつとも良き理解者です。そのほか、スイミングクラブには一緒に泳いでくれる会員さんがいますし、家族の存在、コーチの存在、また日本テレビの社員として仕事をしていますので日テレの上司と本当に環境に恵まれています。そういう人たち、場面に感謝したいと思います。また、

最近私が嬉しいなと思うことがもう一つあります。水泳には障害に関係のないマスターズという大会があります。年齢別の大会で、そこではみなさん飛び込みもするし、キックもするし、クイックターンもするのでどうしても、勝てなかつたんですね。そんな私が亡くなった木原光知子さんがつくったウーマンズ大会に出場したところ、52人中44位だったんです。それが私にとって最近の喜びの瞬間で、健常者と呼ばれる人たちと一緒に泳いで戦えること、たぐさんの人たちが声をかけてもらえることがものすごく嬉しいなと思うんです。このようにマスターズ大会にも積極的に参加することで、車椅子の人も泳げることを知ってもらえるいいチャンスになるのではないかと考えています。そんなふうには生活を楽しんでいます。

（会場、拍手）

山口 今、成田さんからコーチの話が出てきました。成田さん、コーチとの話を聞かせてください。ソウルのとき二人三脚で金メダルを獲ったということで有名になりましたが、もう随分昔のことですので、みなさんお忘れになってるんじゃないかと思えます（笑）。

鈴木 コーチは鈴木陽二といい、同じ名字なので父親だと思われていますが、そうではなくて、中学校1年生のときからずっと教わっていたんですね。僕は最初は違うスイミングクラブにいたんですが、移籍したところに鈴

るらしい」という噂がでたらしんですよ（笑）。荻原健司がなんであんなに速いのかというと、森の中で顔もそっくりなので交代しているっていうのもありました。

大林 それは本当？

荻原 本当にはありません。

山口 本当にやったの？

荻原 やってませんよ、やるわけじゃないんですか（笑）。やりたかったですけど、できません。

山口 そういうエネルギーの使い方もあるんですね。まあ、これは負のエネルギーです。次はプラスのエネルギーで成田さん、きれいな話をお願いします。

「ロンドンでベストを尽くせたら、自分に金メダルをあげて引退したい」（成田）

成田 私は4年間ピシシリ、満身に練習ができて参加したパラリンピックというのは、実は1度もないんです。アトランタからシドニーまでの間にお腹の手術をしたり、肩を壊してしまったり、シドニーからアテネの間も体調を崩して入院して薬の副作用で体重が20キロも増えました。アテネが終わって今回の北京までも1年8ヶ月入院して、股関節を3回手術し、北京が終わった直後もヒジの手術をして7ヶ月間入院をしました。それでも4年に一度のパラリンピックにはどうにか間に合せて、出場できるというラッキーな状況にあります。そして、本当に多くの人たちに支

木コーチがいたわけです。そこからお世話になりました。すごく大きな人で、考え方もかたくて、僕の個性をつぶさないで育ててくれた方です。オリンピックのとき、僕はどうしてもビビってしまつて、守りに入っちゃう傾向にあるんですけど、うちの鈴木コーチはすごく度胸がありましてね。「大丈夫だ！」とビビる僕を受け止めてくれました。経験からくる、なんともいえない大きな包容力がありました。そういう話？（笑）

山口 そういうことなんですけど、もっとこう、なんかいいですか。決勝のときに魔法の言葉をひと言いってとか。

鈴木 本番前、選手とコーチは離ればなれになるんです。コーチは観客席から見なければなりませんから。その別れ際にひと言、どいう言葉かけるといいですかね。例えば、この間の北島（康介）選手でいえば、平井（伯昌）コーチは「勇気を持ってゆっくり泳げ。ゆっくり入れ」って言ったんです。これから1秒を争う人に、ゆっくり泳げって。それはまた勇気のある言葉だと思います。私の場合は最後なんていうのかなと注目していたら、「大地、お前は天才だ！」というひと言でした。

山口 つまり、そこには選手とコーチとの信頼関係が流れているっていうことですね。あとはあ・うんの呼吸でいける。

鈴木 とはいえ、何度か反発したことはありました。高校のとき、ロサンゼルスオリン

ピックを目指す頃は、管理社会という言葉が流行っていたんです。管理野球とかね。そんなこともあって、コーチから「俺んちに来い。下宿しろ。食生活も練習もみんな管理してやる」と言われたんです。でも、僕はすぐにいいました。「嫌です。そんなことしなくてもオリンピックに行ってる人はいます」って。鈴木コーチのすごいところは、そこからです。その言葉に、「そうか」って言ったんですよ。最近の若いやつは管理されるのが嫌なんだな、と理解してくれたんですね。非常に心が柔軟なんです。最近ちょっと硬くなってきたんですけど、相手に合わせて柔軟にすぐ変えられる人。そのあたりを僕は素晴らしいなと思っています。



山口 ありがとうございます。では、丸山さん。丸山さんはロスで1回引退し、ソウルに出たっておっしゃったじゃないですか。その間ごうい続きました。そんなハードな生活の中でも、やっぱり守ってくれる人がいた。そのことがとても支えになったことは確かです。

山口 最近、結婚しても、出産してもプレーヤーを続ける選手が多いじゃないですか。丸山さんはそのはしりみたいな存在なので、それは女性にとつてどうなのかと、お聞きしたかったんです。

丸山 そうですねえ。でも、相手の方や周りの環境によって違いますね。今、そういう選手が多いということは、そういう環境が整っているということなのでしょう。そういう選手にこれからドンドン出てきてほしいと思うし、子どもを産んでも復帰するっていう選手も増えてほしいと思います。女性のパワーはすごいんです。その気になれば、なんでもできるんじゃないかなと思います。素子、頑張ってくださいね。

大林 その気になってないってことですか？ すいません(笑)。でも、江上さんをずっと見て、何かあれば由美さんについていけば大丈夫というそういう力強さがあったので、バレー界の憧れを一つつった方だと思っています。

丸山 それは監督がつくってくれたの。
山口 すいませんねえ、バレー界のよいしょの仕方(笑)。
(会場、大爆笑)

の間におかげさまで結婚したって。そのころの変化、旦那ができたら強くなったとか、監督のことを信用できなくなったとか(笑)、そのあたりの結婚する前と後の変化を聞かせてください。

丸山 ちょっと話は違うんですが、山田(重雄)監督という三冠をとった監督がおられるんですが、大地君の話の流れでいいですよ、その指導者というのは人物を見て指導方法を変えるという、そういうところがすごかった監督なんです。私が実業団に入った頃は、「江上はダメだ。人間的にもプレーもダメだ」と、私を落とすような、そういう指導を受けていたんです。そのため、私は「ああ、私はダメなのか」と思っていたんです。そして、初めてワールドカップのメンバーに選ばれたとき「江上、ちょっと来い」って呼ばれて、選ばれたから喜んでいたら、「お前は人数が足りないから入れただけだ」と言われたんですね。さすがに「このやろう」と思いました。私もおとなしそうな顔をしてるかどうかわかりませんが(笑)、すごく負けず嫌なんです、コートに入ると。そういうふうには叩かれたことよって、強い気持ちで湧いてきました。そんな指導を受けた私が全日本チームのキャプテンになると、今度は「江上はすごい。江上を見てみる」ってねえ、素子。

大林 はい。そう思っていました。
丸山 でも、そういう人物じゃないんです。全然違うんです。普通のプレーヤーだったん

大林 わかりました？

山口 私も見習おう。美しい話をありがとうございます。ここまでずっとみなさんから素晴らしいお話を聞いてきました。最後に、みなさんにこれからひと言ずつ、やりたい夢、目標などありましたらお願いします。

荻原 私の今のこのセカンドキャリアにおいての一番の夢は、夏のオリンピックでのメインMCです。

成田 北京の大会で今までのクラスよりも障害が軽いクラスに変更されてしまいました。過去3大会の記録が抹消されてしまったですね。今回のクラスでは、飛び込む選手、クイックターンする選手と一緒に泳ぐので、ロンドン大会ではメダルを獲得することは多分ムリだと思えます。ですが、ロンドン大会で自分のベストを出すことができました、自分に対して金メダルをあげて、引退をしたいと思います。

(会場、拍手)

丸山 バレー界は今、頑張っています。再びメダルというところにいくために、底辺を大切にすることも含めて、いろんな意味で自分が今できること、力になれることをやっていきたいと思っています。例えば、ママさんバレー、特別支援学級、養護学校などさまざまなところで指導する機会がありますので、そうしたところで心が動くような指導をし続けていきたいと考えています。

鈴木 水泳が22世紀も『水泳、日本』といっ

です。それなのに、そういうふうには持ち上げられませんでした。プレーしていても後ろに若い選手を立たせて、「ほら、見てみる！ 江上のプレーこんなにごいぞ」と私に聞こえるように言っていましたね。それが一つの作戦だということが何年かしてわかったんです。そういうやり方で指導者というのは指導のやり方を変えていくんだということを学びました。そうやってその人物の性格や個性を変えていく。それでなんとなく自分も器が大きくなったような気がして戦うことができた気がします。その後、引退をしたんですが、後輩がワールドカップで成績を落としたということ、まとめ役でちょっと入ってほしいということ、頼まれて復帰しました。といっても、1日でも練習を休むと本筋力が落ちてしまふんです。だから、復帰したときにはケガばかり。その中で精神力だけで頑張っていたんですが、私の後ろに誰かがいてくれるということはやはり違いました。主人もバレー関係なので、コンディショニングのこと、プレーのこと、彼にぶつけても返してくれるんです。主人が後ろにいてくれるっていうことがものすごく大きく、そういう意味で私自身は1プレーヤーに専念することができました。でも、結婚してしましたから、生活はたいへんでしたね。午前中の練習が終わったら、昼休みはスパーに行つてにんじんや大根買って家に帰り、夕飯のしたくをしてから午後の練習に参加し、ウエイトトレーニングをして夜

でもらえるように橋渡しをしていきたいと思っています。世界的にいうと、黒人選手の水泳への参加、これを僕は一つの大きなテーマにしていきたいなと思っています。以上です。
山口 古橋さんの気持ちを受け継いで、ぜひ頑張ってください。
大林 本日はみなさん、いいお話をありがとうございました。

ゲストバネリストプロフィール

鈴木大地 すずき・だいち。競泳。順天堂大学准教授。千葉県出身。84年ロサンゼルス、88年ソウルに出場し、ソウル大会100m背泳ぎで金メダルを獲得。潜ったまま水中を進むバサロ泳法で有名。世界オリンピック協会理事。

丸山由美 まるやま・ゆみ。旧姓、江上(えがみ)。バレーボール。東京都出身。幻となつた80年モスクワから代表となり、84年ロサンゼルスで銅メダルを獲得した後、一度現役を引退。再び復帰して88年ソウルに出場。

荻原次晴 おぎわら・つぐはる。スキーノルディック複合。スポーツコメンテーター。群馬県出身。98年長野で個人6位、団体5位入賞。双子の兄・健司氏とともに知られる。

成田真由美 なりた・まゆみ。パラリンピック競泳。神奈川県出身。中学生のときに病氣から下半身麻痺となり、以来、車椅子生活となる。96年アトランタ、00年シドニー、04年アテネ、08年北京と4大会連続で出場し、金メダルを15個獲得している。

TVCMでおなじみ!! フチシルマ

肩首腰ヒジヒザなどのコリに

コリが解消された!

ツボ名人

けん & 研

ヨツトキ!!



フチシルマ ツボ名人 単回使用
一般医療機器 家庭用貼付型接触粒
鍼または灸用器具
※ プラスター（バンソウコウ）の中央（3つ）の粒状の
硬質物をコリの部分につけることでコリをやわらげます。
医療機器 製造販売届出番号 13B2X00150000001
ゲルマニウム粒/8粒×2シート/16粒

2,100円(税込)



類似品にご注意ください。

第25回TOL総会

日時 平成21年10月24日(土)
場所 デサント東京オフィスB1
司会 友寄 美江子(フェンシング)

1. 開会の言葉 吉田 昌子(バレーボール)
2. 副会長挨拶 竹宇治聡子(競泳)
3. 事業報告 友寄美江子(フェンシング)
4. 会計報告 北田 典子(柔道)
5. 会計監査 齊藤美佐子(競泳)
6. その他
7. 閉会の言葉 藤本 正子(陸上)

【総会出席者名簿(2009)】

- | | |
|----------------|-------------------|
| 竹宇治 聡子(競泳) | 大林 素子(バレーボール) |
| 吉田 昌子(バレーボール) | 丸山 由美(バレーボール) |
| 友寄 美江子(フェンシング) | 田中 雅美(競泳) |
| 北田 典子(柔道) | 柴田 亜衣(競泳) |
| 齊藤 美佐子(競泳) | 春岡 杜史子(競泳) |
| 藤本 正子(陸上) | 村山 よしみ(競泳) |
| 星野 綾子(陸上) | 千種 寿代(ライフル射撃) |
| 佐野 智恵子(体操) | 金光 貞幸(TOL会アドバイザー) |
| 山崎 浩子(新体操) | 永田 千恵(TOL会ライター) |
| 山口 香(柔道) | |



地域貢献

スピードスケート 戸田 則子
(現姓・松村)

Speed skate

88年カルガリー
92年アルペールビル



92年のアルペールビルを最後に引退してから18年の歳月が経ちました。現在は中学3年の長男と中学1年の長女を持つ2児の母です。今振り返ってみると、スケートを引退した当初は、練習漬けの毎日から一般生活への切り替えで正直、少し戸惑いがありましたし、不安もありました。でも、社会人1年生のような気持ちで、新しい仕事に取り組んだことを思い出します。

トレーニング中心の生活を送ってきた私は、1日中働くことのないへんさや苦勞を改めて実感しました。また、それぞれの仕事に対して、その道のプロになりきって仕事をする人たちの姿に、私自身、身の引き締まる思いがしました。

このように引退後、仕事に就き、結婚、そして出産、子育てとスケートからはなれ、ごくごく普通の生活を送ってきましたが、ふと自分の中で、自分が経験してきたことを活かして地域に貢献したいと思う気持ちがふつふつと沸いてきました。

今から10年前にさかのぼりますが、子どもたちが幼稚園に通っている頃、周囲のお母さんたちから「スケートを教えてほしい」と声をかけていただいたことがきっかけとなり、以来、市のスケート教室のアドバイザーとして携わっております。子どもから大人まで、滑れる方も滑れない方も楽しんで参加していただいております。

昨年、子どもの中学校では授業の一環としてPTAの保護者の中から仕事の話や夢を叶えた話をして欲しいとの依頼が私にもあり、驚きと戸惑いもありましたが、長男にとって



も大事な時期でもあり、またとない機会と受け止め、お引き受けしました。やはり、自分の中にだけ宝物をしまい込んでおくのはもったいないと思うと同時に、中学時代の3年間は一生の土台をつくる大事なときと考えたからです。後悔しない10代を過ごすために持っているエネルギーや個性を良い方向へと発揮してほしい。それには、すべて「勇気」が必要だというメッセージを贈りました。

授業の一環とはいえ、子どもを通して講演会でお話をできたことに、とても感謝しています。さらに今年の中3の受験生を抱えながら、PTAの副会長を引き受けて、目の回るような日々ですが、ありがたい



ことに太らず、体重をキープしております(笑)。

4年に一度のオリンピックをテレビで観るたびに、現役時代の頃を懐かしく思い出します。選手のみならずのメダル獲得に家族も熱が入り、興奮しながら応援しています。

オリンピックで何よりも感動することは選手1人ひとりがオリンピックという大舞台に懸ける思いとさまざまなドラマがいつぱい詰まっていること。目頭が熱くなります。

最後になりましたが、先日、5月

29日に開催されたTOL会創立25周年記念オリンピックアン&パラリンピアン協働イベントに参加させていただきました。久しぶりの参加に心が躍りました。そして、楽しいひとときを過ごさせていただいたことに深く感謝しております。

現役アスリートの方々のお話の中でお一人、おひとりが置かれている境遇は異なりますが、人にはわからない壮絶な苦しみと闘い、試練の嵐を乗り越えて、アスリートである前に一人の人間として、自分らしく生きていくこと、自分の人生を最悪から最高へと切り開いていく「勇気」に私は大感動しました。それぞれの人生の重さがひしひしと伝わってきました。そして、勝負に勝つこと以前に「自分に負けない」こと。この小さな積み重ねが必ず大きな結果へと結びつくことを現役アスリートの方々の生の声を聞かせていただき、胸が熱くなりました。ありがとうございます。今後、みなさまのご活躍を心より祈っています。そして、全世界の隅々まで、夢と希望と勇気を轟かせてください。

また、久しぶりにTOL会に参加



プロフィール
戸田 則子 (現姓・松村)

<主な成績>
92W杯アルペールビル500m
4位入賞

選手の抱える 問題解決の一助に！

Ice dance

98年長野

フィギュアスケート 河合 彩



7歳で始めたフィギュアスケート。演技中に感じる風や音楽を体で表現することが好きだった私ですが、決してジャンプの才能には恵まれていませんでした。結果、13歳で女子シングルスからアイスダンスに転向。アイスダンスを始めた当初は規定ばかりの練習が嫌いだっただのを覚えています。

そんな私が本気で五輪を目指すようになったのは、松村達郎コーチとの出会いが大きかったといえます。まだ何の成績も持たない私が「長野五輪に出場したい」と自らの目標を告げると、松村コーチは「じゃあ、頑張らないといけないね」と答えました。あのとき、もしコーチに鼻で笑われていたら私の長野五輪出場は

なかったでしょう。

その後、パートナーの田中衆史氏と組んでからの選手生活は順風満帆でした。田中氏と一緒に滑った4年間、このときがもっとも私の人生で輝いていた時期だったと思いますし、自分自身が一番自信を持っていた代だったといえるでしょう。

長野五輪直後の世界選手権で私は引退しますが、決して納得して引退したわけではありません。当時の私は22歳。アイスダンスの選手のピークは20代後半です。つまり、まだまだ現役を続けられた年齢だったので、では、なぜ引退に至ったのか。それは当時メジャーではなかったフィギュアスケート、特にマイナーなアイスダンスの選手にスポンサーがみつからなかったからです。長野五輪までは母がスポンサーでした。でも、これ以上母に負担をかけることはできませんでした。

引退した年は、ほぼ毎日泣いていました。スケート靴を脱いだ自分が想像できなかったのです。やめなければいけない悔しさを稚拙ながら記者に訴えたこともありました。しかし、その苦しさを汲んでくれる人は

いませんでした。

今でも忘れられないのは、引退試合となった世界選手権の公式練習で、自分でも驚くような滑りをしたことです。何か技術的な殻を破った瞬間だったと思います。なんともいえない感覚が体を突抜け、何かをつかみかけていました。皮肉なことに引退する朝の出来事でした。

一方、子どもの頃から苦勞をかけた母のたつての希望で、引退後、私はプロスケーターではなく企業へ就職する道を選びました。スケートばかりやっていた私は、世の営業マンが何をやっているのか、金融、商社が何の会社なのか、何も知りませんでした。そこで、現役時代に取材を受けていたアナウンサーという職業に目をつけたのです。私は当時、アナウンサーが人気職種であることすら知りませんでした。しかし、日本テレビは私のようなスケートしか知らない人間をアナウンサーとして採用してくれたのです。後に聞いたところによると、「あれだけ努力できる人間なら伸びるだろう」というのが採用理由だったとのことでした。晴れてキー局のアナウンサーと

なった私ですが、ここからは試練の連続でした。理由は同期と比べて漢字も読めず、滑舌も悪く、世の中のことを何も知らなかったからです。それまで選手としてトップにいたのに、研修ではいきなり落ちこぼれ。悔しいというより消えてしまいたいほど恥ずかしく、自分のプライドはズタズタに傷つきました。

それでも持ち前の根性と努力でコツコツと足りないところを補いながら一人前のアナウンサーになる道を歩き、気がつけばアナウンサーという職業にすっかり魅せられていました。そして、アナウンサーとして3年が経った頃、異動の辞令が下りました。「アナウンサーは10年経って一人前」といわれますが、3年で異動させられた私は「アナウンス技術が未熟だから」「美人じゃないから」と勝手に思い込み、卑屈になりました。異動先は編集局スポーツ。スポーツニュースの担当でした。アナウンサーという職業上、原稿を書くことができた私は、異動したその日からディレクターとしてニュースの編集をさせてもらえました。後にわかったことですが、このときの異動はス

ポーツ側がソルトレイク五輪のために私を引っ張った、というのが理由だったそうです。しかし、そんなことを知る由もない私は後輩アナウンサーと一緒にディレクターとして働くことがとても辛く、02年12月末、日本テレビを退職。気持ちの整理とスケートのコーチを目指すためにカナダへ語学留学したのです。

約2年間の留学後、私はスケートのコーチになる道を模索しました。しかし、すでにスケートリンクが国内から激減しており、どのリンクもコーチは飽和状態。しかたなく某不動産IT企業へ勤務することを選びました。この会社はベンチャー企業だったため、ずいぶん多くのことを学ばせてもらいました。入社してまもなく広告宣伝・ブランディング担当となり、気がつけば苦手だったPCの扱いは得意分野になっていました。また、急務への対応が社内できるように、とデザイナーが使用するソフトや動画編集ソフトも使えるようになりました。特に広報としてリリースを書く作業、会員向けメルマガ配信、動画編集やイベントの仕切りなどは日本テレビ時代に培った



ことがすべて活かされたと思います。しかし、サブプライムローンの影響で、同企業の経営が悪化。広告宣伝を手がける部署自体がなくなり、09年秋にこの企業を退職しました。

退職後しばらくは通常の就職活動に励んでいましたが、自らの職業履歴書を眺めていたある日、まったく統一性のない自分の経歴がなんとなく1本の線で結ばれているように思えたのです。スケートで培った努力、

テレビ局で学んだ伝える力、そしてそれを存分に行かせた企業での広告宣伝担当。これらはすべてスケートを通じて学んだ「努力と集中力」の上に成り立っています。そして「私の紆余曲折した経験を選手に役立てることができないだろうか？」との考えが頭をよぎりました。

元来、猪突猛進の私です。気がつけば元アスリート、JOC、スポーツマネージメント会社などにヒアリングをしていました。結果、景気の

Topics

水中から陸へ

和田 映子（現／川崎）／水泳

（56メルボルン、60ローマ）

5年前、市役所のいきいき長寿課が主催する『げんきラリリー教室』の募集チラシを見て申し込みました（11期生）。

目的は、運動不足を解消し、楽しく体操を行ないながら、元気な身体づくりに取り組むこと。和歌山大学の有名な本山先生はじめ長寿課の方々のご指導で、1週間に一度、3ヶ月

平成22年すこやかスポーツ塾 塾長として

白井 貴子／バレーボール

（72ミュンヘン、76モントリオール）

3月22日（月・祝）新宿区立新宿スポーツセンターにおいて、小学生向けの1日スポーツ教室に参加しました。保護者も興味と笑顔を向ける中、スポーツの他にも、ためになるプログラムが盛りだくさんあって楽しんでいました。

午前中、4〜6年生、午後は1〜3年生と約100名のキッズたちとの「ふれあい」は、教えていながら、私もいっぱいエネルギーをもらいました。

この教室をきっかけに「スポーツ大好き人間になってくたさいネ」と思った1日でした。

2012ロンドン五輪 女子代表選手第1号決定

今号のメッセージでも登場してくださった小西ゆかり（現・森）さんがライフル射撃でロンドンへの切符をつかみました。次回は森ゆかりさんで登場されます。みなさん、どうぞ応援してください。

せいで選手を取り巻く環境は悪化し、セカンドキャリアの問題も浮きぼりになっていくことを知りまし

た。私のこれまでの人生は「行き当たりばったり」といっても過言ではありませぬ。しかし、そんな中で「選手特有の努力と集中力はビジネスにおいても有効である」ということを学びました。このことは、選手にも企業にも伝える必要があると思

います。10年3月、いつの日か選手のサポートをすることを目標に株式会社ディオを立ち上げました。現状の事業ドメインは広告宣伝・ブランディングです。設立当初から（財）日本ラグビーフットボール協会の新サイトの立ち上げ、イベント司会、講演アドバイザーなどを務めています。現在はハンドクリームの企画開発にも携わっており、この売り上げの一部を選手のサポートのために使用したいと考えています。将来的には選手のメディアトレーニングやキャリアアトランジションのためのトレーニングをはじめ、さまざまな取り組みを視野に入れていきます。

まだまだ自分自身のキャリア形成だけで精一杯ですが、私自身が成功することで他の選手への勇気づけにもなると思います。また、昨今いわれる子どものスポーツ離れにも貢献できるのではないかと考えています。

先日も「スポーツ選手の明日を考えるフォーラム」の司会を務めさせていただきました。その会場で志を共有できる多くの同志と出会い、私の考えがまちがっていないこと、またその可能性を感じました。私自身の経験を活かし、選手の抱える問題解決の一助になることができれば、もう一度私も輝けるのではないかと

プロフィール
かわい・あや
<主な成績>
94NHK杯9位（NHK杯4回出場）
97全日本選手権優勝
アジア選手権優勝
世界選手権3回出場
98年引退
現在
株式会社ディオ 代表取締役社長



セントラルスポーツ40年の歴史

セントラルスポーツは、今年、おかげさまで創立40周年を迎えました。

東京オリンピックに出場した選手達が、世界に通用するアスリートの育成を目指して創業。1988年ソウル五輪にて鈴木大地氏が金メダルを獲得、当社のコーチ陣の指導力が実証されました。その後、アテネ五輪・体操団体金メダル富田洋之選手、鹿島文博選手、100m背泳ぎ銅メダル森田智己選手を含め、延べ21名のオリンピック選手を輩出。当社は、その確かな指導力をもって、全国約160ヶ所でスポーツクラブを運営しています。



鈴木大地 富田洋之 鹿島文博 森田智己

世界の舞台で活躍する セントラルスポーツのトップアスリート



（左から）新島卓矢選手、星陽輔選手、田頭剛選手、坂本功貴選手（体操競技）伊藤華英選手、坂田龍亮選手、渡辺一樹選手（競泳）



セントラルスポーツ株式会社

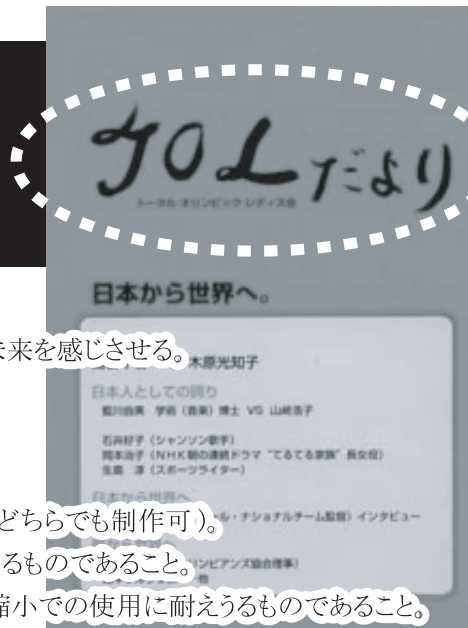
セントラルスポーツインフォメーションサービス
（月～金 10:00～17:00） ☎ 0120-355669

PCから セントラルスポーツ 検索 又は <http://www.central.co.jp>

携帯から 右記のQRコードを対応機種から簡単アクセス!!
QRコード機能のない携帯の方は、「セントラルスポーツ」で検索してください。



TOL だより タイトル題字デザイン募集



●タイトル題字デザインコンセプト

TOL 会創立 25 年を超え、さらなる活動発展の躍動感と未来を感じさせる。

●応募資格

TOL 会員に限ります。

●応募規定

- 1) 応募作品は B5 版白色用紙を使用する(手書き、CG どちらでも制作可)。
- 2) 彩色のものでも可。ただし、モノクロでの使用に耐えうるものであること。
- 3) 大きさは B5 用紙に収まるものであれば可。ただし、縮小での使用に耐えうるものであること。
- 4) 英文字、カタカナ、図案を組み合わせても良い。
- 5) 用紙 1 枚に 1 作品とする(応募点数は何点でも可)。
- 6) 応募作品は、応募者自身により制作された未発表のもので、第三者の権利を侵害しないもの、及び公序良俗に反しないものとする。

※採用決定後、規定 6) に反するものであると判明した場合、採用を取り消すことがある。

●応募方法

- 1) 応募作品は郵送、またはメール添付により事務局に提出。データでお送りいただく場合は、ファイルは bmp、jpeg、ai などグラフィックファイル形式で容量は 4MB 以下とすること。
- 2) 作品とは別に、以下の項目を一緒に提出すること。

①デザインの趣旨(100 字以内)②住所③氏名(ふりがな)④電話番号⑤メールアドレス

●募集締切

2011 年 2 月 28 日(締切日必着)。

●選考・表彰

公正なる審査のうえ 1 点を選出し、作者を第 27 回 TOL 総会で表彰及び副賞(商品券 3 万円)の授与を行う。該当する作品がない場合は現行のタイトルを使用、改めて募集及び選考を行う。

●選考結果

作品及び選考結果は、HP 上、TOL だより 26 号表紙にて発表する。

●注意事項

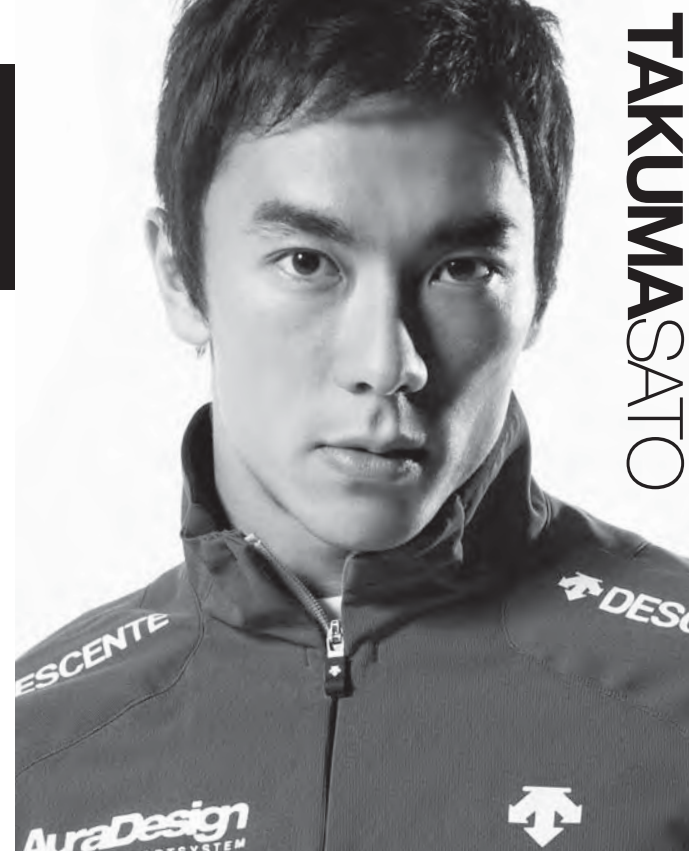
- 1) 作品の著作権、二次著作物の利用に関する原作者の権利等、一切の権利は譲渡を受けて TOL 会に帰属するものとする。
- 2) 採用作品の使用に当たっては、作品を一部修正することがある。
- 3) 応募作品は返却しません。
- 4) 応募に係る一切の費用は、応募者の負担とする。
- 5) 応募に際して記載された個人情報については、本募集以外では利用しません。作者の氏名等については HP 上、TOL だより 26 号において発表します。

●応募、問い合わせ先

トータル・オリンピック・レディース会 事務局 友寄 美江子

〒158-0095 東京都世田谷区瀬田 4-35-10 TEL: 080-5477-3320

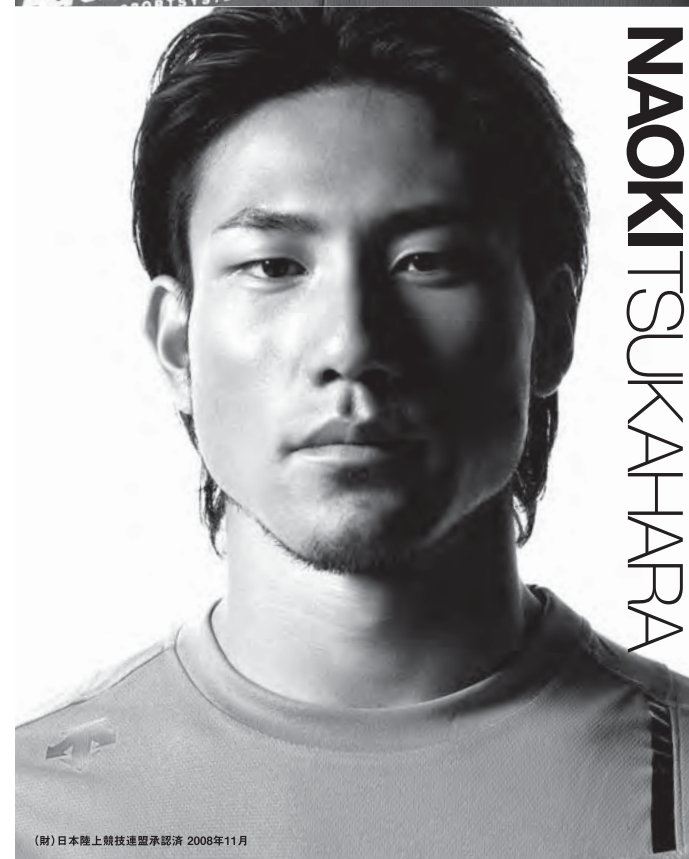
e-mail : jim@olympicladies.jp



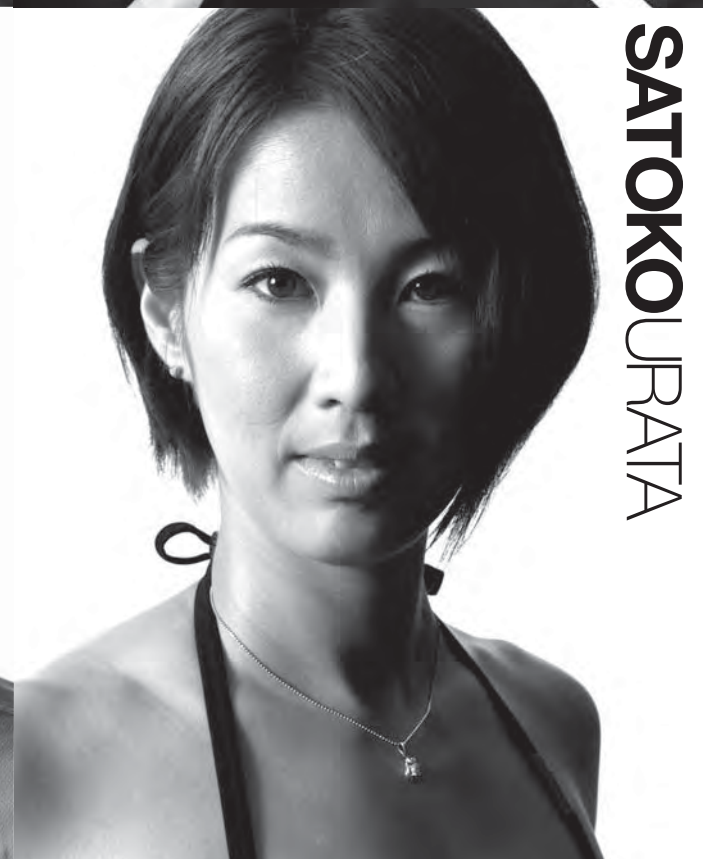
TAKUMASATO



MEGUMIKURIHARA



NAOKITSUKAHARA



SATOKOURAATA

(財)日本陸上競技連盟承認済 2008年11月

アスリートとともに、さらなる高みに挑みつづける。

株式会社デサント お客様相談センター 東京 TEL.03-5979-6101 / 大阪 TEL.06-6774-0359 www.descente.co.jp



事務局より

◆TOL会会長についてのお知らせ

副大臣職解任に伴い、橋本聖子さんがまたTOL会会長に復帰致しました。
会長を柱に幹事一同、頑張っ参りますので、今後共ご協力のほど、お願い申し上げます。

(1) 会費納入のお願い

TOL会は会員のみなさまからご納入いただく会費で運営されています。何かと出費の多いことと存じますが、年会費として2千円を郵便振替でご納入くださいますよう、お願い申し上げます。

(2) 住所変更、ご結婚など事務局宛にご連絡ください。

事務局 〒158-0095 東京都世田谷区瀬田4-35-10

TOL会事務局 友寄 美江子

TEL&FAX 03-3708-8426

jimu@olympicladies.jp

2009年度TOL会活動報告

| | | | |
|-------|--------|-----|---|
| 2009年 | 4月15日 | 幹事会 | TOLだよりについて |
| | 5月11日 | 幹事会 | TOLだよりについて |
| | 6月16日 | 幹事会 | TOLだよりについて |
| | 7月9日 | 幹事会 | TOLだより、最終編集会議 |
| | 9月10日 | 幹事会 | TOLフォーラム2009について |
| | 10月15日 | 幹事会 | TOLフォーラム2009について |
| | 10月16日 | | TOLフォーラム2009、最終打ち合わせ |
| | 10月23日 | | TOLフォーラム2009、前日準備 |
| | 10月24日 | | TOLフォーラム2009 |
| | 11月19日 | | フォーラム反省会&打ち上げ会 |
| | 12月9日 | | TOL会25周年イベント計画 |
| 2010年 | 1月20日 | 幹事会 | TOL会25周年イベントについて |
| | 2月8日 | | TOL会25周年イベント会場、ナショナルトレーニングセンター視察 |
| | 2月22日 | 幹事会 | TOL会25周年イベントについて |
| | 3月9日 | 幹事会 | TOL会25周年イベントについて |
| | 3月22日 | | 「すこやかキッズスポーツ塾」(東京都新宿区にて)、 永田睦子さん(バスケットボール)・白井貴子さん(バレーボール) 派遣 |
| | 3月29日 | 幹事会 | TOL会25周年イベントについて |

25周年、おめでとうございます！



ミミスイミングクラブは、お客様の年齢、体力、目的に応じて
「明るく・楽しく・ゆっくり」を基本に、親切で分かりやすい指導を心がけています。

ミミスイミングクラブ品川 ミミスイミングクラブ市原

ホテルオークラ東京ヘルスクラブ リーガロイヤルホテルミミスイミングスクール
ホテルオークラ神戸ヘルスクラブ リーガロイヤルホテル広島ヘルスクラブ
チャンネルマーククラブフィットネスメンバーズ
キッズスポーツスクエアせんだいミミスイミングクラブ

TOL(トータル・オリンピック・レディース)会会則

(名称・本部)

第一条 本会の名称をTOL会(トータル・オリンピック・レディース)と称し、本部を東京都またはその近郊に置く。

(目的)

第二条 本会は、会員相互の親睦を深め、女性の競技スポーツの底辺拡充、その向上と、高齢化に伴い生涯スポーツの振興を目的とする。

(事業)

第三条 本会の事業は、次の通りとする。

- 一 情報活動を通じてスポーツ啓蒙のための諸事業。
- 二 各種競技スポーツの向上および社会体育振興のための諸事業への協力。
- 三 その他目的達成のための諸事業。

(会員)

第四条 本会の会員は下記により構成する。

- 一 正委員(一般会員)
オリンピッククに出場した女性によって

構成する。公開競技を含む。

- 二 賛助会員
本会の趣旨に賛同、財政的援助を目的とし、役員会の承認をもって会員とする。
- 三 特別会員
体育、スポーツ界に貢献した学術経験者で、役員会の承認を得て構成する。

(組織)

第五条 本会には次の地域に支部を置くことができる。

九州・中国地区、関西・四国地区、東海・北陸地区、北海道・東北地区。

(役員)

第六条 本会は総会の議決を得て、会員の中から次の役員を置く。

名誉会長 一名。
顧問 若干名。
会長 一名。
副会長 若干名。

常任幹事 十名(十五名以内)。
監査 若干名。

(任期)

第七条 役員の特権は次の通りとする。

会長
会を代表し、会の運営にたずさわり総会及び定例会(常任幹事)を招集する。必要に応じ顧問・賛助会員・特別会員の会を催す。

副会長及び常任幹事
会長を補佐し、総会決議事項を協議して、会の運営にたずさわる。

名誉会長
必要に応じ会長の諮問を受ける。

顧問

必要に応じ会長の相談を受ける。

常任幹事会
地域支部長は定例会の出席を義務づけない。但しそのつど報告する。

(会議)

第九条 会議は、次の通りとする。

- 一 会長が招集し、年一回以上開催、次の事項協議決定する。
 - A 事業報告。決算報告。
 - イ 次年度事業計画。次年度事業予算。
 - ウ 必要年度における年度役員の変更。
 - エ その他の改革等会の運営にとり重要事項。
- 二 常任幹事会
必要に応じ、会長が招集し、総会決議事項の遂行を協議する。

(事務局)

第十一条 会の決議を経て事務局を設置する。

(細則、規定、会則の変化)

第十二条 細則、諸規定、必要に応じ別に定める。

会則の変更は、総会の議決によって決定する。

附則

この会則は、平成五年六月六日から施行する。

細則・規定

支部設置に関する規定。
会則に定められた地域に支部を設置することができる。

- 一 但し次の条件を満たすこととする。
 - A 支部会則を別に定める。
 - B 本部会則の目的・事業を会の目的とする。
- 二 さらに地域の特性を加味してもよい。
- 三 支部施設の基本的条件は、圈内会員の半数以上の賛同を得ること。

- 三 会費は本部に納入した会員実数、一人当たり 円()の合計人数分とする。
- 四 毎年活動報告(会計・事業)を四月末日までに終了、支部会長は本部に報告する。

栄典

本会は会員の中から、競技歴、社会貢献度、人物、全てにわたり傑出している会員を名誉会長・顧問に推挙することができる。

名誉会長
名誉会長の年限は本人から特別の意思表示がない限り永年とする。

顧問

- 一 オリンピックにおいて、活躍した会員から人選をする。
- 二 会費の納入を前提とする。
- 三 委嘱の年限は四年とし、再委嘱を妨げない。

(会計)

第十条 本会の会計は、年会費、寄付金、その他をもってこれにあたる。

- 一 会計年度は、その年の四月一日に始まり翌年の三月三十一日とする。
- 二 年会費は次の通りとする。
 - A 一般会員二千円
 - イ 賛助会員一口一万円とし、口数に制限をつけない。

明日をもっとおいしく

meiji

ヨーグルトの故郷
ブルガリア



ヨーグルトの故郷 ブルガリア。
食卓には、今日もヨーグルトが並べられる。
家族の健康を想う気持ちとともに
受け継がれてきたヨーグルトの伝統。
それは今、日本の食卓にも息づいている。



ヨーグルトの正統
明治ブルガリアヨーグルト LB81

明治乳業株式会社



ROSARIUM

ぼら園 ローズアロマオイル RX 〈化粧用オイル〉
顔・からだ用 75mL 1,800円(税込1,890円)

www.shiseido.co.jp/barae/ お問い合わせは ☎0120-81-4710 (9:00~17:00/土・日・祝日を除く) 表示価格は、希望小売価格です。

SHISEIDO

近代オリンピック開催地一覧

| 開催年 | 夏季オリンピック | 冬季オリンピック |
|-------|-------------------|--------------------|
| 1896年 | 第1回 アテネ | |
| 1900年 | 第2回 パリ | |
| 1904年 | 第3回 セントルイス | |
| 1908年 | 第4回 ロンドン | |
| 1912年 | 第5回 スtockホルム | |
| 1916年 | 第6回 ベルリン | 第一次大戦により流回 |
| 1920年 | 第7回 アントワープ | |
| 1924年 | 第8回 パリ | 第1回 シャモニー、モンブラン |
| 1928年 | 第9回 アムステルダム | 第2回 サンモリッツ |
| 1932年 | 第10回 ロサンゼルス | 第3回 レイクプラシッド |
| 1936年 | 第11回 ベルリン | 第4回 ガルミッシュパルテンキルヘン |
| 1940年 | 第12回 第二次世界大戦により中止 | |
| | 第13回 第二次世界大戦により中止 | |
| 1948年 | 第14回 ロンドン | 第5回 サンモリッツ |
| 1952年 | 第15回 ヘルシンキ | 第6回 オスロ |
| 1956年 | 第16回 メルボルン | 第7回 コルチナ、ダンペッツォ |
| 1960年 | 第17回 ローマ | 第8回 スコーバレー |
| 1964年 | 第18回 東京 | 第9回 インスブルック |
| 1968年 | 第19回 メキシコ | 第10回 グルノーブル |
| 1972年 | 第20回 ミュンヘン | 第11回 札幌 |
| 1976年 | 第21回 モントリオール | 第12回 インスブルック |
| 1980年 | 第22回 モスクワ | 第13回 レイクプラシッド |
| 1984年 | 第23回 ロサンゼルス | 第14回 サラエボ |
| 1988年 | 第24回 ソウル | 第15回 カルガリー |
| 1992年 | 第25回 バルセロナ | 第16回 アルバールビル |
| 1994年 | | 第17回 リレハンメル |
| 1996年 | 第26回 アトランタ | |
| 1998年 | | 第18回 長野 |
| 2000年 | 第27回 シドニー | |
| 2002年 | | 第19回 ソルトレイクシティ |
| 2004年 | 第28回 アテネ | |
| 2006年 | | 第20回 トリノ |
| 2008年 | 第29回 北京 | |
| 2010年 | | 第21回 バンクーバー |
| 2012年 | 第30回 ロンドン | |
| 2014年 | | 第22回 ソチ |

TOL会役員

会長 橋本 聖子 (スピードスケート/自転車)
 副会長 平松 純子 (フィギュアスケート)
 副会長 竹宇治聡子 (競泳)
 副会長 吉田 昌子 (バレーボール)
 事務局 友寄美江子 (フェンシング)
 会計 山口 香 (柔道)
 会計補佐 北田 典子 (柔道)
 会計監査 齊藤美佐子 (競泳)
 幹事 村山よしみ (競泳)
 春日 宏子 (競泳)
 藤本 正子 (陸上)
 坂 佳代子 (体操)
 山崎 浩子 (新体操)
 白井 貴子 (バレーボール)
 千種 寿代 (ライフル射撃)
 高柳 裕子 (フェンシング)
 田辺 陽子 (柔道)
 春岡杜史子 (競泳)
 大林 素子 (バレーボール)
 萩原 智子 (競泳)
 田中 雅美 (競泳)
 佐野智恵子 (体操)
 陣内貴美子 (バドミントン)

編集後記

私どもTOL会が毎年発行しています「TOLだより」も今回で25号となりました。この数字は東京オリンピックから20年目に創立され、初代会長・小野清子さんをはじめ、幹事の方々のご努力により、25年という長い期間受け継がれてきたことを示しています。今回の記念号で、会員のみなさまに「オリンピックと私」「女子スポーツに期待すること」という二つのテーマで原稿をお願いしましたところ、ヘルシンキから現在にいたるまで、63名のオリンピックとパラリンピアンので、

みなさまからご協力をいただくことができました。おかげさまで、どれも興味深いお話ばかり。特に今から数十年前のオリンピックに出場された方々の話は、次世代まで語り次いでもらいたい、とても読み応えのある内容となっております。強い精神力と確かな技術、それを追い求めることの苦労や努力。女性オリンピックアンのたくましさや凝縮されたこのTOLだより25号をお楽しみいただければ幸いです。最後にになりましたが、記念号作成にあたり、ご協力くださいましたみなさまに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。(TOL副会長 バレーボール/吉田昌子)

TOLだより 第25号

発効日 平成22年 9月
 発行者 TOL会
<http://www.olympicladies.jp>
 TOL会事務局
 〒158-0095
 東京都世田谷区瀬田4-35-10
 TOL会事務局 友寄美江子
 TEL & FAX 03-3708-8426
jimu@olympicladies.jp

編集 永田 千恵

制作
 〒880-0852
 宮崎県宮崎市高洲町50-4
 TEL 0985-27-8899
 株式会社 エス アイ エス

表紙
 題字 小野 清子
 TOL会シンボルマーク
 デザイン 川端 一誠